

令和2年 第8回教育委員会定例会議 会議録（第1回）

- 1 日 時 令和2年8月6日（木）
開会 13時15分
閉会 19時05分
- 2 会 場 金沢市役所 第二本庁舎 2階 2202会議室

3 出席委員（7名）

教 育 長	野 口 弘
教 育 委 員	田 邊 俊 治
〃	岡 能 久
〃	大 島 淳 光
〃	丸 山 章 子
〃	木 村 陽 子
〃	長 澤 裕 子

事務局	教育次長（兼）学校教育部長	加 藤 弘 行 (除く議案第27号)
	教育総務課長	堀 場 喜一郎 (除く議案第27号)
	教育総務課担当課長（兼）課長補佐	松 田 潤一郎 (除く議案第27号)
	担当部長（兼）学校職員課長	羽 場 政 彦 (除く議案第27号)
	学校職員課担当課長・管理主事（兼）課長補佐	田 村 創 (除く議案第27号)
	担当部長（兼）学校指導課長	寺 井 義 春 (除く議案第27号)
	学校指導課担当課長（兼）課長補佐	青 山 雅 幸 (除く議案第27号)
	市立工業高校事務局長	新 出 光 昭 (除く議案第27号)
	生涯学習部長	中 坂 暢 江 (除く議案第27号)
	生涯学習課長	村 田 英 彦 (除く議案第27号)
	図書館総務課長 （兼）玉川図書館長 （兼）近世史料館長、城北分館長	池 田 光 穂 (除く議案第27号)
	教育プラザ総括施設長 （兼）地域教育センター所長	松 本 季 之 (除く議案第27号)
	学校教育センター所長	熊 谷 有 紀 子 (除く議案第27号)
	文化財保護課長	納 谷 ***

(除く議案第27号)

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

委員長

松原道男

(限る議案第27号)

副委員長

加藤隆弘

(限る議案第27号)

教科用図書調査委員

(限る議案第27号)

4 案件

非 議案第27号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について (学校指導課)

[主な質疑・応答の内容について]

○ 議案第27号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について (学校指導課)

(説明の概要) 本日は、令和2年度金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員長の松原道男様、副委員長の加藤隆弘様が出席されている。また、種目ごとの調査委員長も控えている。

別添資料1ページ。本日の委員会に至る経緯について報告する。5月28日の第1回選定委員会を受け、5月29日に第1回調査委員会を開催した。その折に調査委員の皆さまには教科書を持ち帰っていただき、調査研究を進めていただいた。約4週間の調査研究期間を経て、教科ごとに日を設定し、6月25、26日に第2回調査委員会を開催した。それまでの調査研究の結果を調査研究報告書A-1、A-2としてまとめていただいた。また、金沢市立中学校24校にもそれぞれ研究委員会を立ち上げ、調査していただいた。その調査研究の結果をまとめたものが資料Bの調査研究報告書である。

さらに、各学校の調査研究のため、市民、保護者の方々に教科書を見ていただくため、教科書展示会を開催した。金沢市教育プラザ富樫において6月12～25日の14日間、常設展示を行うとともに、金沢市立中学校の全24校において6月10～25日まで、各学校3日間ずつ移動展示を行った。なお、石川県では6月12～25日を教科書展示期間とし、金沢市内では教育プラザ富樫の他、石川県教員総合研修センター、県立図書館に教科書を展示した。これらの展示会では意見箱を設置し、広く市民や保護者の方々にも閲覧いただくとともに、意見を寄せていただいた。

別添資料2ページ。期間中、教育プラザ富樫には一般の方が97名来場し、教職員等も合わせると115名が教科書をご覧になった。各学校での移動展示には一般の方が27名来校し、教職員等も合わせると700名が教科書をご覧になった。両展示場を合わせると、一般の方が124名、教職員等を合わせると815名が教科書をご覧になったことになる。これらの調査研究報告ならびに資料等に基づき、7月15、21、22、28日に選定委員会を開催し、教科書採択に係る答申内容について審議し、本日、ここに答申書をお渡しする運びとなった。

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会の松原委員長より、金沢市教育委員会の野口教育長に、令和3年度使用中学校教科用図書の採択に係る答申書を提出していただく。

選定委員長

諮問を受け、公平かつ慎重に審議を行い、中学校教科用図書の採択に関しての審議の結果をここに取りまとめましたので、答申させていただきます。

教育長

松原委員長、加藤副委員長をはじめ、委員の皆さまには5回にわたる選定委員会を開催いただき、この答申をまとめるに当たっても、毎回、審議予定時間を超えて熱心にご審議いただきました。深く感謝申し上げます。これから教育委員の皆さんで、この答申を大事にしながら審議を進めていきたいと思っています。また、これから4回にわたり教育委員会議も開催しますが、その折にもご出席いただくことになります。長時間になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

選定委員長

ありがとうございました。

教育長

初めに、選定委員長より、答申書および答申書以外に配布されている資料の概要および見方についてご説明していただきたいと思います。

(説明の概要) この答申書については、全ての発行者について金沢市の採択方針に基づき調査研究をした調査研究委員会、各学校の研究委員会の報告、教科書展示会に寄せられた意見等を基に、生徒にとって分かりやすいものか、学びやすいものかなど、全体としてのバランスも重視し、選定委員それぞれの立場からの幅広い審議を行い、発行者の優れている点を中心にまとめたものである。採択に当たり、審議の参考にしていただければと思う。

資料A「教科書用図書調査委員会調査研究報告書」は、各教科の実践に優れた教員を中心とした調査委員会において、約4週間、綿密に調査研究を実施し作成した報告書である。報告書には各種目に「教科書用図書調査委員会調査研究報告A-1」と「教科書用図書調査委員会調査研究報告書A-2」がある。「教科書用図書調査委員会調査研究報告書A-1」の縦の欄は、金沢市の採択方針に基づき全教科共通で設定した9つの調査研究項目である。「特別の教科 道徳」では7つの調査項目となる。横の欄は発行者を発行者番号順に載せている。「教科書用図書調査委員会調査研究報告書A-2」は、各教科の特徴がより一層明確になるよう、学習指導要領に示された内容、分量等が教科書にどのように反映されているかを比較検討できるよう作成した報告書である。縦の欄は各教科の学習内容を、学習指導要領に基づき、領域、分野、または単元別に分類したものである。この調査研究項目は種目によって項目数が異なっているため、それぞれの種目を審議する際にはご留意願いたい。報告書A-1およびA-2ともに、調査研究項目に対する発行者の優れた点が記されている。

資料B「各中学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書」は、金沢市立の全中学校24校で調査研究し、各発行者の優れた点を中心に挙げていただき、それを事務局で取りまとめたものである。資料Bの別紙は、優れている点以外について、ご意見のあったものをまとめたものである。

資料Cは、教科書展示会に寄せられた市民の意見をまとめたものである。

資料Dは、各団体から教育委員会に提出されている教科書採択に係る要望書である。

「石川県教科用図書選定資料」は、参考資料として石川県教育委員会が作成し、教科書採択の指導・助言・援助として金沢市に送付されたものである。発行者ごとに特徴、特記すべき事項が書かれている。

これらの報告書や資料を基に、全16種目の全ての発行者について答申書を取りまとめた。

教育長

この後の進め方については、選定委員会からの答申を基に委員の皆さまのご意見を頂き、この教育委員会議で採択していきたいと思っていますので、会の進行にご協力をお願いします。

ここからの進め方について確認します。まず、選定委員長に1種目についてご説明頂いた後、その種目についての質疑応答を行います。終わりましたら、選定委員長、選定副委員長、調査委員長には一度ご退席頂き、その種目について審議し、採択を行います。審議の途中で確認したいことな

どがありましたら、再度、選定委員長、選定副委員長、調査委員長に質問や説明等を求めることができます。

本日は長時間にわたりますが、国語、書写、社会（地理的分野）、休憩を挟んで、地図、保健体育、美術の順に1種目ずつ採択を行いたいと思います。

○種目「国語」

[国語：説明の概要（選定委員長）]

4者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。東京書籍はA-1の項目6とA-2の項目6、三省堂はA-1の項目7とA-2の項目1、教育出版はA-1の項目5とA-2の項目5、光村図書はA-1の項目2とA-2の項目2が特に優れている。

質疑ではまず、シンキングツールのものの評価について質問があった。これに対しては、A-2の情報の扱い方に関する項目で光村図書を評価しており、三省堂も「読み方を学ぼう」や思考の方法の図解が分かりやすく工夫されている点について良い評価をしたという回答があった。

次に、QRコードについて、子どもたちはどのような形が使いやすいのかという質問があった。これについては、各者で扱っているが、光村図書と東京書籍が非常に優れているという回答があった。具体的には、光村図書は各ページのQRコードに情報が収められ、そこを読み取ると情報が出てくる形になっている。内容としては作家のインタビューが多く、教材への興味関心を高めることに大変有効である。例えば「野原はうたう」の作者である工藤直子さんのインタビューが出てきて、この詩を読みたいという気持ちに本当にさせられる。東京書籍は、QRコードの中に収められている内容を一覧で見ることができ、ページにDマークが入っている。三省堂は、「読書の広場」と古典教材のところにはQRコードがなく、古典の訳や本文、映像資料が大変少ない。教育出版も同様であり、興味関心を高めるというよりも、発展的な学習につなげる役割を持つ内容ということだった。

次に、QRコードの内容は、教師が使うことを前提にして評価したのか、それとも子どもが見ることを前提にして評価したのかという質問があった。これについては、子どもたちの家庭学習や予習段階で興味関心を高めるため役立つという点と、教師自身が授業中に映し出すことにより単元の導入の興味付けに使えるのではないかという点の、両方の側面から評価したという回答があった。

次に、学校のネット環境についての質問があった。これについては、GIGAスクール構想によって今年度中に1人1台の学習用端末が本市においても整備されるので、来年度は、学校の授業において子どもたちは1人1台のタブレットを持ち、QRコードを読んで教科書を使う。家庭においてはICT環境に差があるため、今は学校の授業の中でQRコードをいかに有効に活用していくかということで考えているとの回答があった。

次に、小学校の学びとの関連についての質問があった。これについては、東京書籍には前学年で学んだことと今学年で学ぶことが示されているのが良い点である。他者についても多少小学校で学んだことが書いてあるが、光村図書については、学年ごとにこういう学びをしようという記述が非常に多く、小学校で学んだことの記述はあまりないという回答であった。

次に、これまでの学習の積み上げに関する各者の違いについて質問があった。これについては、東京書籍は巻末に3年間の言葉が一目で見渡せる表があり、確認しながら勉強できることが高い評価になった。三省堂は、巻末に「読み方を学ぼう」という一覧が3年間を通して載っているが、あくまでも読み方のみの限定的なものである。教育出版は、「学びナビ」というコーナーで、例えば1年生では必ず「小学校の教科書では」という記載があり、少し前の学年との関連が分かるようになっている。光村図書は、3年間を見通した力に関する表はないという回答があった。

その後の選定委員会では、教育出版は村上春樹さんなどの現代文学を掲載し、三省堂はピース又吉さんや歌手のゆずなどの題材を取り上げており、子どもたちがそれをきっかけに詩に入っていけるように工夫されているという感想があった。また、教科書によって2段になっているペー

ジもあり、それが個人的にはすごく読みにくかったという感想があった。

[国語：質疑応答]

教育委員

單元ごとに作品を読み解き、それを素材にして思考を深めていくのが国語の教材の特色だと思います。各者ともさまざまな教材が盛り込まれており、共通するものもあります。それらを対比してみると、同じ素材を扱っていても、その扱い方には随分違いがあると思います。そのあたりについて、各者の教材の読み解き方、素材の取り扱い方等に顕著な違いについて、とりわけ学習指導要領が改訂されたということもあるので、そのあたりも踏まえた各者の特色を伺います。

もう一つは、国語の教科も、子どもたちが足を運んで調べ物をして表現していく活動が、教科書や単元に盛り込まれるようになってきたと思い、そのあたりの各者の特色について伺います。

選定委員長

新しい学習指導要領では、子どもが興味を持ち、主体的に考えて、それを表現していくということになるかと思えます。特にA-1の項目1、2、3がそれに関わってくるということで、調査委員長の説明でも、光村図書などはそういう問題解決のところが比較的評価されているということでした。それについては、調査委員長が具体的に各者の特徴を比較されると思えます。

2番目については、より具体的になりますので、実際の子どもたちの調べ活動の状況については、調査委員長から説明していただこうと思えます。

国語調査委員長

まず、各発行者共通の教材に対する読み解き方の点についてです。例えば『おくのほそ道』の読み解き方は、光村図書が少し際立っているという評価をしています。光村図書は、3年生の160ページに「学習の手引き」があります。そこに「学習の最初に見通しを持つ」というところがあり、学習活動、「『夏草』を読み、心に響く俳句について発表しよう」、そしてその後目標があります。他者のものは最初に目標だけが書いてあります。光村図書だけが学習活動を最初に明示しています。

つまり、今回の学習指導要領で「言語活動を通して資質・能力を育成する」ことが教科目標として明確に位置付けられたことに、光村図書だけが合致しているというか、最初に学習活動、言語活動を明示し、それに向かって学習していく形になっています。これによって生徒は、一番心に響いた句を選んで説明するために、『おくのほそ道』に載っている句をその表現に着目して解釈せざるを得なくなります。そこに必要感と目的意識が生まれて、主体的な学びへとつながると考えられます。他の発行者には言語活動は明示されていません。光村図書だけが言語活動を明記したということで大変良い評価になっています。

子どもたちが調べ学習で足を運んでという点に関しては、調査委員会では調査していませんが、いろいろなレポートを書いたり、図書館に行って調べ活動をしたりという活動は、各者ともおおむね同様に示されていると思っています。

教育委員

教科書を開いてみると、「話し合ってみよう」などの工夫がそれぞれに盛り込まれているので、意識されているとは思いますが、順を踏んでというか、そのあたりの明示の仕方が光村図書は際立っているという説明だったと思いました。資材等に関しては、いずれも甲乙付け難いということでもよろしいですね。ありがとうございます。

教育委員

委員の質問の2点目と少し関連するかもしれませんが、自ら表現をすることについて、効果的な指導がある教科書はどんなものかということを知りたいと思います。国語では、自ら考えて文章を作り、それを周りに伝え

ていくスキルをぜひ子どもたちに養ってもらいたいと強く思っています。光村図書の1年生の270ページに「豊かに表現するために」という項目があり、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」という二つの枠組みの中で、いろいろと他のところにも飛んで学べるようになってはいるのですが、他の発行者の教科書でも、何か書くことに関して重点的に記述しているようなものや特徴があれば教えていただけますか。

選定委員長

選定委員会では表現におけるシンキングツールについての質問があり、それについては光村図書が非常に充実しており優れているということでした。今のご質問には、また違った表現の部分もあると思いますので、調査委員長により具体的に、子どもたちが書いたり表現したりすることについてご説明いただきたいと思います。

国語調査委員長

270ページのところを指摘していただきましたが、「学習の窓」というものが教材の巻末に一覧になっています。これはA-2の「話すこと・聞くことに関する事項」の評価と少し絡んでくると思うのですが、書いたことについてどのように表現していくかということについて、こちらも光村図書だけが他者と比べて、高い評価になりました。

光村図書の1年生の146ページは、「グループディスカッションをする」ということで、「話す・聞く」の活動が見開きで書いてあります。他の発行者も、表現ということでグループディスカッションを載せていますが、グループディスカッションをする目的、何のためにこの活動をするのかという意味にまで触れているのは光村図書だけでした。表現する教材はたくさんあるのですが、この活動は何のために行うのかということまでしっかり押さえた上で活動させているのは光村図書だけだったと思います。

教育委員

文章を書く能力についてどのように指導しているかという点は、他の教科書も含めて何かありますか。

国語調査委員長

A-2の項目5の「書くことに関する事項」で評価しています。東京書籍、光村図書、教育出版が良い評価になっているのですが、東京書籍に関しては、1年生の7ページに「書くこと」という表があり、付けたい言葉の力を系統的に教えるようになってはいます。例えば同じ教科書の70ページの「調べて分かったことを伝えよう」という食文化のレポートで、ここで付けたい力はこういうことだという形になっています。これが1年、2年、3年というふうが続いていきます。

光村図書で高い評価になっているのも「書くこと」です。3年生の34ページでは、「修学旅行記を編集する」という書く活動が設定されています。4月にこういうタイムリーなものを載せて、さらにここで学んだ書く力を35ページ左端の「つなぐ」という形で、「学校生活や日常生活、将来に向けてつないでいってくださいね」という表記があることが大変素晴らしいということで、高く評価しました。

教育出版は大変興味深い言語活動が設定されています。2年生の268ページには「連作ショートショートを書く」という書く活動が入っています。4人1組でショートショートを書いていく活動が仕組まれていて、子どもたちが大変興味を持って書くことができるのではないかとということで、高く評価しました。

教育委員

大体どの教科書も巻頭に、1年間で何を手に入れるか、それをどのようにして手に入れるのか、何に力を入れてやっていくのかという、見通しが分かるような表現が出ているのですが、これについて何か甲乙を付けるような意見はありますか。

選定委員長	選定委員会では、これまでの学習の積み上げとして、東京書籍は巻末に3年間の「言葉の力」を一目で見渡せる部分があり、三省堂も巻末に「読み方を学ぼう」というものがあるということでした。調査委員長の方でさらに詳しく付け加えがありましたらお願いします。
国語調査委員長	見通しを持つということで、どの発行者も、最初にこの教材でこんな力を付けるということについては大差ないと思っています。
教育委員	項目9の金沢型学習スタイルのところで、自分で考えて、みんなで話し合っただけで考えを深めることがうまく反映できている教科書はどこの発行者のものでしょうか。
国語調査委員長	こちらについても光村図書が金沢型学習スタイルに合致しているのではないかという評価でした。例えば1年生の54ページでは、好きなことをスピーチで紹介する言語活動が載っており、付けたい力は「伝えたいことを明確にして話の構成を考える力」なのですが、今回から光村図書は学習の手引きが見開き2ページになっています。「生かす」「集める」「整理する」「組み立てる」「伝え合う」「振り返る」「つなぐ」という一連の流れが、金沢型学習スタイルに合致しているという評価でした。他の教材に関しても金沢型学習スタイルの形になっています。例えば、同じ1年生の212ページで、「見通しを持つ」「捉える」「読み深める」「考えを持つ」「振り返る」という形が、金沢型学習スタイルの「つかむ」「考える」「伝え合う」「まとめる」という形に合致しているのではないかという評価でした。
[国語：審議] 教育委員	最初に調査委員会の方でQRコードの話が出ていたと思いますが、東京書籍のQRコードの内容は非常に分かりやすいと思いました。特に、子どもたちがどちらかというと苦手としているであろう文法などを、ゲーム感覚で学習できる仕組みが組み込まれていたり、古典の朗読も映像資料が入っていたりしていました。光村図書もそこは非常に優れていたのですが、その他に比べるとデジタルコンテンツについては非常に豊富だと思いました。
教育委員	今回、選定委員会を参観させていただいたのですが、A-1の項目1、2、3がすごく大切なのだということを事前には知らなかったのですが、勉強させていただきました。確かに1、2、3は学ぶための基本的なことが書いてあると思っています。 教科書の体裁の良さについては、東京書籍は全種目にわたってそつがないという感じがしました。国語についても東京書籍はその辺がきれいにできていて、文字や写真や挿絵などもいいと思いました。また、東京書籍はQRコードもかなり進んでいると思いました。これ以上進んでいくと、先生は何を教えるのかなというぐらいのプロセスが書いてあって、大切な要点を当然この中できちんと先生が教えられるのだとは思いますが、私たちが学んだときと比べても雲泥の差で、きめ細かい指導になると感じました。
教育委員	東京書籍に関しては、「新しい国語」という題が表紙に付いていて、これから中学生として学んでいく上でいい言葉だなと思いました。それと、学習の見通しを順を追って明らかにしていて、目標がしっかり持てることはとてもいいことだと思いましたし、「言葉の力」一覧で3年間順を追って分かるように書いてあるのも工夫されていると思いました。どの教科書も、言葉は違うけれども、学んで、対話をして、学びを深める点では、新学習指導要領にのっとった構成になっていると感じました。

教育委員

三省堂は、A-2の項目1で評価が高いですが、語彙を増やしていくところがとても充実しているのがこの教科書の優れた点の一つであり、さすが三省堂だなと思っています。今、子どもたちの語彙力がすごく下がっていることが問題になっていると思っています、何となく映像も簡単に送れますし、LINEでも極めて簡単な言葉でやりとりしてニュアンスを感じ取ることが子どもたちの間で広まっている中、語彙に着目してそれをきちんと教科書にしているところが優れていると感じています。

教育委員

どの発行者も工夫が凝らされていて甲乙付け難いのですが、教育出版が面白いと思ったのは、目次を開いてみると、他の発行者も似たようなところはありますが、各まとまりの特色、命題が分かるようになっていることです。例えば2年生だと、最初の詩や小説は自己、他者、物語を組み合わせさせて、「かすかな潮のにおいは、そこにもあった」というちょっと興味を引くような表現を掲げて、ここで考えるということを示しています。他者にはここまでの作りはなかったので、子どもたちが、この表現で意図しているのは何なのだろうということを考えながら読み進めたり、取り組んだりしていけるような作りに工夫されていると思いました。

教育委員

光村図書は、最初の「学習の見通しを持つ」というところがとても分かりやすいです。見開きになってまとめられているということもありますが、生徒にとってもこういうふうに見通しを持って1年間で学ぶということが大変分かりやすくまとめられていると思います。見開きの後ろを見ると「思考の地図」ということで、「思考を広げる」「思考を整理する」「思考を深める」とあるのもとても分かりやすく、他の発行者と比べて最初の導入がとてもいいと思います。

教育委員

今の委員のご指摘にあった、見通しをどのように持っていくのかということに加えて、その教材で学んできたことをどうやって展開していくのかという部分が、金沢型スタイルに合致しています。しかも、それぞれの「読み取り方」のところに「見通しを持つ」「捉える」「読み深める」と分かりやすく表記してあって、以前はこうではなかった気がするのですが、展開をより明示した作りになっている点がとても分かりやすいです。しかも、主体的・対話的で深い学びをどのように深めるのかということも意識して、「読み深める」や「捉える」ということが鮮明に示されているので、何をどう深めるのかということに及ぶような活動に、より結び付きやすいと思います。

教育委員

私も同じ考えで、1年生の30ページからの「情報を的確に聞き取る」というところが本当に分かりやすいと思いました。楽しくそこのところを読ませていただいて、後の方も同じような展開がされているということで、いいのではないかと思います。3年生では「情報社会に生きる」ということで、自転車のことが書いてあったりして流れも分かりやすいと思います。

教育長

皆さんのお話を伺っていると、東京書籍と光村図書の2者がいいのではないかと思います。この2者に絞って話を伺ってもよろしいでしょうか。ありがとうございます。では、もう少し審議を深めたいと思います。

その前に、委員長から頂戴した評価について、これはちょっとおかしいのではないかとこの点がありますか。評価はこれで妥当ということではよろしいでしょうか。

それでは、この評価は妥当ということ、2者に絞って審議を深めたいと思います。今ほどそれぞれの発行者についてご意見を頂戴しましたが、

加えてご意見を頂戴できればと思います。

教育委員

結論から言うと、光村図書がよろしいのではないかと考えています。調査研究報告書にもありますが、項目2の思考力・判断力・表現力が断トツのポイントになっていて、内容を見ても先ほどからの皆さんのご意見にあるように、「捉える」「読み深める」「考えを持つ」「振り返る」というのが、教職員の皆さんにとっても非常に授業が展開しやすいのではないかと思います。

デジタルコンテンツは東京書籍の方が非常にいいと思いますが、デジタルコンテンツはこれからもっと開発されていくでしょうし、あまりにも素晴らし過ぎて、使う方がなかなか使いこなせないというのがICTには割と起こり得る話ですので、このあたりよりも教科書としての内容や授業のしやすさを考えると、光村図書が優れているのではないかと思います。

教育委員

結論として、私も光村図書がより優れていると感じています。3年生の教科書を見比べてみたのですが、3年間を総括する段階のお子さんが見るものとして、光村図書は最後の232ページ以降の「学習を広げる」でさまざまな視点での展開がされています。文章を読み込む力や、文章を書いたり情報を整理したりする力という、これからさらに深い学びをしていく段階のお子さんにとって大切なものがかなり細かく、本当に充実した形で整理されて載っています。それぞれのお子さんが興味のあるところにより興味を持っていく導入のまとめとして、とてもよく出来上がっていると感じています。

一方で、東京書籍は本当によくまとまっていて、教科書としては素晴らしい水準のものだというのは間違いないと思っていますのですが、同じように中3の最後の総括的なところ、233ページ以降の基礎編という項目で、「多面的に捉える」とか、大事な要素に「論理的に読む」とか、さまざまなものはあるのですけれども、やはり展開の豊富さという点で比較すると、光村図書の方が断トツに優れていると感じています。

教育長

現場にいたときによく先輩から、「教科書は内容だけではなく、将来に向けて学び方を学ぶ大事なものだ」と言われた記憶があります。まさにそこにつながるお話だったと思いました。

それでは、東京書籍と光村図書の2者について、採択したい方に挙手をお願いします。

—挙手—

教育長

全会一致で光村図書に決定しました。

○種目「書写」

[書写：説明の概要（選定委員長）]

4者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書で示した。東京書籍はA-1の項目5とA-2の項目2、三省堂はA-1の項目6とA-2の項目1、教育出版はA-1の項目4とA-2の項目2、光村図書はA-1の項目3とA-2の項目1が特に優れている。

質疑ではまず、デザインと文字について東京書籍は高く評価されているが、他の3者の評価についての質問があった。これについて、調査委員会ではキャリア教育関連を中心に調査し、東京書籍は職場体験関連のところ非常に充実しているという回答があった。例えば「職場を訪問しよう」では、2年生のときに総合的な学習の時間で職場体験を行い、書写で身に付けた力を職場体験でどう生かすかを考えさせるとともに、お礼状などの手紙やメモの取り方などの具体例が示されている点、「仕事の中の手書き文字」では、さまざまな文字に関わる職業を紹介している点が

評価されている。光村図書は、金沢21世紀美術館のデザインをした方の話を紹介したり、「壁新聞を作ろう」ということで、多くの学校で職場体験の経験を壁新聞にして紹介している点が評価されている。その他の2者については、主に文字に関する職業に携わる人の紹介がされ、職場体験の部分が少し弱く、他の発行者と比べて、やや低い評価となっている。

次に、QRコードで見られる動画の違いについての質問があった。光村図書は多くのQRコードが教科書に適切に掲載され、学習する際に活用しやすい工夫が見られる。例えば、基本的な筆遣いの動画をQRコードで見ることができ、「天地」や「春風」と書くときに、その筆遣いを動画で出すことができる。また、関連する内容も豊富に載せてあり活用しやすい。東京書籍と教育出版の2者は、30ほどの多くのコンテンツが上がっている。東京書籍は関連する内容も載せているが、教育出版は文筆の動画のみである。三省堂は最初の「学習のはじめに」のところで、筆の持ち方や用具の扱い方など基本的な部分の動画を載せているが、文筆などに関しては掲載されていないという回答があった。

次に、教科書と書写のセットに加え、QRコードを見るためのタブレットを置くと、物理的なスペースに問題はないのかという質問があった。これについては、移動できる大型モニターが大体どの学校にもあり、それで動画を見て生徒とポイントを共有した上で実際に毛筆を使うのが現実的だが、家庭に戻ってタブレットで見て繰り返し練習するという活用もできるだろうという回答があった。

次に、実際に動画なども見せながら書写に使える時間はどれくらいなのかという質問があった。これについては、第1・2学年で年間20単位時間程度、第3学年で年間10単位時間程度という回答があった。実際に年間20時間程度、10時間程度で指導することを考えると、練習で精一杯で、動画等を見せて生かすことは難しいのではないのかという質問もあった。これについては、金沢市教育委員会が1年生は毛筆で16単位時間程度、2年生は14単位時間程度、3年生は5単位時間程度という基本の数字を示しており、どの学校も大体その程度実施しているという回答があった。時間については調査委員会の中でも話があり、例えば、東京書籍は資料が充実していて面白いが、これをどう取捨選択していくかは難しいところであるという話が出た。光村図書は割とシンプルで過不足なく、使い勝手が良いのではないのかということでも評価されている。

その後の選定委員会では、QRコードなどの動画を1人1台のタブレットで見られるようになると、自分のペースで見ようと思ったときに音量を切る必要があるが、ミュートが難しいものもあるので、そのような点も採択の評価として考慮する必要があるのではないのかという指摘があった。また、大型モニター等の活用については、ぜひそのような活用をして学習に生かしていただきたいという要望があった。

[書写：質疑応答]

教育委員

実技系の教科でもあるので、QRコードがかなり有効な役割を果たすと思いますが、そのQRコードが何のQRコードかということがリストとして示されていなかった気がします。他の教科ではそのあたりが明示されていたと思いますが、書写に関してそのQRコードが何を示しているのかを示す一覧表のようなものがある者はありますか。

書写調査委員長

私どもも調べてみましたが、特に各者そろえられていなかったもので、各自でQRコードの数をそのまま調べました。

教育委員

補足的に付けられているわけでもないのですか。

書写調査委員長

基本的には、運筆は3者ともきちんとアップされています。関連するものに関しては、例えば知識に関連することは、直接その教科書の発行者が作るものではないところに飛んでいくものなど、さまざまな工夫がされています。

教育委員	書写ブックを付けている者もありますが、これは自学自習用の役割を果たすものなのではないでしょうか。授業で活用するわけではなく、自学のためのものでしょうか。
書写調査委員長	今回からこのような別冊が付いてきたので、まだ現実的にどのような活用をするかということは現場ではないのですが、調査委員会では、毛筆で学んだことを硬筆の学習に生かすという、本来の書写の目的でこれを授業で使うことは有効だろうという話がありました。
教育委員	授業の中でも活用し得るということですね。
書写調査委員長	そのように考えています。
教育委員	評価は光村図書が高く、内容も素敵だと思いますが、墨のすり方が出ていない気がします。他の教科書にはみんな出ています。
書写調査委員長	どの発行者も、基本的な筆の持ち方、姿勢については載っています。すずりの使い方、墨のすり方も含めて基本的には小学校で学びますが、冒頭などに示されています。
教育委員	小学校で既に習っているから中学校では光村図書だけが書いていないのではないかと思ったのですが。
書写調査委員長	すり方については動画は載っていません。
教育委員	光村図書は、硬筆の文字の書き方がとても読みやすいけれども、硬筆の基本に基づかないような書き方をしています。84ページなどでは、デザインということで、字も何となくかっこつけてしまうのですが、その辺は授業でどのように指導しているのですか。
書写調査委員長	いろいろな字のデザインがあることについては知識として教えています。書写の中であまり深く時間を取ることはできませんが、どういう印象を持つかということを実際に話し合わせたこともあります。
教育委員	デザインと文字という捉え方があって、素敵だなと感じる生徒たちもいて、そういった書き方も逆に身に付けられると思いました。
[書写：審議] 教育委員	東京書籍は、例えば書を書くときに、単に手本をもとに書くだけではなく、「見つけよう」というのが最初であって、文字を見てどんなことが思い浮かぶかという、考えるワンステップがまず設定されて、それを次の段階で書くときにきちんと確かめて、学んだことを他に生かそうという形になっています。単に写し取ってきれいに書くというのも書写の基本といえますが、各作業の前に考えようという思考を促すような作りになっているのはとても良いと思います。
教育委員	先ほどの話にもあったように、キャリア教育をすごく意識して、入学願書を書く例まで載っていて、内容が大変盛りだくさんだと思います。見ているとすごく面白いと思うのですが、時間数との兼ね合いで中途半端に終わってしまうのか、あるいは例えばここは家庭学習でやってきなさいという形にするのか、そのあたりで少し疑問が残りました。内容的にはとても充実しています。

教育委員	<p>10ページに、基本的な書き方について書いてあります。分かりやすく、筆を置くときの音を「すとん」と書き、さっといくところを「すう、ぴたっ」と書いてあるのですが、ちょっとした力の入れ具合、力の抜き具合に関してこそ、QRコードを入れてあったらよかったという気がしています。</p>
教育長	<p>字を書くときのQRコードの配置を考えると、光村図書がそれぞれに配置されて分かりやすいと思いました。東京書籍はDマークのところであったん会社にアクセスして、そこからDマークの中身を取ってくる感じなので、ワンクッション必要という感じがします。</p>
教育委員	<p>三省堂は、25ページに筆順の意義について書いてあります。漢字の筆順は決まっていると思いますが、こういうことが改めて書いてあることと、最後の資料編は今後の日常に非常に生きるのではないかと思います。やはり書写は、今後の実生活に生かしてほしいと思います。パソコンの字ばかりでなくお手紙を出す上でも、自分で書いた字であればそんなにうまくなくても気持ちが通じるので、将来応用してもらおうという意味で、子どもたちにとって役立てばいいと思いました。</p>
教育長	<p>私が学校を訪問しながらいつも気になっているのは、子どもの鉛筆の持ち方です。他の教科書はゆっくりと見ていないので申し訳ないのですが、三省堂の12ページを見ると鉛筆の持ち方があります。A、B、C、Dがあって、正しいのはAの持ち方だと書いてあるのですが、これができる子が最近では少なくなってきたので、これがあるのは三省堂らしいと感じました。</p>
教育委員	<p>他の発行者にもあります。教育出版は、12ページにノートの書き方があります。普段は硬筆でノートを書くわけですが、ノートはこういうふうにきれいに書くのだというお手本のような書き方が示されていて、他の教科に活用する際に書写で学んだことをこうやって生かしましょうというメッセージとして、他の教科への活用を促すようなところは良いのではないかと思います。</p>
教育委員	<p>教育出版はコラムがとても充実していて、楽しみながら文字を学べるところがとても素敵だと思いました。</p>
教育長	<p>私は4、5ページの「目的に合わせて書こう」というところがこの教科書の非常に特出しているところだと思いました。それぞれ書く内容・目的に応じて、何を使って、どのように書いたらいいかということがしっかりと明示されていると思いますし、3ページではそれぞれの学びの中で筆記用具を表す記号をきちんと明示しながら、何をするときどれを使ったらいいかを示していることが、この教科書の良いところだと思いました。他の教科書にもあるのかしれませんが、これを手に取ったときに、ここが非常に目立ったと感じています。</p>
教育委員	<p>教育出版だけ幅が広くて、表紙だけ見たら思わず手に取りたくなるような一番素敵な感じですか。100、101ページの手紙の書き方は、これからも一生ずっと役に立つことではないかと思います。せっかく大きなページにしている割には細か過ぎて見づらく、他者の方がもう少し見やすいのではないかという気がしました。</p>
教育委員	<p>光村図書は、書写ブックがうまく活用できると非常に有効なツールになるのではないかということと、デジタルコンテンツの可能性が最も発展的</p>

	に見えるのが光村図書だと感じました。
教育長	実技系は、これからデジタルコンテンツが有効になってくるだろうという話の中で、特に光村図書の書写はそういうところが配慮されているということですね。
教育委員	書写というと何となく毛筆、硬筆の実技という形で捉えてしまうのですが、よく考えてみれば小学生のときからずっと書道を習っていて、中学生になって書道が社会にどのように生かされているかということや、これから自分たちにとっていかに大切なものになるかを学ぶわけです。最初の方を見るとついつい姿勢や書き方などに気が取られてしまいましたが、3年生の内容を見ると、光村図書がしっかりしていて良いのではないかと思います。
教育委員	50ページの「目標を書こう」や104ページの「私の好きな言葉」のところで、字をきれいに書くだけでなく、夢や目標というところの思いがこもっていて、すごくいいと思いました。
教育委員	92～95ページの「全国文字マップ」もなかなか面白いと思いました。書くことも大事ですが、こういう文字が日本のいろいろなところに残っているということと、書写を結び付ける教材としてとても豊富だと思いました。日常生活への応用もとても多くていいと思いますし、86ページの「楷書と行書の使い分け」も適材適所というか、内容として非常に充実していると思いました。
教育長	それでは、東京書籍、三省堂、教育出版、光村図書の4者について、採択したい方に挙手をお願いします。
	—挙手—
教育長	全会一致で光村図書に決定しました。

○種目「地理」

[地理：説明の概要（選定委員長）]

4者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書で示した。東京書籍はA-1の項目9とA-2の項目1、教育出版はA-1の項目3とA-2の項目6、帝国書院はA-1の項目4とA-2の項目4、日本文教出版はA-1の項目6とA-2の項目7が特に優れている。

質疑ではまず、QRコードの4者の比較について質問があった。これについては、家庭学習を充実させる視点から評価し、一番優れていると評価したのは帝国書院、2番目に優れていると評価したのは東京書籍という回答があった。帝国書院は自社で教材を作り、クイズ形式にしたり、参考資料や地図、写真を入れたりして見た目に分かりやすく、東京書籍は白地図を載せている。

次に、授業の中でQRコードをどのように活用するのかという質問があった。これについては、教科書を進めていく際にそこまでゆとりがあるかと考えると、授業よりも家庭学習での活用が考えられることや、金沢市の子どもたちの実態として家庭学習の時間が十分でないことから、家庭学習を推進する一つの教材として捉え、帝国書院のQRコードは家庭学習や授業においてもクイズ形式で導入に使うと非常に有効だという回答があった。

次に、伝統と文化を尊重する態度、現代的な諸課題で評価が高いのは帝国書院だが、東京書籍などとどう違うかという質問があった。これについては、帝国書院は「地理プラス」で写真や資料と地元の人たちの話とが連動していて非常に分かりやすい。東京書籍は「もっと地理」というコーナーがあるが、帝国書院と比べると人々の生活のところが少し弱い。帝国書院は、地元の人

へのインタビューがあること、SDGsの図が彩り良く示され、それぞれの項目に写真が付けられていて見やすいこと、世界の諸地域を学ぶ前に地球課題を意識させるような資料や課題が提示され、世界地理をどのように学んでいったらいいかを導く形で示されていることが評価されている。東京書籍は、最初の見開きの次のページに「持続可能な社会の実現に向けて」とあり、世界の学習の最後に地球的課題を理解するところが評価されている。帝国書院は、まとめの活動が充実していて、地球的課題についてSDGsのマップを使いながら世界の地図をまとめていこうというところが特徴的であり、地元の人の声を拾ったり、写真や資料とのマッチングがとても良いところも評価されているという回答があった。

次に、思考ツールなどを使った学習のまとめ方の違いについて質問があった。これについては、東京書籍は、いろいろな学び方や話し合いをしてランキングを付けるなどの工夫がある。帝国書院は、白地図があり、その下のステップ1、2、3や、実現可能か話し合おうという具体的な呼び掛けがあり教師が指導しやすい。教育出版は、地図や表を作って知識の定着を図らせ、考えたり深めたり意見交換をする場面があるが、帝国書院に比べると分量が少ない。日本文教出版は、知識の定着をしっかりと、アクティビティでランキングするといった活動はあるが、分析手法のところは教師が使いにくいものになっているという回答があった。

次に、領土・領海の調査結果についての質問があった。これについては、結論的にはどの者も横並びという回答だった。東京書籍は、北方領土、竹島、尖閣諸島と一つにまとめて表記して、場所や、どの国と問題があるかが地図で明確に示されていること、自然の様子や人が住んでいるかどうか、想像を巡らせながら現実の国際問題に触れることができるという特徴がある。教育出版は、文章量がかなりしっかりしていて、最後のまとめのときに家庭でも読むことができ、授業でもポイントを読ませる形になっているという特徴がある。ただ、東京書籍に比べると写真で自然の様子がつかみにくい。帝国書院は、四つの地図を示しながら歴史的な経緯を詳しく説明しており、文章量も一定程度豊富という特徴がある。東京書籍に比べると写真が弱く、逆に東京書籍は文章が弱いことが挙げられる。日本文教出版は、日本地図全体をアップにして、それぞれの島がどこにあり、どの国と問題があるかが分かりやすく示され、北方領土の返還についても歴史的なことをしっかり押さえているという特徴がある。

次に、領土・領海について、最新のニュースなどをどのように取り入れながら授業を行っているかという質問があった。これについては、教科書を使って教科書の内容を教えるのが基本で、教師によっては画像や動画を見せて教えることもある。

その後の選定委員会の議論では、伝統と文化を尊重する態度や現代的な諸課題において、帝国書院と東京書籍は、例えば「地理プラス」や「もっと地理」の内容についてそれほど差がないのではないかということで、東京書籍の評価を見直すことになった。その他、領土・領海については、新しい内容や情報をフォローしながら学習してほしいという要望があった。

[地理：質疑応答]

教育委員

外国や日本の地理を学習するために、最新のさまざまな情報も教科書に盛り込まれていると思います。各者必ず地域調査の単元がありますが、子どもたちが自ら動くわけですから、人へのコンタクトの取り方や地域調査の進め方について、発行者によってどのような特徴があるのか教えてください。

選定委員長

A-2の項目4が地域調査に関する評価になっています。具体的には調査委員長から説明していただきたいと思います。

地理調査委員長

現行の教科書にも地域調査の項目はあります。地域によっていろいろなやり方がありますが、授業時数が限られていること、地域によっては交通の安全面に配慮しなくてはいけないことから、時間割を入れ替えて2時間つなぎにしたりして行っている学校もありますが、例えば屋上から地域を

見て、金沢市中学校教育研究会社会科部会で発行している「郷土金沢市」という地図の現代と過去のを比較して、実際にフィールドワークはしないけれども、そういうもので等高線を見たり、地図記号を見たりしている学校もあります。

新しい教科書はおおむね、フィールドワークをするという前提で作られています。それぞれ地図記号、縮尺の読み取りという技術的なことから始まり、グラフや写真を使つてのまとめ方もあるのが全体像になっています。

例えば東京書籍は、その項目が140ページから始まっています。その中で特筆的なところを申し上げますと、例えば144ページにスキルアップというページがあります。ここでは「地形図を読み取る」ということで地図記号を学び、145ページでは等高線を基に地形の断面図がどのようになるかを作業的に学びます。各項目のスキルアップで順序立てて、最後の発表まで持っていくのが東京書籍の特徴です。

教育出版は、134ページの「地域調査の手引き」で、まずアウトラインをつかませる形になっています。それを受けて計画を立て、138ページで地図記号、139ページで子どもたちが苦手な縮尺の計算、141ページで等高線を見て断面図を作り上げる作業が入ります。教育出版はここで書き込めるのが特徴ですが、一般的な等高線は子どもたちはすぐ理解できます。ですから、教育出版が挙げている等高線の作業は、非常に簡単なものだと思います。教育出版の特徴は142ページで、今話題の防災について調べさせ、最後にまとめに入っている点です。

帝国書院は、132ページの「調査方法を考えよう」で見通しが示されていて、少し細かくて見づらいますが、中身的にはしっかりと書かれています。134ページには、地図帳を発行している会社らしく、地形図の地図記号や縮尺が1枚にまとめて分かりやすく書かれています。135ページには、「やってみよう」ということで地図記号を読み取る作業があり、136ページには、単純な等高線ではなく、山が二つあって一度へこんでまた上がるということが子どもたちは苦手なので、そういう断面図を描かせる応用的なものがあります。あとは、他と同じようにまとめ方がいろいろ書かれています。

日本文教出版は、119ページの上に、すごく小さいのですが「地域調査の手順」があり、教科書の何ページを見たらこんなことができるということが示されています。122ページには方位、縮尺、等高線、地図記号、断面図が出ています。この教科書は、実際の地形図から断面図を描くという少し難しいことを挙げているのが特徴だと思います。あとは、127ページにまとめ方の例などが挙げられています。イラストや写真などの違いはありますが、他の発行者と遜色ないと思います。

教育委員

これだけ各者それぞれ特色があると、これからフィールドワークは力を入れて行うことになるのでしょうか。

地理調査委員長

力を入れるといっても、これは前の前の教科書にもありました。学校の実態や社会情勢で子どもを外に出すことがなかなか難しくなっている中で、資料が充実していく中で技能や知識は学びますが、フィールドワークが増えるかということとそれほど増えないのではないのでしょうか。

教育委員

実際に教壇に立つ先生方として、地理と地図が連動していた方がいいのかどうか、ご意見をお聞きします。

地理調査委員長

どちらがいいかは分かりません。金沢市はこれまで、地理は東京書籍を採択し、地図は帝国書院を採用してきました。私が教えていたのは数十年前ですが、そのときからずっとその形でそれに慣れているので、不便を感じたことはありません。

教育委員	領土・領域についてですが、北方領土、竹島、尖閣諸島に関しては教科書を見て教える授業だけですか。話し合いなどがありますか。
地理調査委員長	中学校の教育研究会で具体的に一校一校に調査をかけた実態がないので、私の経験でしか言えないのですが、やはりこれからは子どもたちの対話が大事になってくるので、新しい教科書でこれだけ資料が充実してきたら、子どもたちの日頃の経験やニュースで見たものを持ち寄って、そういう授業をしていくべきだと思います。
教育委員	そうなることを願っています。
教育長	これまでずっと地理は東京書籍、地図は帝国書院を使っていたのですね。
地理調査委員長	そうです。
教育委員	ただ、今回頂いた資料を見ると、帝国書院と東京書籍はほとんど同等で、選定委員会で審議され、やや東京書籍の評価が見直された感じですね。調査委員会では帝国書院の方が良かったのでは。その辺についてはどうなのかと思いました。
選定委員長	先ほど申しましたように、選定委員会では東京書籍の評価をA-1の項目3、4、5あたりで検討し、さほど差はないのではないかとということで評価を若干見直しました。皆さまの意見を聞くと、両者は本当に同じぐらいという感じでした。
地理調査委員長	調査委員会では、やはり地図帳の会社らしく、帝国書院の地図の見やすさや写真の美しさに関する意見が先生方から多く挙げられていました。東京書籍は、金沢市が進めている金沢型学習スタイルでいうと、これまで同様いろいろな手法が入っていて、多様な学びができる仕組みになっています。それに対して帝国書院は、子どもたちが行ったことがない所を見て、きれいだな、ここは寒そうだなということが実感できるような教科書であり、なおかつ、これまでのスキルを生かして、今回の学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」に近づくような手法もたくさん取り入れられているのではないかと意見がありました。
教育委員	教科書へのQRコード導入はかなり広がっています。QRコードを使って視野を広げていくことが地理でこそ効果的になりそうですが、そのあたりはどのような感触でしょうか。
地理調査委員長	QRコードは何カ所もありますが、結果的には同じところにつながっていくのが基本です。その中で、帝国書院のQRコードは他の3者より秀でていると思います。家庭学習ができるようにクイズ形式になっていて、子どもたちが楽しみながら問題を解いたり、映像もすごく充実しています。その次は白地図や自社のものが載っている東京書籍で、教育出版と日本文教出版は自社のものではなく他とリンクさせています。地理こそQRコードを使ってということは私も思います。
[地理：審議] 教育委員	いずれの発行者も、見れば見るほど甲乙付け難いです。東京書籍の場合、單元ごとに探究課題を示して、その課題を念頭において学びを深め、思考を広げ、最後にグループで議論してまとめて、さらに展開していくという

作りになっているのが特色ではないかと思いました。

ただ、気になるのは、他の発行者は地理的な見方・考え方を明示しているのに、東京書籍だけはそれが無いことです。東京書籍は多くの教科で全体の見方をどうするのか、構成をどうするのかを示すのが特徴的だと思いますが、地理ではそこがありませんでした。地理的な見方・考え方について細めには書いてあるのですが、社会科全体としての位置付けがなかったところは気になりました。

教育委員

東京書籍は、SDGsについてかなり細かく書いてあります。「持続可能な社会の実現に向けて」から始まり、55ページの「地球的課題を考えてみましょう」というところから中身に入って、139ページの「地球的課題を振り返ろう」でもう一度検証した上で自分たちの地域を見ていくという形で、SDGsという今日的な話題を非常にうまく取り入れながら展開していると思いました。帝国書院もSDGsを取り扱っていますが、SDGsのマークを表記して関連性を見つけていくだけなので、東京書籍の方が、流れ的にも、子どもたちにSDGsへの興味を持たせる意味でも面白いと思います。

教育委員

東京書籍は、他の教科もそうだと思いますが、金沢型学習スタイルの問題解決型をすごく意識していると思います。單元ごとに最後の「振り返ろう」というところでまとめられていて、必ずここにグループ学習が入っています。ただ、例が途中まで書いてあって、これをどうやって授業の中で生かすのか、ヒントという意味で載せているのかと思いますが、形としては、まず自分で考え、グループで話し合い、問題を解決していくという金沢型学習スタイルの色がすごく出ていると思います。

教育長

多様な学びというところがうまく出ていると感じます。

教育委員

まとめのところ、例えば東京書籍の72ページの「アジア州を振り返ろう」と、帝国書院の64ページの「アジア州を振り返ろう」を比較すると、東京書籍は、地理のことだけでなく経済のことなど全体的なことを含めたものが多い気がします。一方で、帝国書院の方が、地理的な見方・考え方は分かりやすいと思います。地理の教科書としてどちらがいいかという判断で迷っています。

教育委員

教育出版は、扱われている素材の切り口が面白いと思います。例えば17ページでは、人口を面積に置き換えて世界地図を示すと日本は面積が結構広い方だということが分かったり、128ページでは「カレーから見た食文化」という素材があったり、その隣には、オリンピックはどこで開かれるのか、あるいは開かれてきたのかという内容があったり、宇宙から地球を見たら昼はこうで夜はこうだと、取り上げられている素材に面白味があって、切り口が工夫されていると思いました。

教育長

私は、まとまりごとのまとめの部分がすごく単調だと思いました。東京書籍のような多様な学びが感じられないし、帝国書院のようなしっかりと地理的な見方・考え方、そして思考力・判断力・表現力といった深まりの部分がすごく物足りないと感じました。切り口は確かに面白いと思います。

教育委員

私も同じところが気になっていました。65ページのアジア州の学習の振り返りと、帝国書院の64ページのアジア州の振り返りを比較しても、地理的知識としての情報量が圧倒的に少ないと思いますし、帝国書院では該当するページまできちんと追っているため、学習効果がより高い気がします。

教育委員

帝国書院は、教科書なのですが、一昔前とは全然違って情報量もすごく充実していて、参考書のように改めて感じました。特に、どの発行者も内容はとても充実していますが、授業では到底全てフォローすることができず、家庭学習のウエートが大きくなっていく中で、写真でビジュアル的に楽しいということが、子どもが家庭学習をする上でとても大事な要素になってくると思います。そういう点で、帝国書院は見ていてとても華やかで、108ページの南アメリカ州のカーニバルの様子など、様々な世界の場所の写真があって、目で楽しめるようになっています。子どもたちが学校から帰ってきて勉強しようというときにこういうものがあれば、より効果的ではないかと思います。

教育委員

私も同じ考えです。「技能をみがく」や「地理プラス」がとても分かりやすく説明してありますし、振り返りが折々にあり、それを理解した上で次に進む構成になっていて非常に良いと思いました。資料も本当に豊富で、写真もきれいで、子どもたちが楽しめるのではないかという印象を持ちました。

教育長

ビジュアルの部分が非常に充実していて、学ぶ意欲に関係してくるということですね。私は先ほど東京書籍のまとめの部分で、多様な学びの話をしました。帝国書院も、それぞれの節の振り返りなどで、思考力・判断力・表現力の多様な学びを提示している感じがします。一長一短なのですが、子どもたちが使うことを考えると、帝国書院の方が分かりやすい感じを受けます。知識があって、思考力・判断力・表現力があるということ、学びのストーリーのようなものが見て取れるのではないかと思います。

教育委員

日本文教出版の教科書を見ると、学習課題のすぐ下に「見方・考え方」というヒントのようなものが書いてあります。他の教科書はそうではないと思いますが、これは分かりやすくいいのでしょうか。学習課題のすぐ下に、学んでいく上でのヒントが書いてあるのは、どうなのかと思いました。

教育長

そうですね。しっかりと考えた上で学びを深めることは大事だと思います。

教育委員

今の指摘と共通するのですが、親切過ぎて、考えるというプロセスに相反する部分があるのではないかと思います。例えば、日本文教出版の81ページのアフリカのまとめと、帝国書院の93ページのアフリカのまとめを見ると、日本文教出版は同じようなものがアクティビティという形でまとめられており、ほとんど全て書いてあって、1カ所だけ空欄があって「考えましょう」という形になっているのですが、帝国書院は経済的なさまざまな課題がどういう地理的背景とつながっているのかを考えさせるようなまとめになっています。これを見比べても、日本文教出版は親切過ぎて、考える余地を狭めてしまう作りになっている印象を持ちました。

教育長

親切過ぎるという話がありましたが、この教科書の特色は「チャレンジ地理」の内容ではないかと思いました。例えば、70ページのヨーロッパの項目の「イギリスのEU離脱問題を考えよう」は、みんなで答えのないものについて議論していく形で面白いと思いました。ところが、151ページの「チャレンジ地理」は、ハザードマップの使い方についてなのですが、ハザードマップをより深く知り、使うために、何がチャレンジなのかが見えてこなくて、もう少し丁寧さがあってもよかったという感じを受けます。ですから、親切なところともう少し丁寧にしたらいいのという

ころが見え隠れしているのが気になりました。

では、ここで教科書の絞り込みをしたいと思います。東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版の4者について、いいと思うものに挙手をお願いします。

—挙手—

教育長

帝国書院と東京書籍が残りましたので、それぞれの教科書について改めて意見があればお願いします。

教育委員

私は帝国書院がいいと思っています。理由は、写真がすごく充実している点と、各章の振り返りがすごく良い点です。特に、最初のページでSDGsのことを書いていて、各章の振り返りでも必ず触れて、そしてステップ3の「持続可能な社会に向けて考えよう」につなげていく形で、教科書全体の統一性があるところがすごくいいと思います。実際に中学生が学習してきて、試験の前にしっかり覚えて試験に臨めると思いますし、中学1年生だと、初めての試験で何を勉強したらいいか分かりません。ただ単に教科書をばらばらと見ていると分からない中で、このように学習した内容がまとまっていて、さらにステップ1、2、3というふうに地理的な見方・考え方につなげているところがとてもいいと思います。

教育長

東京書籍は右ページの下に「チェック」と「トライ」があって、帝国書院も「確認しよう」と「説明しよう」があって、非常に似た作りになっていますし、両方とも大変丁寧な作りをしていると感じます。

教育委員

北陸の伝統や方言について、帝国書院の231ページと東京書籍の229ページを見ると、それぞれ地図があって、漆器や銅器などが書いてあるのですが、東京書籍は輪島のところに「漆器」と書いてあるだけで、金沢のところも「加賀友禅」ではなく「織物」と書いてあります。帝国書院の方がそこは丁寧だと思いますし、何ととっても「地理プラス」で「加賀藩の文化を現在に生かす金沢市」と大きく書いてあって、これを見た生徒たちは金沢に来たくなるのではないかと思います。そう大きな違いはないのですが、これを見たときに帝国書院の方にひかれました。

教育委員

どちらか一つに絞るとなると、やはり帝国書院という気がします。地理的な見方・考え方が巻頭ページで示されていて、そこが東京書籍にはない構成ですし、中身に関しては甲乙付け難いのですが、写真の使い方や最後のまとめの展開の仕方等々を見比べると、帝国書院がいいのではないかと思います。

教育長

それでは、東京書籍と帝国書院の2者について、採択したい方に挙手をお願いします。

—挙手—

教育長

全会一致で帝国書院に決定しました。

○種目「地図」

[地図：説明の概要（選定委員長）]

2者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。東京書籍はA-1の項目6、帝国書院はA-1の項目3が特に優れている。

質疑ではまず、鳥瞰図の評価について質問があった。これについては、鳥瞰図は両者とも扱っ

ているが情報量に差があり、特に帝国書院はイラストが多く、興味を引き付ける工夫がしてある。例えば東京湾臨海というイラストは生徒から見て分かりやすく、これ以外も随所にイラストが載っているという回答があった。

次に、サイズの差、地図の見やすさについての質問があった。見やすさに関しては、地図帳を縦にすることで苦勞するという意見はなかった。ただ、帝国書院は、朝鮮半島を迫力のある両開きで見ることができ、隣の国であることがよく分かって良い。サイズに関しては、両者の地図帳のページ数はほぼ同じで、帝国書院の方が少し大判だが、帝国書院の方が60gほど軽く、さらにめくりやすいという回答があった。

次に、領土に関する記載について、どのような協議が行われたかという質問があった。これについては、帝国書院は3カ所に記載があり、1カ所はわが国が抱える問題として尖閣諸島、竹島、北方領土についての写真と簡単な説明があり、2カ所目は、北方領土でロシアとの条約の結果このように国境が推移したという資料が付いており、3カ所目は、千島列島と南樺太の帰属問題はまだ確定していないという記載がある。一方で東京書籍は、2ページにわたり3カ所の領土・領域に関する説明記載があるという回答があった。

次に、どちらの地図の方が見やすいかという質問があった。これについては、帝国書院の方が見やすいということだった。それがよく分かるのは東京の中心部で、両方とも東京の中心部を示した地図があり、縮尺が若干違うが、帝国書院の方が子どもたちがいろいろな機会で見したことのあるものがイラストで示されており、一方で東京書籍は単に拡大しただけの地図になっているという回答があった。

次に、福井県の掲載に関して質問があった。これについては、北陸3県をクローズアップしているのは帝国書院のみで、東京書籍は近畿地方のページに福井県全域が載っているという回答があった。

その後の選定委員会の議論では、QRコードについて帝国書院の評価が高かったが、リンクが貼ってあるものがNHK for Schoolなど普通レベルではないかという意見があり、調査委員会の評価を修正した。

その他、サイズや掲載の有無に関しては、今後、パソコンやメディアをうまく利用するのがよいのではないかという感想があった。

[地図：質疑応答]

教育委員

帝国書院の方がずっと昔から使われていて、地図に関してとても長けているのではないかと思いますし、本自体が大きく、見た目も分かりやすいと感じますが、東京書籍はページを開いたときに歴史の本のような感じがして、そこが逆にすごく興味が湧きました。そういった面で、教える側としては地図として重要視するのか、何となく社会の中の地図という形で捉えるのかという観点をお聞きします。

選定委員長

東京書籍は、例えば歴史と関係するところには「歴」と書いてあるという特徴を報告していただきましたが、具体的にはどういうことになるでしょうか。

地図調査委員長

ご指摘のとおり、東京書籍には歴史に関する記載が多くあります。実際に授業で使うとなると、地図帳は地理の学習でメインに使うこととなります。ただ、歴史と全く関係ないわけでもありません。歴史の授業のときにも地図帳を開かせて現場を確認したりするので一概には言えませんが、地図帳の機能としてはやはり帝国書院の方が分かりやすく使いやすいと思います。

教育委員

後ろの方には各地域を掘り下げた資料ではなく、全体的な資料がたくさん

	ん載っていますが、そのあたりは授業で活用されるのでしょうか。
地図調査委員長	比較したりするときには統計的な資料が有効なので、場面によっては使うこともあるので、あった方がありがたいです。
教育委員	それを見比べたときに、例えば日本の人口の統計を見ると、帝国書院は2018年、東京書籍は2017年と微妙に年が違っているのが気になりました。毎年のように人口減など変化は著しいので、できるだけ最新版がいいのではないかと思います。どれぐらい活用されるのかによっても重きの置き方が違うと思うので、そのあたりは特段支障がないということでしょうか。
地図調査委員長	そうですね。できるだけ最新のデータがあればよいですね。
教育委員	子どもたちが主体的・対話的で深い学びをするときに、どちらがどのように活用しやすいかを教えてください。
地図調査委員長	まず主体的な面ですが、A-1の項目8のQRコードが、帝国書院は大変素晴らしい内容です。もちろん授業でも活用できますし、さまざまなお子さんの学習に対応できる内容となっています。これが主体的な面で一番推したいところです。 次に対話的な面ですが、帝国書院は他者への発表を意識した問いが5カ所あります。例えば、139ページに北海道地方北部とあります。帝国書院は、この地図帳の随所に「地図活用」という発問があります。この発問は、基礎を押さえたり、考えさせたり、調べさせたりといろいろな機能があり、139ページの「P136～140を見て、北海道ならではの特色ある場所やものを一つ選び、その良さを短いキャッチフレーズで紹介しよう」という発問は、明らかに対話を意識した発問です。こういう類いのものが帝国書院には5カ所用意されていました。
教育委員	QRコードについて、私も見たのですが、NHKの番組がリンクされていてすごく面白かったです。ただ、外部リンクはどうなのかということをし少し疑問に思ったので教えてください。
選定委員長	選定委員会では、NHK for Schoolなどにつなげることは他の教科書でも結構あるので、特筆するようなことではないだろうということで評価を修正しました。外部リンクの会社が変わってリンクが外れてしまうのではないかとということからです。これは個人的感想ですが、NHK for Schoolは今も非常に活用されているので、そう変わらない気がしています。他の会社については、リンクが外れることはあると思います。
地図調査委員長	QRコードは、NHK for Schoolだけではなく、「地図活用」の解答が全て載っていたり、資料が載っていたり、衛星画像があったり、クイズがあったり、小学校からの復習というコーナーもあったり、子どもたちの学習を大変幅広く支援する内容となっています。
[地図：審議]	
教育委員	帝国書院の方が地図としては圧倒的に使いやすいと思います。
教育委員	私も同意見で、帝国書院の方が見やすいですし、サイズの的にも見開きで非常に見やすくなっているので、帝国書院がいいのではないかと思います。

教育委員	<p>地図ですから、索引を使うことが結構多いのではないかと思います、索引の使い勝手を見比べたのですが、文字の色使いや鮮明さなどを見ると、帝国書院の方が工夫されていて使い勝手がいいと思います。どうやって索引を引くかということまで書かれていて、かなり丁寧に作られているので、いいと思います。</p>
教育委員	<p>東京書籍を見ると、「ジャンプ」というコーナーがあります。次に飛んで考えてみようということで、考える力を養うというか、ここへつながりますよという仕掛けがあるのが東京書籍の良いところではないかと感じました。</p> <p>帝国書院は、「地図活用」のコーナーで考える力が養えますし、見やすいことが地図において一番大事なことではないかと思います。みんなで話し合うコーナーもあったりして、新学習指導要領に合っているのではないかと思います。また、大きければ大きいほど見やすいと思いますが、持ち運びのこともあるので、総合的に考えて私も帝国書院がいいと思います。</p>
教育長	<p>地図帳の使い方の説明が非常に丁寧ですよ。初めの方を見ていても、地図帳の使い方1と2があって、それぞれの視点でこの地図をどう使っていけばいいかということが丁寧に書かれていると思いますし、小学校で学習した地図の約束という部分もきちんと表現されていて、工夫されていると思いました。「地図活用」や、その下の「防災」「環境」「日本との結び付き」など、非常に広い視点でこの地図の使い方が明記されているので、いい地図なのだろうと思いますし、かなりの経験を積んで作られているので、まさに集大成だと思っています。</p>
教育委員	<p>私も帝国書院が優れていると感じています。地理の教科書はまた別にあって、とても充実したものがあるので、その教科書の横に置いて参照するツールとして考えたときには、地図以外の情報がいろいろな分野に飛んでいるようなものは学習が頭に入りづらく、あまり望ましくないのではないかと思います。</p> <p>あと、紙の質感が教科書と違って、触っていても地図だということが感覚的に分かりますし、大きくて見やすく、光沢感が控えてあってめくりやすいという面でも優れていると感じました。</p>
教育長	<p>それでは、東京書籍と帝国書院の2者について、採択したい方に挙手をお願いします。</p>
	<p>—挙手—</p>
教育長	<p>全会一致で帝国書院に決定しました。</p>

○種目「保健体育」

[保健体育：説明の概要（選定委員長）]

4者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申を示した。東京書籍はA-1の項目1とA-2の項目4、大日本図書はA-1の項目9とA-2の項目6、大修館書店はA-1の項目3とA-2の項目5、学研教育みらいはA-1の項目2とA-2の項目4が特に優れている。

質疑ではまず、東京書籍だけが保健編が先で、その後が体育になっていることについて質問があった。これについては、順番が逆になっているからといって特に授業への影響はないという回答があった。

次に、A-1の項目1と項目5で東京書籍の評価が高いが、具体的に優れている点についての質問があった。これについては、東京書籍では全ての項目において「見つける」「課題の解決」「広

げる」という分かりやすい見出しを付けていること、子どもが授業の流れの見通しを持つことができ、子どもたちの課題を明確にし、興味・関心を高めながら進められることが他の者に比べて特に優れていると判断したという回答があった。

次に、項目3のQRコードやデジタルコンテンツに関わる調査をしているが、各者に違いがあるかという質問があった。これについては、4者ともQRコードを載せ、生徒が自主的・自発的・発展的に学習できる取り組みについては同じである。その中で、東京書籍については50コンテンツあり、そのうち30コンテンツ以上が動画である。大日本図書は32コンテンツで動画は九つ、大修館書店は30コンテンツで動画が三つ、学研教育みらいは31コンテンツで動画が三つである。東京書籍は子どもたちにとって分かりやすい動画が多数掲載されており、また、東京書籍のみ「Dコンテンツ内容一覧」ということで一覧表が載っており、他の3者には一覧表がないことから、東京書籍の評価が高くなったという回答があった。

次に、学習課題に関する工夫や使いやすさについて質問があった。これについては、4者とも最初の項目で学習課題が必ず取り上げられ、課題の取り上げ方はどの者も工夫され興味関心を高めるようになっているが、調査委員会では、東京書籍の課題の書き方が一番工夫されているという意見が出ているという回答があった。

次に、A-1の項目3のデジタルコンテンツ、QRコードで、大修館書店と学研教育みらいを同じくらい高く評価している点について質問があった。これについては、この項目は興味関心を高める工夫も見えており、例えば大修館書店は学習内容に関連した「親子で救命リレー」というコラムや事例を多数取り上げて興味関心を高める工夫がされているところで高い評価をした。学研教育みらいについては、章末の「探求しようよ！」で、学習内容に関連し、発展的な内容や子どもがさらに調べてみたい内容、知ってほしい内容について詳しく掲載され、各単元にリンクマークを付けて、子どもたちが調べたいときに「探求しようよ！」というページに行くようになっており、興味・関心をさらに高め発展的な学習に持っていく工夫がされているところで高く評価したという回答があった。

その後の選定委員会の議論では、学習課題やそれに関わるところで比べたときに、学研教育みらいの「課題をつかむ」というところは、子どもたちが自然に、かつ具体的に考える作業をする流れになっており、大修館書店にも同じような内容が見られたという感想があった。また、現代的な諸課題として、ネットトラブルやSNSは学校では大きな課題の一つであり、東京書籍はその具体例があり非常に分かりやすく、調査委員会の評価の表現は妥当であるという感想があった。

[保健体育：質疑応答]

教育委員

保健体育は、いずれの教科書も、小学校で学んだこと、中学校で学習すること、さらに高校で学習することという、校種をつなげた意識が教科書の作りに表れていると思いますが、そういう点で各者の特色や共通している点があれば教えていただけたらと思います。

保健体育調査委員長

新学習指導要領でも、小・中・高の接続性を考慮して各単元を構成するよう重視されているので、4者とも各章の最初に、小学校で習ったこと、中学校で習うこと、高校でどうつながるのかということ載せており、小・中・高の接続を意識した記載がされています。

教育委員

中学校で学ぶ他の教科とのつながりも、各者、意識しているのでしょうか。

保健体育調査委員長

保健体育は、道徳はもちろん、保健の場合は理科や家庭科、技術科とも関連する項目があるので、どの教科書も、そういった関連する項目は記載しています。例えば東京書籍は、10ページの左下に、ここの単元は理科の2年生や家庭と関連しているという形で掲載しています。

教育委員

中学校の保健体育は週に1、2時間で、時間数としてはあまり多くないと思いますが、授業時間数と教科書の内容、ボリュームは、大体どの発行者も見合ったものになっているのでしょうか。

保健体育調査委員長

新学習指導要領で、保健に関しては3年間で48時間程度と割り当てられています。新学習指導要領でもその時間数は変わりません。1年生で16時間、2年生で16時間、3年生で16時間が標準的に割り当てられています。そこに、さらに各学年で体育理論という、保健の教科書のスポーツ・運動のところが3時間割り当てられています。ですから、保健体育は週3時間あるのですが、保健の授業をまとめて行ったり、1時間にしたり、それは学校によって違います。

教育長

金沢の小学校も中学校も、授業を行うときに、金沢型学習スタイルを大事にしていますが、その中で学習課題の設定がすごく大事だと思っています。いろいろな学校を回ると、学習課題には、問題解決的な学習課題の設定の仕方や、活動型の学習課題の設定の仕方などがあると思いますが、子どもの力を付けるためには、問題解決的な学習課題を設定してあげる方が、より良い授業に結び付くのではないかという持論があります。4者を比べたときに、問題解決的な学習課題をきちんと設定している教科書は、調査委員長の目から見て、どの発行者だと思いますか。

保健体育調査委員長

保健に関しては、日頃の個人生活の健康課題を各個人で解決していこうということが重視されているので、どの教科書も全て課題解決型の課題がすごく工夫されています。大きな学習課題はどの者も課題的な内容ですが、その中でも東京書籍に関しては、各単元の細かいところでも、10ページの「朝食を抜くと、どのような問題が起こるのか考えてみましょう」、その次の項目の「私たちは、1日にどれくらいのエネルギーを必要としているのでしょうか」というように、生徒の身近な問題を捉えながら問い掛けをしているところがすごく工夫されていると評価しています。

大日本図書も、各章の終わりで必ず、学びを生かそうということで子どもたちの身近な生活を取り上げて、考えさせて、グループで話し合うようなページを設けています。大日本図書も課題解決型の面をすごく取り上げてこういうページを載せており、工夫してあるというところで評価しました。

ただ、載せ方は違っても、そういうページは大修館書店や学研教育みらいにもあるので甲乙は付け難いです。学研教育みらいの35ページをご覧ください。このページには「考える・調べる」「まとめる・深める」の横に、「話し合う」「考える」など、さらに細かい項目に分けて、いろいろな子どもたちの考え方を記載しています。その点では学研教育みらいも課題解決型の学習で工夫しているということで評価しました。小さい項目でいうと、学研教育みらいの10ページをご覧ください。「マーク」という欄に、「考える」「振り返る」「読み取る」「説明する」「意見を出し合う」など、子どもたちがどのようにこの課題について考えればいいのかということを詳細に分けて記載してあるところも工夫されているということで評価しています。

[保健体育：審議]
教育委員

東京書籍は、68ページに「犯罪被害の防止」というところがあります。このテーマは全ての発行者において取り上げています。しかし、東京書籍に関しては、「活用する」という場面で具体的な事例を示しながら、問題を自ら抽出し、それをどう回避するかを考えさせ、議論するというものが用意されている点が、他者と比較しても秀でていたと感じました。

教育委員

東京書籍は、デジタルコンテンツの動画が30以上で、いろいろな種類のもので掲載されており、広げるという意味での自主的・自発的な学習につながるのではないかなと思うので、このあたりが他よりもかなり優れているのではないかなと思います。

教育長

先ほど委員が触れたページで、金沢の子どもを見守るボランティアの写真が載っているので、子どもたちも親しみを覚えるのではないかなと思いました。

教育委員

東京書籍は、まさに中学生だと思うのですが、インターネット依存症などの身近な題材が載っていて、これから新しく作る教科書にしてはすごくいいと思うし、子どもも興味を持って見るのではないかなと思いました。

教育委員

1時間の主な流れとして「見つける」「課題の解決」「広げる」という段階ができていて、教員側からしてもすごく授業がやりやすいと感じました。教員がやりやすければ子どもたちも理解しやすいと思います。私も保健体育に関しては、学生を教育実習などに出して指導案を書かせるときに、こうやってきちんとまとまっていると指導案も書きやすいですし、子どもに何を伝えたいかということもきちんと問題提起した上で、伝えやすい形になっていると思います。

教育委員

私も口絵の1時間の主な流れというのがとても使いやすいと思いますし、章末のインターネットの資料だけでなく、各章の資料をとっても関心を持って読むことができました。つつい先へ先へと読んでしまうような形だったので、授業でも役に立つのではないかなと思います。

教育長

私も、東京書籍の教科書を初めて手に取ったときから学習課題をずっと読んでいたのですが、非常に分かりやすいです。1時間ごとにきちんと問題解決的な学習課題を設置してあります。他の発行者を見ても、どれが学習課題なのだろうと悩んでしまうような表現の仕方だったり、逆に「何々すればいいのよね？」と反問してしまうような課題も結構あって、東京書籍はそこがいい質問になっているという感じを受けました。

教育委員

大日本図書は、ほとんどの章で「やってみよう」や「話し合ってみよう」という形になっています。下に用意している資料を参考に話し合ってみようということで、出されている情報を読み取り、それを踏まえて問題提起し、それについての答えを一つ出してみるという課題になっていて、トレーニングするという意味ではとても魅力的だと思いました。ただ、極めて授業数が少ない中でこれをあまり頑張ると、結果的に学ぶものが散漫になってしまう危険はあると思います。そういった意味では東京書籍の方がきちんと整理されていて、授業は進めやすいと思いましたが、見方を変えればこういったものもとても魅力的だと思いました。

教育委員

大日本図書はいずれのページや項目も、片方で説明、片方で図や表、イラストという作りになっていて、これが良いのか悪いのかということと私はなじみにくいのですが、生徒にとっては文字よりは分かりやすいということなのでこういう作りになっている点は持ち味かもしれないと思いました。

教育長

大修館書店について、私がこの発行者の特色かなと思ったのは、まとめのところの知識理解や思考・判断・表現力の課題です。例えば26、27ページを見ると、「章のまとめ」のところで、知識・技能の確認問題、それ

から思考・判断・表現の問題、それを踏まえて自分の課題を見つけ、そして最後に学習をしっかり振り返りましょう、評価しましょうとなっていて、最後のまとめがよくできていると思いました。ただ、学習課題でいくと、例えば30、31ページを見ると、他者の保健の教科書では「課題をつかむ」というところが「やってみよう」となっているのですが、これははっきりいって課題ではないと思っています。むしろ31ページの上の「きょうの学習」の中にある四角の1、2をきちんと考えて、学習課題を左上に持ってくるべきではないかと考えていて、このあたりが若干、この教科書の課題でもあると思いました。良いところもあるけれども、課題も若干あると感じました。

教育委員

学研教育みらいの「探求しようよ！」は、結構読みやすく分かりやすい気がします。例えば、130ページの「傷害の防止」の後ろに身近なことがたくさん出ています。それらについて、自分たちで興味を持つことはいいのではないかと思いますし、164ページの「健康な生活と病気の予防」の「探求しようよ！」は、まさに今話題の飛沫感染や空気感染などについて、知識としてきちんと学ぶことができているのではないかと思います。

教育長

それでは、4者について挙手をお願いします。

—挙手—

教育長

全会一致で東京書籍に決定しました。

○種目「美術」

[美術：説明の概要（選定委員長）]

3者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書で示した。

開隆堂出版はA-1の項目8とA-2の項目6、光村図書はA-1の項目7とA-2の項目2、日本文教出版はA-1の項目9とA-2の項目4が、特に優れている点の中でも非常に特徴的なところである。

質疑では、A-1の項目5について、他教科との関連についての質問があった。これについて、開隆堂出版は、例えば2・3年に社会や道徳などの教科との関連が書いてあり、その関連がすぐに分かるように工夫されている。光村図書は、例えば2・3年に他教科との関連が詳しく述べられている。日本文教出版は、例えば2・3年の上に「家族の一員を目指したロボット」ということで技術科とのつながりが書かれているという回答があった。

次に、デジタルコンテンツについて、開隆堂出版は教科書以外の作品を見ることができ、光村図書は技法の動画があり、日本文教出版は作品を360度鑑賞できるが、授業で活用するとき効果的なものはどれかという質問があった。これについて、光村図書は下書きから完成までの一連の流れを紹介した早回し動画が掲載されており、水彩絵の具の使い方を1年生に分かりやすく教えられるようになっている。日本文教出版は、紙面の立体作品を見るときに、見たい角度や見たい距離などで自由に鑑賞することができ、動・静や行間、細部の工夫までしっかりと捉えることができるよう工夫されている点が優れており、これらを例えば家庭で見て、授業の予習として親子で鑑賞するのもいいという回答があった。

次に、A-2の項目2で、言語を用いた発想・構想について3者とも高く評価しているが、その特徴についての質問があった。これについて、開隆堂は、「作者の言葉」や「アイディアスケッチ」などで、作品がどのような発想・構想を基に生まれたか、具体的に言葉を用いて表現している。日本文教出版は、アーティストの鈴木さんの構想の例が載っており、メモ書きをノートにためることからアイデアを生み出す作家で、中学生に分かりやすく発想・構想の手だてを紹介する内容

になっている。光村図書は、実際に中学生が発想・構想し、試行錯誤しながら作品を制作する過程を知ること、自分の表現に生かす工夫がされているという回答があった。

次に、3者ともQRコードで技術的な動画が載っているが、鑑賞するときの特徴について質問があった。これについて、開隆堂出版は美術館にリンクすることができ、教科書に載っている作品だけでなく、その美術館の作品も見ることができる点において、とても広がりが出る。日本文教出版は、紙の教科書で見ると違い、作品を360度から見るができるという回答があった。

次に、教科書のサイズの良しあしについて質問があった。これについて、開隆堂出版と日本文教出版は、A4ワイドで少し横が大きくなっている。冊数に関しては開隆堂出版と光村図書は2冊で、2・3年を1冊にまとめて豊富な題材を学校の実情に合わせて選択できるよう配置されている。日本文教出版は3冊にとってもこだわっていて、発達段階における学びを重視している。冊数については、絵の具と一緒に教科書を袋に入れて、美術室で預かる場合は2冊の方が指導する側としては扱いやすく、大きさについては光村図書の方がコンパクトで、絵の具と一緒に預かりやすいのでいいという回答があった。

次に、教科書に書かれているものを全て扱うのかどうかという質問があった。これについては、教科書の他に美術資料を1冊持っている学校が多く、教科書だけでは教え切れない詳しい内容を動画などで見せることができるので、生徒にも伝わりやすく、これから活用できたらいいという回答があった。特に鉛筆デッサンや水彩画の重ね方、彫刻刀の技法など、教師が拡大投影機の前で実際にやって見せていた部分を、動画ですぐに見せることができることが良いということだった。内容については、時間数が限られているので全部というわけにはいかないが、絵画、彫刻、デザイン、工芸の各分野で必ず一つずつは行えるように考えるということだった。

次に、開隆堂出版のA-2の項目5の「生徒の自立を促すよう配慮されている」という記載について質問があった。これについては、日本各地に伝わる工芸品を見やすく掲載しており、伝統を生かしつつ、現代の生活に合わせて使われる作品を紹介している点において、生徒の自立を促す配慮がされているのではないかと考えたという回答があったが、選定委員会で議論した結果、「自立」ではなく「生徒自身の生活と関連付けて鑑賞できる」という表現に修正した。

その他、選定委員会では、日本文教出版の360度から鑑賞できるものはすごく良いという感想や、開隆堂出版の美術館のリンクや動画を繰り返し見られるのが良いという感想があった。また、光村図書の教科書は、最初の方で子どもたちが描いた美しい作品や子どもたちが書いた文字が出てきて、美術に苦手意識を持つ子どもでも入っていけるような工夫がされているところが良いという感想があった。

[美術：質疑応答]

教育委員	教科書とは別の美術資料とは、具体的にどのようなものですか。
美術調査委員長	デザインや工芸など、分野ごとのことが詳しく載っており、鑑賞の分野では世界各地の作品や今までの有名な作品なども紹介されています。
教育長	資料は各学校で購入されているのですね。
美術調査委員長	購入している学校が多いです。3年間で1冊の冊子です。
教育委員	光村図書の教科書にはトレーシングペーパーが付いていますが、これは実際に現場で活用する可能性はありますか。
美術調査委員長	トレーシングペーパーは、今までは教科書に挟んでいなかったもので、別で外して使ったりします。

教育委員	別に教科書になくても別で用意できるということですか。
美術調査委員長	別で用意する手間が省けるという点では、あった方がいいと思います。
教育委員	冊数が異なる点について、日本文教出版は3年間で1冊ずつというこだわりがあるという説明でしたが、2・3年でまとめてある他の教科書と、学年ごとに作られている教科書では違いはあるのですか。
美術調査委員長	日本文教出版は3冊にこだわりがあるようで、発達段階における学びを重視し、1、2、3年それぞれの成長を後押しする美術の学びが設定されています。作品数なども多いので、内容としてはとても充実していると思います。ただ、2・3年を1冊にまとめてあると、各校の実情に合わせて選択できるので、2冊の方が私たちとしては使い勝手が良いと思います。
教育委員	学年ごとのこだわりは、実際に使うときには生かし切れないというか、特段生かさなくても勝手が良いということですね。
美術調査委員長	はい。2・3年を1冊にまとめていても、題材、内容は豊富だと思います。
教育委員	美術の授業は1週間に何時間あるのですか。
美術調査委員長	2・3年生は1週間に1時間です。
教育委員	紙面で見ると、QRコードで見るというのも分かりますが、本物を見る授業も子どもたちには必要ではないかと思いましたが、1時間だと無理かもしれませんね。
教育委員	どの発行者の教科書もいろいろな分野のことが出ていて、それをQRコードも使いながら授業で教えるという点で素晴らしいのですが、それをベースにしてものづくりをしたり絵を描いたりもするというのは、時間的に難しいのではないかと感じたのですが、どうですか。
美術調査委員長	ものづくりをするときの最初の説明や導入でQRコードを用いることで、生徒たちの興味もすごく違ってくると思うので、そういうところで使っていけたらと思っています。
選定副委員長	内容的にはそれぞれの分野をすごく丁寧に取り上げてあって素晴らしいけれども、実際の授業で扱い切れるのかという趣旨の質問ではないかと思っています。
美術調査委員長	教科書の内容を全て扱うのは難しいので、先ほども言いましたが、デザイン、工芸など分野ごとでやれるところを絞って、その部分で使っていきたいと思っています。
教育委員	私は伝統工芸を扱っているのですが、木地、木のことなどについてもかなり詳しく書いてあります。柾目（まさめ）や縦木、横木などは、私が講義で話すぐらいのレベルで、多分、子どもたちはほとんど素通りしてしまうのではないかと思います。そういうこともこれには書いてあるのでしょうか。
美術調査委員長	柾目などは技術にも関連するので、同じように学ぶときがあると思いますが、そういうところでもどんどん利用していきたいと思っています。

[美術：審議]

教育委員

3者とも、芸術的な絵画から生活の中の工芸品に至るまで幅広く提案されていて、見ていても楽しくて、差はそんなに感じられないような気がします。光村図書が全体的にきれいかなという感じもしますし、開隆堂出版も、屏風に光を当てて見るというのを自分でも見ましたが、とても素敵で、そういうことが教育の中にあるのは日本人の価値を高めるのにすごくいいと思いました。それぞれ、どれがどうというのはあまり感じませんでした。教える側としてはこういうことが大切だということがあって、多少差が付いているのかなと感じています。

教育委員

どの教科書もすごく色がきれいでいいと思いますが、光村図書の1年生の最初のページをめくると、「美術って何だろう？」と書かれています。よく考えると、小学校から中学校に行ったときに、美術は初めての教科です。この前、中学生の娘が「技術って何？」と家で言っていて、よく考えたら技術も初めての科目で、そういうときに最初にしっかりと「美術って何だろう？」という説明が書かれている点はすごくいいと思いました。

教育委員

さすが美術の教科書というか、どれも色彩がきれいだし、楽しくなるような教科書だと思いました。開隆堂出版は、作品と作者の意図がきちんと書いてあることと、各教科との関わりがはっきりと書いてあると思いました。光村図書は、鳥獣戯画のところで紙質を変えて、本物らしい感じに工夫してあるのと、道徳とのつながりがきちんと明記してあると思いました。日本文教出版は、尾形光琳の屏風が大判になっていて、これを曲げて屏風にして見る点が特徴だと思いました。

教育委員

どれも迫力があって、見開きが工夫されていたり、鑑賞に値する教科書だと思いました。美術は、作品を鑑賞する眼を養うということもあるでしょうし、それに一步でも近づくような、自ら作るという実習の教科でもあると思います。鑑賞することにおいては、QRコード等併用できると思いますが、作品を作るときの導きという視点からすると、生徒の作品が幾つかそれぞれの教科書に載っていますが、そういう作品を生徒がどんな思いで作ったのかということと、そのプロセスに言及してかなり丁寧に作られているのは光村図書だと思います。日本文教出版も、生徒の作品のところに生徒のコメントが書いてあって、どんな思いで何を表現しようとして作ったのかが載っていますが、作品を作るプロセスまで掘り下げて示しているのは光村図書の特色ではないかと思いました。

教育長

子どもが教科書を手に取り、美術と向かい合いながら作品を作るときに、光村図書の方が子どもにとってはよりじっくりくるのではないかというご意見でよろしいでしょうか。

教育委員

はい。

教育長

鑑賞の部分は、どの教科書も素晴らしいですね。委員がおっしゃったように、美術との出合いの部分やスタートのところ、今おっしゃった物を作るプロセスでいくと、光村図書が少し上位に来ているという印象がありますが、皆さんいかがでしょうか。

それでは、3者について挙手をお願いします。

—挙手—

教育長

全会一致で光村図書に決定しました。

本日の採択について確認すると、国語は光村図書、書写は光村図書、社会（地理的分野）は帝国書院、地図は帝国書院、保健体育は東京書籍、美術は光村図書です。

明日の14時から同じ会場にて6種目の審議を行いますので、ご協力のほどよろしく申し上げます。本日は長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。これで本日の会議を終了します。

以 上

令和2年 第8回教育委員会定例会議 会議録（第2回）

1 日 時 令和2年月8月7日（金）

開会 14時00分

閉会 19時13分

2 会 場 金沢市役所第二本庁舎 2階 2201会議室

3 出席委員（7名）

教育委員長 野 口 弘

教育委員 田 邊 俊 治

〃 岡 能 久

〃 大 島 淳 光

〃 丸 山 章 子

〃 木 村 陽 子

〃 長 澤 裕 子

事務局	担当部長（兼）学校指導課長	寺 井 義 春
	教育次長（兼）学校教育部長	加 藤 弘 行
	学校指導課担当課長（兼）課長補佐	青 山 雅 幸
	学校指導課主席指導主事	貞 廣 賢 了

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会		
委員長		松 原 道 男
副委員長		加 藤 隆 弘

教科用図書調査委員

4 案 件

非 議案第27号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について （学校指導課）

5 議事の経過等 以下のとおり

議案27号について非公開で審議に入り、中学校教科用図書のうち、音楽一般、音楽器楽合奏、技術、家庭、英語、道徳について採択を行った。

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 議案第27号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について（学校指導課）

○ 種目「音楽一般」

[音楽一般：説明の概要（選定委員長）]

2者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。

優れている点の中でも特に特徴的な項目として調査委員長から報告があったのは、教育出版がA-1の項目4とA-2の項目1、教育芸術社はA-1の項目2とA-2の項目2だった。

まず質疑では、曲数が多い方が授業をしやすいのかという質問があった。その回答として、曲数についてはどちらも発達段階に合った教材が掲載されており、調査委員会では数については特に問題にならなかった。また、学習指導要領にも示されているように、歌唱共通教材は6曲必ずしっかり学習を深めなければならないが、その歌唱教材の取り扱いや学年の発達段階にあった記載については少し両方で違いがあるという回答だった。

次に、教育出版の方が、考え、話し合ってみようというものが多く、教育芸術社の方は気付いたことをまずメモに取らせるものが多かったように思うが、書いて話し合う活動について調査委員会で議論があったかどうかという質問があった。その回答としては、議論はあったということで、特に教育出版では「話し合おう」という書き込み欄があり、自分の考えをまとめてみんなと交流することを通して対話的な学びが展開され、鑑賞教材にも「話し合おう」という書き込み欄があり、みんなと交流することができる。一方、教育芸術社は、例えば「翼をください」で説明すると特徴が4点ほどある。1点目は、特にふさわしい表現を工夫しようというふうに学習のねらいを明確にしていること。2点目は、学習の流れが番号に沿って示され、見通しを持って子どもたちが学ぶことができること。3点目は、自分の考えをまとめる欄があり、ここで音楽の見方や考え方を働かせることができるように思考の例やキャラクターの吹き出しがあって、多様なモデルが示されていること。4点目は、自分の考えを書いた後、友達の考えを書き留める欄があり、自分たちの演奏に生かすアドバイスによって曲に対する捉え方が深められるように考慮されていることである。

次に、ウェブ上の内容も含めて曲の種類や扱いの違いについての質問があった。その回答として、歌唱共通教材の配列が2者で違っていることが挙げられる。例えば教育出版は「夏の思い出」が1年生に掲載されており、教育芸術社は同じく歌唱教材の2・3年の「上」に掲載されている。

「曲にふさわしい表現を工夫して歌いましょう」とあるが、かなり難易度の高い曲で、これについては教育芸術社のように2年生で歌うのが適切ではないかということだった。また、ウェブコンテンツについては教育出版の特徴として歌唱教材が実際に体験できるようなものが多く、例えば「夏の思い出」について映像を見ながら子どもたちが実際に歌う活動ができるように工夫されている。一方、教育芸術社は、例えば交響曲の学習をしたときに、授業でも家庭でも弦楽器の音色をもう一回聴いてみたり、オーケストラの響きを感じ取ったりできるようにQRコードが示されており、学習の手がかりとなって効果的であるということだった。また、神奈川県フィルハーモニーのホームページにつながっており、自宅でも家庭でも活用できるということだった。どちらかというとなら教育出版の方が歌唱が動画として挙がっていて、教育芸術社は鑑賞の方が挙がっているということだった。

その後の選定委員会の議論は主に感想が述べられた。教育芸術社は挿絵などがおしゃれな点と、ポピュラーミュージックもかなり詳しく書いてあるので、こういうところをきっかけにして音楽のもっと深いところに入っていくことになるのではないかという点で好感を持ったという感想があった。また、デジタルコンテンツについては、教育芸術社のものを見ると大半が外部リンクなので、リニューアルなどをしたときにリンクが消えてしまうのではないかという点は留意する必要があるという指摘があった。

[音楽一般：質疑応答]

教育長

そもそも論として、次に音楽器楽の審議をするわけですが、音楽一般と器楽合奏の違いは一体何でしょうか。それから、音楽一般の前回と今回の学習指導要領で何か違った点がありますか。

音楽一般調査委員長

音楽一般は、学習指導要領では表現と鑑賞の二つの領域に分かれています。表現領域には歌唱、器楽、創作の三つの分野があり、音楽一般には表現領域の歌唱分野と創作分野の教材が豊富にあります。もちろん鑑賞領域のものも十分に含まれています。器楽の教科書は、表現領域の器楽分野の

教材が中心になるかと思えます。

学習指導要領における音楽の目標は、先ほど申し上げたように「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す」としています。特に「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」は新しく入った言葉です。「音楽的な見方・考え方」については、どちらも特徴があるのですが、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること」とされています。それが「音楽的な見方・考え方」になるのですが、簡単に言うと、音楽の特徴を捉える力になると思えます。

例えば、教育出版は、1年生の教科書の5ページに「学びのユニット」というものがあります。円の周りに学びの手掛かりとなる、その音楽を形づくっている要素（形式、構成、音色、リズム）がしっかりと示されています。関連して64ページにも大きな円があり、音楽と音楽を形づくっている要素が示されています。例えば授業の中で、「きらきら星変奏曲」はどのような感じがするかと教師が問い掛けると、「たくさんの星がきらきらと輝いている様子が浮かぶ」、それから左下の主題と右上の変奏1を聴き比べると、「星の数が何か多くなっていて輝きが増したよ」というふうに、生徒が自己のイメージと音楽を形づくっている要素を関連付けて特徴を捉えることができるようになってきていると思えます。

一方、教育芸術社の8ページには、「音楽によって生活を明るく豊かなものにしよう」というページがあり、各教材の学びの窓口となるような、音楽を形づくっている要素が下の方に教材ごとに示されています。また、9ページの右には、音色とはどういうことかということが、声や楽器の音色、身の周りの音などというふうにさらに具体的に書かれています。これと関連して、18ページに「主人は冷たい土の中に」という教材があります。教育出版との違いは、教材ごとに左の学習目標の下にも音楽を形づくっている要素が示されている点です。これは、どの教材にもこのように示されています。そして、右のページに「深めよう音楽」というものがありますが、ここでは感じ取ったことを基に楽譜を見ながら音楽の特徴について調べ、表を完成させます。ここまでは個です。さらにグループで話し合い、もう一度歌って確かめるという学習の流れになっています。個、グループ全体での学習が相乗効果を生むように、吹き出しをヒントにして子どもたちが音楽と向き合っ音楽表現を追究できるように工夫されていると思えます。音楽の特徴をしっかりと捉え、それを踏まえて歌うことが表現を工夫することにつながると思えます。現場の先生にはこのような過程を大切にしてほしいと思えます。

教育委員

音楽一般と器楽の選択が別々でもいいとなると、例えば片や教育出版、片や教育芸術社というのは可能なのかどうかと問われると思うのですが、そのあたりの選択はどうなのでしょう。

音楽一般調査委員長

カリキュラムを作るときに、鑑賞だけ、歌唱だけという指導計画を作るのではなくて、やはりそれぞれの分野や領域の関連を図った指導計画を作ることが求められているので、同じ教科書の方が作りやすいと思えます。

教育委員

切り分けられないのかなと思うのですが、教科書も分けした作りになっていないので、選択の仕方としては一括して決めるという選択肢になりますよね。併せて、今の質問に重ねて、音楽を構成する要素ということで特徴を説明していただきました。曲ごとにこまめに、ここに着眼しましょうという構成要素が付記してあるのが教育芸術社ということでしたが、授業として選択する曲目は、教科書に挙がっているものから選択しながら実

	際に授業で使うのですよね。全て扱うということではないのですよね。
音楽一般調査委員長	そうですね。学習指導要領の内容を、教科書を使って指導するということです。
教育委員	教科書に掲載されている曲を全て扱うわけではないということですね。
音楽一般調査委員長	はい。
教育長	ちなみに、共通する曲はどれくらいありますか。
音楽一般調査委員長	合唱ですと年に1～2曲、3年間で6曲程度だと思います。それに加えて歌唱共通教材があります。
教育委員	先ほどの説明は非常に分かりやすく、大変理解できました。その中で、金沢もそうですが、伝統や文化と関連付ける観点では今の2者はどういった構図なのでしょうか。
音楽一般調査委員長	伝統と文化に関する内容項目については、どちらも調査委員会では高く評価しました。教科書のページ数も十分にありまじし、それぞれ伝統的な楽器や郷土の音楽について学習が深められるように充実が図られていました。
教育委員	伝統音楽については、教科書に載っている全てが授業に取り入れられますか。
音楽一般調査委員長	それも選択してということになると思います。
教育委員	では、触れない曲もあるということですか。
音楽一般調査委員長	はい。特に金沢市は、能については地域の資源を活用しながら十分に取上げられると思います。
教育委員	器楽合奏に関するものと一緒に審議するのでしょうか。
教育長	科目が分かれていますので、先ほどの調査委員長の発言はそれはそれとして受け入れますが、今ここは音楽一般について審議させていただいています。
教育委員	分かりました。
教育委員	先ほどの説明で、「夏の思い出」は1年生よりも2年生の方がいいという話があったと思うのですが、学年間の関連性というか、1年生、2年生、3年生がいつどのタイミングでどの曲をとという点では、「夏の思い出」以外も含めてどちらの発行者が優れていると思われますか。
音楽一般調査委員長	「夏の思い出」もそうなのですが、1年生はまだ変声期が終わっていない生徒が多いので、音域の広い曲は1年生では少し難しいと思いますし、表現の工夫まで行くにはちょっと難しいと感じます。技術的な面においても2～3年生で学ぶのが適切だという意見が調査委員会ではありました。
教育委員	他の曲でもやはりそういう感じですか。

音楽一般調査委員長	他はそれほど無理なものはないのですが、特に歌唱共通教材は必ず学習しなければならぬ教材ですので、少し配列が適切ではないのではないかと思います。どちらかというとならば教育芸術社の方が適切です。
教育委員	授業に取り入れるのは、その先生によって違うということですか。項目として例えば「勸進帳」を歌うとか、歌舞伎を必ず1回映像で見るとか、そういうのは必ずあるのですか。
音楽一般調査委員長	教材の取り扱いについては、学校のカリキュラムに合わせて選んでいくことになると思います。関連したものを深めるために補助教材として使うこともあります。しかし、全部の教材を扱うことは、時間的にも35時間しかないのでは、難しいと思います。
教育委員	その学校によって違ってくると解釈してよろしいですか。
音楽一般調査委員長	そうですね。でも、金沢市には教育課程の基準となるベーシックのカリキュラムがあるので、ほとんどはそれに沿っています。多分、学校によって一番違うのは合唱曲で、合唱コンクールなどでは子どもたちが教材を選択することが多いです。ほとんどの学校では、子どもたちがたくさんある中から自分たちの声域や発達段階に合った教材を先生のアドバイスによって選ぶことが多いと思います。卒業式の歌唱教材についても、3年生の思いを十分に生かして、思いをくんで教材を選ぶことが多いと思います。
教育委員	伝統音楽についてはどうですか。子どもたちは選ばせませんから、先生が主体的に選ぶ形ですね。
音楽一般調査委員長	そうです。教科書にあるページはそうなのですが、音楽で一番大事なのは、音楽室で鳴り響いていることそのものになりますので、そこも教師によっていろいろCDやDVDを選ぶということが出てくると思います。
選定委員長	指導要領に書いてある曲は学習しないといけないということは説明された方がいいと思います。
音楽一般調査委員長	歌唱共通教材が各学年で2曲ずつ含まれていて、「赤とんぼ」「荒城の月」「早春賦」「夏の思い出」「花」「花の街」「浜辺の歌」となっています。
選定委員長	学習指導要領の107ページになります。
音楽一般調査委員長	この中から各学年で1曲以上は指導することとなっていますが、やはりわが国で長く歌われ、親しまれている教材ですので、ほとんどの学校は2曲、3曲と指導していると思います。
	(選定委員長、選定副委員長、調査委員長、退室)
事務局	事務局から2点お願いします。先ほど音楽一般と器楽の教科書について委員から連動するののかというご質問があったと思います。これについては、特に同じ発行者であるべきだということではなくて、それぞれ音楽一般なら音楽一般、器楽なら器楽でより良い教科書を採用していただきます。過去に異なる発行者を採用したこともありますので、特に音楽一般がこれになったから器楽も同じということではありません。その点をご留意いただけたらと思います。
	もう1点は、伝統的な音楽の指導についてです。学習指導要領104ページ

ージの下から7行目に、「民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、生徒や学校、地域の実態を考慮して、伝統的な声、歌い方の特徴を感じ取れるもの、なおこれらを扱う際は、その表現活動を通して生徒がわが国や郷土の伝統音楽の良さを味わい、愛着を持つことができるようにすること」となっていますので、この点については各学校の実情に応じて選択し、カリキュラムの中に位置付けることになっています。

[音楽一般：審議]

教育委員

調査委員会から提出された資料を拝見して、やはり教育芸術社がA-1の1、2、3あたりで、内容的にも充実しているのではないかと察したのですが、説明を聴いていてもそちらの方が素晴らしいと思いました。

教育委員

私も教育芸術社の方が優れていると思います。教育芸術社の1番の冒頭8～9ページの右欄は、学習内容について各項目がどこに属しているのかという一覧性があり、何のために音楽を学ぶのかということで、最初に「音楽によって生活を明るく豊かなものにしよう」と書かれていました。これに対し教育出版の4～5ページは、歌う・作る・聴くという形では一応分類されているのですが、その結果、音楽をどういうふうに自分の中に消化していけばいいのかというところは、明確にはこのテキストにはないと思います。

それから、指導要領107ページの先ほどご指摘いただいた場所ですが、その最後に「わが国で長く歌われ、親しまれている楽曲のうち、わが国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの、またわが国の文化や日本語の持つ美しさを味わえるもの」として、「赤とんぼ」以下の曲が挙げられています。「赤とんぼ」に関しては、教育芸術社では28ページ、教育出版は16ページにあります。単に楽譜だけでなく、作詞家の言葉であったり、それに関連する文献、また作曲家、作詞家を紹介するという点は変わらないのですが、教育芸術社は最初のところに、なぜこの歌を素材として挙げたのかを説明し、「言葉の美しい響きを生かしながら発音に気を付けましょう」というふうに、まさに学習要領に沿った目当てが明記されている点でも充実していると感じました。

教育委員

幾つかご指摘されたことは同感ですし、併せて言えば調査委員会からの報告もありましたけれども、音楽を素材にして深めていくという「深めよう音楽」という箇所、丁寧に音楽の素材を分析していったり、みんなと話し合っただけを深めていったりという作りが充実している点は、教育芸術社の方が秀でていたと感じました。

教育委員

学年の段階に応じたという点が私は気になっていて、発達段階に適した音楽が順序立てて配列されている点はやはり重要だと思います。そういう意味で教育芸術社の方がいいと思います。

教育長

それでは、音楽一般について教育出版がいいと思われる方は挙手をお願いいたします。教育芸術社がいいと思われる方は挙手をお願いいたします。

—挙手—

教育長

全会一致で、教育芸術社に決定します。

○種目「音楽器楽」

[音楽器楽：説明の概要（選定委員長）]

2者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。中でも特徴的

なのは、教育出版はA-1の項目1とA-2の項目1、教育芸術社はA-1の項目2とA-2の項目2だった。

質疑ではまず、調査項目A-1の4で、「道徳心を育むよう工夫されている」というのは何を指しているのかという質問があった。その回答として、教育出版は2ページの口絵のところに「心をこめて」というページがあり、箏や篠笛の演奏家から「中学生のみなさんへ」ということで、演奏家が簡単にできるわけではなくて、演奏家の人生を背負ったメッセージが書かれているということだった。一方、教育芸術社の裏表紙の裏には、郷土の祭りや芸能の紹介ということで、神戸の中学生、その下には宇都宮の生徒の写真が載せてある。郷土や国を愛する心を育むという点でまとめると、教育出版は演奏家、教育芸術社は伝統を継ごうとしている子どもたちのことが載せてあり、どちらも魅力的である。その中で、教育芸術社の子どもたちを取り上げている方がより良いのではないかということが話し合われた。

次にA-1の項目6で、教育芸術社がいろいろな楽器ではなく、特にリコーダー一つのことに関してとても素晴らしく評価が高いことについて質問があった。その回答としては、どちらの教科書もリコーダーについて大変分かりやすく、段階を踏んで学べるように工夫はされているが、教育芸術社がとても工夫しており、例えばソプラノとアルトで同じ指使いで吹けるようになっている。中でも「喜びの歌」を挙げ、子どもたちにとってはソプラノリコーダーで吹いて、そのままの指で動かすと簡単にアルトリコーダーの指使いが習得できる工夫がされているという回答だった。

次にA-2の項目3で、動画コンテンツ等の特徴や実際の授業での活用可能性などについて質問があった。その回答としては、どちらもQRコードが付いているが、教育出版は「まなびリンク」というものになっており、入っていくといろいろな楽器があって、大体教科書に合わせて音源資料がある。一方、教育芸術社は各楽器の教材の下にQRコードが付いており、例えばリコーダーのQRコードから入っていくと、リコーダー演奏者の川端りささんについての記載が出てきて、経歴や演奏の動画が付いている。まとめると、教育出版はCDやDVDで対応でき、CDやDVDの方が意味ではしっかりとした音が出て、より子どもたちが分かりやすい。一方、教育芸術社はそれを超えて演奏家の生き方やメッセージ、道徳心の話もあり、音楽を通して演奏家の生き方についても生涯触れてほしいといった特徴があるという回答だった。

これに関連して、動画コンテンツを音楽の授業で教材として使うための環境整備について質問があった。その回答としては、大体どの学校でも、音楽室常駐の大きな画面のものが整っているという回答だった。

その後の選定委員会の議論は主に感想である。例えば、吹奏楽部に入って本格的な音楽をやっている人たちだけがそういった世界につながっているわけではないことが分かるような動画になっているとすれば、それは素晴らしいことであり、そのような点も評価に入れていただければという感想があった。

[音楽器楽：質疑応答]

教育委員

たくさんの楽器が教科書に掲載されていて、例えばリコーダーの時間数の比重が多いのか、器楽を使った授業の中で扱われる器楽はどのような状況で、それに沿って教科書の中身が充実すればいいのではないかという考えに立つので、どの楽器が主に学習されているのか、聞かせてください。

音楽器楽調査委員長

本当にいろいろな楽器が載っています。教育出版と教育芸術社は編集的にも少し異なっていて、教育出版は管楽器や弦楽器など楽器ごとに、教育芸術社はよく取り扱われる順番になっています。教育芸術社の教科書を開くと、最初に楽器として出てくるのがリコーダーです。先ほどソプラノリコーダーとアルトリコーダーの話もありましたが、子どもたちは小学校のときにたくさんリコーダーを吹きます。それは、発展してテノールやバス

の場合もありますが、一般的にアルトリコーダーを使うことが一番多いと思います。管楽器は、市内で2～3校だけ和楽器の篠笛を選択している学校もあります。その次にギターもありますが、こちらもやはり将来にわたって子どもたちがやってみたいと思ったときに、中学校で経験しているかどうかは大きな違いがあって、子どもはできるだけギターの授業も時間を取っています。

目次の右側に箏や三味線、太鼓、篠笛、尺八などがありますが、金沢はやはり箏などはみんな結構やっています。三味線も金沢スタンダードに入っていますので、やっているところが多いです。その下の太鼓や尺八になると、一部の学校や地域と絡めてという場合が多いと思います。ご質問にあったようにどんな楽器を学ぶかということですが、どの楽器も結構触れることが多いと思います。

教育委員

そういう意味では、教科書でいろいろ挙げられているのはとてもいいということですね。

音楽器楽調査委員長

はい。欲を言えば、せっかく金沢なので、能の楽器ももっと取り上げてもらえたらと思っています。ですから、いろいろな楽器が挙げられているのはとてもいいことだと思います。

そして、学習指導要領では、子どもたちの指導上の必要に応じて和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器などを扱うことになっています。それから、和楽器については3年間を通じて1種類以上扱うことになっています。先ほどから申し上げているように、金沢の子どもたちは1種類以上は完全にクリアしています。

教育委員

先ほどウェブコンテンツの話があったと思うのですが、QRコードなどは実際の授業で使うことはありますか。教育出版の方はCDやDVDで対応できるのではないかという話もあったと思います。授業で使う範囲であればCD、DVDでもいいと思うのですが、家庭学習で使うものなのか、授業の中で使っているものなのかを教えてください。

音楽器楽調査委員長

現在扱っている教科書には付いていないのですが、この4月からのことを考えると、そういうことも想定されます。教育出版の「学びリンク」から入っていくと、それぞれの教材の音源が入っています。それを授業で使うかという、先ほど少し話がありましたが、大人数のときはやはりもっと音質の良いスピーカーを通したものの方がいいでしょう。しかし、例えばグループになって何か考えてみようとしたときには、活用できる気がします。また、家庭でこれを使おうと思ったときには、簡単に「学びリンク」から入っていけるとしています。

教育委員

和楽器に関しては、それぞれの学校に人数分の楽器があるのですか。

音楽器楽調査委員長

大変うれしい質問を頂きました。日々私どもが悩んでいるところです。金沢市の場合、全ての子どもたちが持っている学校はありません。市の教育プラザから貸し出しの申し込み書が来ます。3月ごろでしょうか。その後調整されて、金沢市の中学校と小学校に割り当てられるのですが、やはりこのときにこれだけ欲しいなと思うものがなかなかもらえないので、とても苦戦しています。持っている他の学校に少し借りたり、私的に持っている方に借りに行ったりして授業をしています。ですから、ぜひ和楽器を増やしていただけるとうれしいです。

教育委員

種類が多いので大変ですよ。能楽になると鼓など、ジャンルがたくさんあるので、それを全部そろえようと思ったらとてつもない金額になると

思います。でも、この教科書を拝見していたら邦楽が随分多くて、私はそちらに関連する仕事をしていたので、これだけのことを中学で学んでくれたらありがたいと思っています。やはり金沢ですので、そこにこだわりたいと思って拝見しました。

音楽器楽調査委員長

ありがとうございます。「金沢です」という言葉を私も日々思って子どもたちに接しています。全部は難しいと思うのですが、私は授業でいつも箏や三味線を子どもたちに、1人1面、1人1張用意します。能の楽器はちょっと難しいので、能楽協会の方にご協力いただいて、楽器を順番に体験することになると思います。

教育委員

拝見していると、いろいろな楽器について極めて細かく出ていて、このようなことをみんな知っていたらすごいなと思うのですが、2者を比べて、例えば漠然と打楽器だけを拝見すると、教育芸術社の方は極めて丁寧に出ているような気がしますし、もう一方の教育出版はあまり丁寧ではないような気がします。ですから、教育芸術社の表現の方が丁寧に書いてあるような気がしました。

音楽器楽調査委員長

どちらもメインの楽器は大きく取り上げていますが、おっしゃられている打楽器となると、全部が和太鼓をやっているわけではありません。そうになると、洋風の打楽器もそうですが、学校選択になります。ですが、おっしゃられたように教育芸術社の方がちょっといいなと思ったときに、先ほど伝統音楽の話が出ましたけれども、教育芸術社の69ページを見ますと、「日本音楽の楽器編成」が出ていて、今言われました日本の打楽器も載っていますし、72～74ページあたりでは洋楽器についてもとても詳しく示されています。

対して教育出版は、表表紙を開くと裏に「さまざまな音色や響きと奏法」というところがあり、このような感じでひとくくりにして載っています。子どもたちからすればどちらが分かりやすいかというところと一目瞭然かと思いますが、今おっしゃられたように、教育芸術社の方が教科書としてはより工夫されていると感じています。

(選定委員長、選定副委員長、調査委員長、退室)

[音楽器楽：審議]

教育委員

結論から言うと、私は教育芸術社の方が優れていると思いました。音楽一般とは別でも構わないという前提でしたが、音楽一般と共通する部分、教科書の理念のようなところを比べても、教育出版の方は「演奏の仕方を身に付けよう」というスローガンのようなものがありますが、逆に教育芸術社は「音楽によって生活を明るく豊かなものにし音楽に親しんでいこう」ということで非常に対極的で、何のために音楽をするのかというところが一目瞭然であり、それをうまく表現という形で器楽と創作に分けています。私は全く音楽は分かっていないのですが、素人でも分かりやすく表現されているのが教育芸術社ではないかと思いましたので、教育芸術社がいいと思います。

教育委員

私は教育出版の表紙裏の「心をこめて」が、音楽をやる上でとてもいい言葉だと思ってすごく印象に残ったのですが、全体を見てみるとやはり、例えば演奏法の解説が詳しく載っているのは教育芸術社だと思います。「楽器を知ろう」など楽器のルーツも詳しく書いてあるので、どちらかというところと教育芸術社かなと思います。

教育委員

私も結論から言うと教育芸術社の方がいいと思います。全体的に一つ一つの楽器に対して丁寧に書かれている点と、13ページの「深めよう！音楽」を見ても、金沢型学習スタイルのグループ学習のことまで書かれていて、器楽を使ってこのスタイルで学習が展開できるところがいいと思いました。あとは、箏のところを見ても、箏の楽譜は全く見慣れないのですが、最終的に両方の教科書が自分で楽譜を書く作業まであって、教育出版ではこの流れで果たして書けるのだろうかという部分がありましたが、教育芸術社の方はその前に箏の楽譜が幾つか展開されて、慣れてきた頃に自分の楽譜を書いてみようという丁寧さがあって、子どもたちもこれなら書けると思うのではないかと思います。全体的にすごく丁寧なのは教育芸術社の方だと思います。

教育委員

教育出版は「学びリンク」を貼って、楽曲個々にアクセスできるところが優れていると思います。一方で、音楽の授業ではみんなでいい音源と一緒に聴いて感じる事がとても大事だと思いますので、必ずしもそういう楽曲にこういう形で「学びリンク」が付いていなくても、代替の手段で音源に触れることはできるのではないかと思います。教育芸術社については、QRコードで楽器のみならず演奏家への理解を深める内容が入っているので、やはり演奏家に対する理解を深め、その楽曲をさらに深く知るという点ではとても重要なことだと思っています。

教育委員

私も皆さんご指摘の点と同感で、曲を演奏するだけでなく、みんなで考え深めながら音楽に向き合おうという、一つ一つの曲への向き合い方について配慮した作りになっている点と、リコーダーが一番取り扱われているということでリコーダーの箇所を見比べると、リコーダーを扱うに当たってレッスン1、レッスン2と段階を踏んで器楽演奏ができるようにしている作りがとても工夫されています。その点に注目しても、丁寧な作りに配慮されている教育芸術社の方が教科書としてはふさわしいと思います。

教育長

恐らく子どもたちが初めて触れる楽器もこの中では随分多いのではないかと思います。初めから難しいものが来ると学びの意欲がそがれると思うのですが、教育芸術社の方は割と、見ていてもこの曲は知っているな、簡単にできそうだなというところからスタートしているので、配列も工夫されていると思いました。

それでは、2者で挙手をお願いしたいと思います。

—挙手—

教育長

全会一致で、教育芸術社に決定します。

○種目「技術」

[技術：説明の概要（選定委員長）]

3者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。中でも特徴的だったのは、東京書籍はA-1の項目8とA-2の項目2、教育図書はA-1の項目3とA-2の項目1、開隆堂はA-1の項目1とA-2の項目4だった。

質疑ではまず、A-1の項目7、東京書籍の欄にQRコードの表記があり、その評価について質問があった。その回答としては、子どもたちが自分のタイミングで動画を見たときに音声が付いている点で東京書籍が優れていると判断したとのことだった。教育図書にも製作に関わる細かなのこぎりの切り方やけがきの仕方などの動画がある。細かい作業の動画を良しとするか、音声付きを良しとするかということで調査委員会でも意見が分かれたが、音声が付いている方がいいだろうということで、そこを評価したという回答だった。

次に、教育図書は「技術ハンドブック」というものがあり、安全面からそういうものが付いている点をもっと高く評価していいのではないかという質問があった。その回答としては、教育図書のハンドブックは大変詳しいが、以前は資料集や別の冊子を1冊持たせていた時代もあったものの、これらの工具を授業で全て使うことはないので、今は資料集が使われなくなった。その点で他社の教科書の安全面の内容で十分ではないかということで、調査委員会では高く評価していないという回答だった。

次に、東京書籍と教育図書はプログラミングの内容が比較的たくさん入っていることが評価されているが、今回の改訂でどのくらいプログラミングの内容が増えたのか、また現在の学びと新しい教科書での学びの差はどれくらいあるかという質問があった。その回答としては、今回の学習指導要領の改訂は、ネットワークを利用した双方向性という文言が大きく変わった点で、新しい教科書では小学校でも扱うようなスクラッチなどの双方向性のネットワークを利用したプログラミングができるものが積極的に扱われている。それ以前の教科書は、双方向性というよりもデジタル作品や単純にさまざまなセンサーを使った制御の仕組みが社会の中でどのように活用されているのかが主になっている点が違うという回答だった。そして、中学校の限られた時間の中で他の内容も学習しながら、いかに小学校で身に付けてきた内容をより良く子どもたちに学ばせるかということで、プログラミングなどについては今後の大きな課題であるという回答だった。

次に、現代的な諸課題への対応でSociety 5.0やSDGsを挙げた評価があるが、具体的に教科書ではどう表れているのかという質問があった。その回答としては、Society 5.0は授業の中でも扱っていきたい内容であり、東京書籍では2ページにわたって大きく扱われており、教育図書でも2ページの見開き全てを使ってSociety 5.0を扱っているが、開隆堂はSociety 5.0の扱いはあるものの、そこまで大きく扱っていないという回答だった。

次に、小学校との関連について東京書籍はかなり詳しく、例えば小学校4年生理科の金属といった関連が詳しくコースごとに書かれていたが、教育図書だと例えば小学校の社会・理科・生活との関係があるという大ざっぱな書かれ方であり、細かい方がいいのかどうかについての質問があった。その回答としては、小学校との関わりは金沢ベーシックカリキュラムでも重視されているが、小学校のときに学習した内容項目が有効になるということだった。ただ、全てできるわけではないので、細かいのがいいかどうかは場合によるという回答だった。

次に、自己評価の欄を扱えるかどうかについての質問があった。その回答としては、教科書の中にレポートやまとめの作り方などがたくさん出ており、授業ではぜひそうやって自分で自分の考えをまとめさせる場面をつくっていきたいが、時間が限られている中でこの教科書の中から授業者が取捨選択をして学習させて扱っていくことになるだろうという回答だった。その後、選定委員会の議論で、内容が明確になるように一部文言の修正を行った部分がある。

その他の感想として、中学校に入ってきていきなりこれだけプログラミングのハードルが上がり、小学校から上がってきてその辺のつながりなどをきちんとサポートしてあげないと、つまずいてしまう子どもが出てしまうのではないかという指摘があった。また、「小学校何年生と関係がある」と書かれているのはいいことであり、その辺をもう少し評価してもいいのではないかという意見もあった。

[技術：質疑応答]

教育長

今回の学習指導要領で、新しく入ってきた内容はありますか。

技術調査委員長

実習の題材等については、それほど大きく変わったところはないと感じています。ただ、新しい技術、それから未来に向けて学習したことを使っていくという学びに向かう力、人間性の力を身に付けていくところが大きく変わったところの一つと捉えているので、そういう最新の技術や生産性を上げるために努力している方々の様子を、これまで以上に子どもたちに

伝えていかなければならないのではないかと考えています。もちろんプログラミングについては、双方向性の話が先ほども出ましたが、小学生のうちから論理的なものの見方を子どもたちに身に付けさせることが大きな変化ではないかと考えています。

教育委員 情報モラルについて、この3者の記載の中でそれぞれ特徴のようなものや優れている面などがあれば教えていただけますか。

技術調査委員長 特に子どもたちが押さえておかなければならない内容はどの教科書も押さえていますので、内容的には大きく差はないと思います。

教育委員 そうすると、子どもたちにとっての見やすさであったり、見せ方での違いと捉えたらよろしいでしょうか。内容としての差はないということでもよろしいですか。

技術調査委員長 そのように捉えていただいていいと思います。

教育委員 イメージとしては、実習を行っていくことが重要な中身になると思っていたのですが、情報に関わることなどが幅広くなってきたと感じています。3つの発行者を見比べると、最初にガイダンスに何ページか費やされており、ガイダンスの扱われ方が随分違うと思うのですが、技術の授業をするときにこのガイダンスが果たす役割として、参照しておきなさいという形なのか、すぐさま実習などの形になっていくのか、実質的にどんな扱いなのか教えてください。

技術調査委員長 ガイダンスは大変重要なものと捉えています。技術という教科は小学校から上がってきた子どもたちにとって初めての教科となるので、最初にこういう勉強をするのだという時間をしっかりと取って授業を行っています。特に大事にしたいのは、このガイダンスのページにも出ていると思うのですが、ものの見方・考え方の特徴です。電気について学ぶときに、技術という教科ではこういう視点から電気を学んでいくということ、ものづくりについても技術という教科ではこういう視点から学んでいくということを授業を始める前に子どもたちにしっかりと分かってもらうために、ガイダンスは大変重要な時間だと考えています。ただ、全体の授業時数がそれほど多くないので、3～5時間ぐらい取っている先生方が一般的ではないかと考えています。

教育委員 ガイダンスの作りを見比べると、教育図書は、要点が書いてあるのかもしれませんが、とてもあっさりしていると思います。東京書籍は、技術を学習する際にどのような活動をどういうふうにまとめていくのかがかなり丁寧に示されていて、こういうのをじっくりやれば結構力になるという印象を持ちます。開隆堂は、ガイダンスには随分ページ数を割いていて、技術を学ぶ上での知識の領域のことは丁寧に書いてあるのですが、生徒たちがどのようにそれを身に付けていくのか、お互いにグループで考えたりするところまでは及んでいないガイダンスの中身だと感じています。導入の個所が丁寧に作られていることはとても大事だという印象を持ちます。そのあたりは評価としてどうなのでしょう。

技術調査委員長 調査委員も同じように考えました。

教育委員 プログラミング教育は、学習指導要領の中でも重要視している点だと思います。小学校から中学校でハードルが高過ぎると、子どもたちは嫌になってしまうと思うのですが、ちょうど適切なレベルでプログラミング教育

が展開されている発行者はどこだと考えますか。

技術調査委員長

どの教科書も小学校で学んできたプログラミング教育を踏まえて、学習内容を整理したり、より発展的に学習できるように工夫されています。

教育委員

のこぎりなど危険を伴うようなものを使って実習をされていると思うのですが、安全面について各者それぞれ特徴はありますか。

技術調査委員長

どれがというものは無いのですが、どの発行者も、先ほどのガイダンスの中で、基本的に技術の授業でものづくりをする際の安全についてはしっかりと捉えています。それから、今ほど出た両刃のこぎりについては、両刃のこぎりに特化した安全指導については、教科書の中での図の大きさや扱いの大小はありますが、どの教科書もしっかりと捉えているので、それほど大きな差はないと思います。盛りだくさん度を比べると、教育図書がより多岐にわたって実習例が出ています。

教育委員

生物育成の技術が技術科の分野に入って何年ぐらいたつのですか。

技術調査委員長

以前は栽培という領域でした。それで、学校内に学校農園を作って野菜を育てたり、そういうものを実習として行っていました。何年前からというのは今すぐ出てこないのですが、これまでのように野菜や植物に特化せず、畜産や漁業など幅広く生物を育成する産業に視野を広げています。

教育委員

自分が習ったのはどちらかという木工が中心のものと機械・電気関係のことだったのですが、随分と幅広くなっていて、読んでいてとても楽しかったです。

教育長

自分が中学生のとき、技術の時間に使っていて一番ハラハラドキドキしたのは電動のこぎりやボール盤で、うまくできるかなと心配していました。これは理科などにもつながってくるのですが、ものをつくるときにいろいろなものを触ったり、理科では実験したりするとききちんと安全指導していかないといけないと思うのですが、この3者でどの発行者が丁寧に安全指導を行っているか見ていますか。

技術調査委員長

工作機械等についての安全指導については、今回の調査委員会ではそれほど3者の中での差はありませんでした。

教育長

私は、東京書籍が割としっかりしていると思いました。安全というマークが付いていて、そのあたりをしっかりと示していると思いました。例えば32～33ページの下にある「主な加工方法における注意点」や、「不安全状態」「不安全行動」など安全指導についてしっかりと書かれている点が、私の目からは3者の中で一番優れていると見たのですが、調査委員会でもしそういう差を捉えていないということであればそれで結構です。

選定副委員長

例えば、帯のこ盤などの工作機械はどの学校にもあるわけではないので、一概にそれを使うことはできないと思うのですが、そういう便利な新しい工作機械については、確かに東京書籍は帯のこ盤のことも細かく出ているので、扱っていると言えらと思います。

教育長

私は理科の専科をしていたので、なぜ理科室の椅子がそのような椅子になっているのか、しっかりと子どもたちに教えて、理科室の椅子を使うよう求めてきたのですが、技術室の椅子も通常の形状と違いますよね。そう

いう基本的なところで丁寧だと思われるような記載は何かありましたか。

選定副委員長

安全面については各者それぞれ工夫されているのですが、東京書籍の21ページに、よく見慣れた理科室や図工室でかつて使われていたような椅子などが例示として載せられています。ある例を見せて、ではこの道具にはどういう役割や意図が隠されているのか、どういうふうに工夫されているのかということから、身の回りのものに気付かせていくような仕掛けが東京書籍にはあると思います。

(選定委員長、選定副委員長、調査委員長 退室)

[技術：審議]

教育委員

技術と最初に出合ったときに何を学んでいくのかというガイダンスに力を注ぐというお話を聞いて、ガイダンスの内容を見比べると、東京書籍は丁寧な作りになっています。さらにいろいろな実習や作業の中身を見比べると、例えば木材や金属の加工に取り組みることが多いと思います。そういう木材や金属、プラスチックなどの素材について、それらがどういう素材なのかを比較している箇所を順番に確認すると、東京書籍は23ページに、木材・金属・プラスチックはこういう特性があって、こんな利用方法があるということが1ページを費やして丁寧に記述されています。教育図書は34ページに、三つの素材の比較が小さくまとめられています。中身に関しては東京書籍のような記述はありません。開隆堂は26ページに、木材・金属・プラスチックにこういう特性があるという記述はありますが、東京書籍と比べるとかなり簡略したまとめ方になっています。

こうした中身を見比べても、東京書籍の方がいろいろなことを考える素材が丁寧に提供されていて、全体の課題が何なのか、取り組んでみてどうなのか、まとめて振り返ってみるとどうなのか、それらに取り組んでいる中身についてのさまざまな情報提供を丁寧に構成している印象を持ったので、東京書籍が使いやすいと感じました。

教育委員

まず技術の教科書を見たときには、私が学んだときと相当変わってきて多岐にわたっており、今の子どもたちは大変だなと思いました。その反面、私が社会に出て実感することと非常に通じるのは、社会に開かれたという言葉もあり、社会とつながっている内容が非常に多いというのが第一印象です。

そういった点でも、委員からあったとおり、私もまず何を1年間で学ぶのかという最初のガイダンスなどを見ていると東京書籍が非常に丁寧です。例えば社会に出ると意思決定をしなければいけない、物事を決めていかなければいけないという作業が毎日連続してあるのですが、そういうものの手順やブレインストーミング、具体的に言うとPDCAの回し方やマネジメントといったことが、こうした技術を通して自然に学んでいける内容でもあるので、非常に期待しているところです。そういった観点から見ると、やはり東京書籍が一番その内容に合っているのではないかと思います。

それと、技術は何のためにあるのかといった場合に、やはり生産性を上げることが社会において一番の目的なのかと思います。いわゆるテクノロジーを駆使して、全ての生産を上げていくことを学べるということが一番分かりやすく表現しているのが東京書籍かなと思いました。

教育委員

私も技術の分野はこんなに広いのだなと驚いているのですが、娘に「技術って何するの?」と聞かれて答えられなかったぐらいで、導入の部分はとても大切だと思います。その中でもやはり東京書籍は導入のところかと

でも詳しく書かれていて、8ページの「技術は夢を叶えるためにある」というところがすごく印象的でした。世の中にあるいろいろなことがこういう技術を背景にしたものだといいところが子どもたちにもすごく理解しやすく、身近なものから関連付けて導入しているところはすごくいいと思います。

教育図書のハンドブックは必要なのかなと思ったのですが、先ほどの説明だとあまり高い評価ではなかったということだったので、これがなくても授業をうまく展開していけると思いました。トータルで見てもやはり東京書籍が導入も良く、内容も充実していると思います。

教育委員

私は、作業を伴うことなので、安全について注意を喚起しているところを見比べました。東京書籍も教育図書も開隆堂も4～5ページに記載がありました。東京書籍と開隆堂は、作業場全体のイラストから子どもたちに予想させて、正しいかどうか、危険がないかどうかを判断させているのに対し、教育図書はチェック項目だけ、大事なことだけが指摘されています。東京書籍に関しては、そのみならず、安全な環境、安全な行動、安全な作業という三つの視点をきちんと整理して、子どもたちに分かりやすく重要な部分を伝えている点で、開隆堂と比べても一歩前に進んでいると感じます。安全面についての告知という点でも東京書籍が優れていると感じました。

教育委員

技術的なこと、安全のことなどそれぞれきちんと書いてあると思うのですが、私が学んでこなかった、今いろいろとアメリカと中国で問題になっているような情報分野のセキュリティの問題などについても基礎的なことまでいろいろと書いてあって、大変興味深く読ませていただきました。その中でやはり、東京書籍は読みやすく分かりやすいと思います。それから、「技術の工夫」という東京書籍の各ページの下に書いてあるものも、追って読んでみると何となく楽しいと感じます。開隆堂の「豆知識」も面白かったのですが、それ以上に東京書籍の「技術の工夫」が良かったと思います。

教育委員

私も皆さんと同じ考えなのですが、とにかく技術がこんなにすごい学科だと思っていなかったのが、すごく勉強になりました。作業をすることがメインなのかなと思っていたので、目からうろこでした。分かりやすい、見やすいという点では東京書籍がいいと思いましたし、私も教育図書の「技術ハンドブック」がなぜ別になっているのか、必要なかと思いました。開隆堂は学習のまとめで全てを振り返っている印象を受けたのですが、プログラミングやアプリなどがこれからの技術なのだなと思って大変勉強になりました。

教育長

私も、やはりガイダンスのところは東京書籍が大変充実しているという感じを受けました。ただ、開隆堂も結構工夫はしてあると思っていて、1時間ごとの学習で何をやるのかという目当てがはっきりしているのです。「考えてみよう」とか「話し合ってみよう」とか「確認してみよう」とか、幾つかの категорияがちゃんと章のスタートに設けてあって、ここが他の発行者にはないような部分だったので良かったと思います。それから、QRコードが、いわゆるものをつくる際の作業の各ページの下にきちんと配置されていて、いちいち検索するよりQRコードを使えばすぐに入っていけるという便利さがあると思いましたが、トータルで見るとやはり東京書籍が秀でていていると思います。

それでは、3者で挙手をお願いしたいと思います。

—挙手—

○種目「家庭」

〔家庭：説明の概要（選定委員長）〕

3者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。中でも特徴的だったのは、東京書籍はA-1の項目8とA-2の項目6、教育図書はA-1の項目2とA-2の項目2、開隆堂はA-1の項目6とA-2の項目1,2だった。

質疑ではまず、A-1の項目5で東京書籍の評価が高いことについて、環境や消費者、防災に加え、情報モラルについてのマークが示されているものが多い点や、巻末の切り取って使う手帳が評価が高いのかという確認的な質問があった。その回答としては、他者にも情報モラルについて記載はあるが、マークで分かりやすく示してあるのが東京書籍であり、巻末の防災・減災手帳は他者にはない特徴で、大変素晴らしいということで、ここを切り取ってつづっておくことで災害に備えた生活を意識することができるということだった。

A-1の項目8、デジタルコンテンツに関わる評価で、東京書籍は高い評価になっているが、他者との差についての質問があった。これに対しては、3者とも調理や衣生活のところは比較的動画が多いが、消費生活や環境の内容のところでは動画を取り入れているのは東京書籍だけで、悪質商法などの例として10の商法を取り上げており、イラストと簡単な説明が書かれていて、その全てについて具体的に短い動画で内容を確認できるため、大変理解しやすくなっている。また、インターネット通信販売のシミュレーションをデジタルコンテンツを活用して実際に行うことができるので、評価が高くなっているという回答だった。

次に、A-2の項目3、家族・家庭や地域との関わりについて、東京書籍と教育図書は高齢者との関係のことが書かれていて、開隆堂ではLGBTが出てくるが、LGBTに関することは家庭科の授業で取り上げられるのか、またそれについてどう評価するのかという質問があった。その回答としては、開隆堂では多様な人々が地域に暮らしているということで、高齢者も障害者もLGBTについても参考資料として載せていたが、これは特に他者にはなく開隆堂だけの特徴として書いたということだった。ただ、家庭科の授業では、特にそこだけを取り上げて扱うものではないということだった。

この回答に対して、LGBTのテーマを家庭科の時間で扱うのか扱わないのかという質問があった。それについては、性教育の授業では現在でも講師を招いたときなどにそういった話をするが、調査委員会では、あるから書かせていただいていた程度で、特に取り上げての話し合いはなかったという回答だった。

その後の選定委員会の議論では、A-2の項目3、東京書籍と教育図書のところで、介護福祉士の言葉も大事だが、高齢者の疑似体験が重要という意見があり、その点について調査委員会から出てきた評価を、議論した上で評価を見直した。

意見として、開隆堂で「生活の見方・考え方」という言葉を使っているが、文部科学省のいう見方・考え方は「生活の営みに係る見方・考え方」であり、文科省の表現と異なっているという指摘があった。

〔家庭：質疑応答〕

教育委員

技術もそうだったのですが、ガイダンスが最初に置かれています。ガイダンスの果たす役割をお伺いします。また、配置されている単元が微妙に違う気がします。東京書籍の場合、家族に関わるものが最後に置かれており、他の2者は最初に置かれています。あとの配置は共通しているのですが、家族を扱う単元が異なります。授業を組み立てる際に単元の配置は特にこだわるものではないのでしょうか。

家庭調査委員長	<p>ガイダンスについては1年生の最初の時間に、これから3年間学ぶ家庭科はこういう学習だということを学ぶもので、1時間ほどかけて行います。東京書籍では4～17ページあたりがガイダンスになると思います。8、9ページで、問題を解決する道筋と見方・考え方ということで、家庭科の学習ではまず課題を見つけて、計画を立て、実践して、改善していくのだという流れをまず説明していきます。そういった感じでこれからの学習内容と併せて、こういう学習方法でやっていくということを指導すると思います。</p> <p>それから、東京書籍だけ内容の並び順が他者とちょっと違う点については、東京書籍の方が小中高の系統性、発達段階を踏まえた構成になるように配慮しているからです。実際はガイダンスの後、1年生では食生活について学ぶ計画を立てている学校が多いと思います。</p>
教育委員	<p>となると、最初に衣食住の単元があった方が、教科書を使うときには必ずしも最初からではないかもしれませんが、最初からというスタンスに合致しているということですか。</p>
家庭調査委員長	<p>はい。ただ、多少単元の入れかえは、学校の実情に応じて行われます。</p>
教育委員	<p>家庭での学習こそSDGs、持続可能な生活を目指してということが最終目的になってくるというふうに、特に力を入れておられると思うのですが、そういう面では東京書籍は各章の終わりの方でそういったことを提起しておられます。他のところと比べてどうでしょうか。</p>
家庭調査委員長	<p>SDGsについては、どの教科書でも取り上げているのは事実です。ただ、東京書籍では現代的な諸課題への対応ということで、調理においてもエコクッキングであったり、衣生活においてもリサイクルやリユースなど、今ある衣服を再利用するという創意工夫についても大きく取り上げています。</p>
教育委員	<p>調理はイコール実習ですか。料理を作るのは実習ということですか。</p>
家庭調査委員長	<p>調理実習を行う場合もあります。</p>
教育委員	<p>浴衣を着るのは実習ですか。</p>
家庭調査委員長	<p>はい。一応今回、衣生活のところでは、和服の基本的な着装も扱うことができるということで、実際にそういう環境にあれば着てみることもできます。和服については必ず触れるというふうに学習指導要領では書かれています。</p>
教育委員	<p>地域の食文化に関して、3者の特徴はありますか。</p>
家庭調査委員長	<p>地域の食文化については、東京書籍はかぶらずしや加賀野菜を取り入れています。教育図書では加賀太キュウリや治部煮、開隆堂においても治部煮や加賀野菜ということで、どの教科書も石川、金沢のものを取り入れています。</p>
教育委員	<p>各者が取り上げているものが微妙に違っているのですね。当たり前ですけども。</p>
家庭調査委員長	<p>実際に地域の食材を紹介した上で、日本各地のものが紹介されているのですが、石川県のものとして各者多少違いはありますが、取り上げていま</p>

す。

教育委員

それについて考えてみるということですか。

家庭調査委員長

そうです。実際に地域の食材を用いた和食の調理もしているのですが、そういうものを参考にしたり、加賀野菜についても触れたりしながら、その学校に合った実施を考えています。

教育委員

調理実習をする際に生徒に分かりやすく示されていて、現場でも使いやすいという点ではどの発行者がいいのでしょうか。

教育図書の巻末にシールがあってちょっと気になったのですが、よく見たら使う箇所が101ページのほんのちょっとなのにシールがあります。シールは一見楽しそうに見えますが、中学生なので必要なのだろうかと思います。これについてどういう話し合いがされましたか。

家庭調査委員長

調理実習については、やはり一番使いやすいのは東京書籍です。例えば72、73ページに豚肉のしょうが焼きがあります。右上の実際に出来上がった写真がとても鮮明で、おいしそうに提示されています。東京書籍ではどの料理もそうになっています。次に、調理の手順として1～5とあるのですが、「1 しょうがをすり下ろす」「2 調味料を混ぜる」と非常に簡潔に示されています。それから、73ページの右下に「私のオリジナル」として、各調理題材全てに自分なりの工夫としてこんなことができるということも書かれており、さらに配膳例まで載っています。「私のオリジナル」、1食分の食事例、簡潔な調理手順がそろっているのは東京書籍だけです。一つ一つの写真もとても大きいです。

シールについては、特に取り上げて話しませんでした。ちょっと使って楽しいかなと思う点があります。

教育委員

調査委員会でもデジタルコンテンツについて、3者の中で東京書籍が動画が多様化されており、非常に充実されているのではないかという話もありましたが、現行の教科書にこういったページやコンテンツがもし付いているようであれば、その有効性をお話していただきたいと思います。もしなければ、動画の使い方やデジタルコンテンツの有効性について考えがあればお聞かせください。

家庭調査委員長

現在の教科書にはありませんが、実際にどんなふうにするかという点、例えば調理であれば、どんな流れで実習をするのが3分程度の短い動画でまとめられています。それから、野菜の切り方を調べたいというときも、そこだけを見ることが出来ます。そういう使いやすさがあると思います。

それから、先ほども少しお話がありましたが、悪質商法とはどんなものかというときには、以前であれば教室にテレビやDVDデッキを持ってきて、それを先生が見せる形だったと思うのですが、もうちょっと知りたいものを自分で見てくださいというときに、各自が使って調べたりできるのではないかと思います。

教育長

家庭科の調査委員の先生方には、調査項目のA-2では他の科目より多い13の内容についていろいろと調べていただきました。大変だったと思っています。この13項目の中で、今回の学習指導要領改訂で新たに入った内容があるかどうか、もしなければ13項目の中で大きく変わった内容があるかどうか、確認させてください。

家庭調査委員長

家庭科の目標の柱書に「生活の営みに係る見方・考え方」があるのですが、それを「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」

「持続可能な社会の構築」等の視点で捉えることはとても新しい視点だと思えます。「協力・協働」では、高齢者との関わりを理解したり、高齢者の身体の特徴を理解して介護の基礎に関する体験的な活動をしたりします。実際に高齢者に関わるわけではなく、そこまでする必要はないと言われていたのですが、そういった体験は新しいことだと思っています。それから、生活文化を継承しようとする思いを育むことや、自然災害に備えるための住空間の整え方ということで防災のあたりもかなり大きく取り上げられていると思います。

(選定委員長、選定副委員長、調査委員長 退室)

[家庭：審議]

教育委員

13項目ある中で個人的には項目12の消費者問題に関して、事例を通じて分かりやすく子どもたちにイメージを持ってもらえる点で開隆堂がよくできていることについて評価したいと思っているのですが、全体的なバランスを考えるとよくできている東京書籍が優れていると考えています。

それから、先ほど調査委員長からもご指摘があった高齢者との関わりについてどれだけ踏み込んでいるかを比較してみました。東京書籍は258ページの「高齢者との関わり」で、有名な高齢者の方々の具体的な写真と紹介があるのでとてもイメージが持ちやすく、高齢者の体の特徴についても記載されていました。開隆堂では62ページに「高齢者との関わり」とあるのですが、ざくっとした表記になっていて、東京書籍と比べてもちょっと見劣りする印象を持っています。教育図書に関しては、目次にすら挙がっていないので、29ページの「地域の人との協力・協働しよう」の一つとして高齢者の身体的特徴といったことがトピックスとして挙げられているので、目次として項目を挙げて授業でも取り上げてほしいと感じました。

高齢者との関わりをよく知ることによって、将来的にそういった介護の仕事に就こうという夢を持つお子さんも出てくることを考えると、介護福祉士のコメントが載せられていたり、生き生きと活躍している高齢者の方々を具体的に紹介している東京書籍が優れていると感じました。

教育委員

技術科と同じく実習のところで、東京書籍は安全面について例えば55ページなどはとても丁寧に書いてあり、包丁やガスコンロを使う場面に関する記述はやはり東京書籍がいいと思いました。それと、昨今は災害がとても多く、東京書籍は防災について巻末の4ページぐらいに載っています。これも大事なことだと思うので、特集というほどでもないですけど、まとめて書いてある点がいいと思いました。

教育委員

単純なことで言えば、ページを探すときに東京書籍と教育図書は、何の件に関するページなのか右肩に表記してあるので探しやすくなっています。一方、開隆堂は写真がたくさん載っていて楽しいのかもしれませんが、どのページで何を扱っているのかを見比べると探しやすさに単純な違いが感じられるので、東京書籍と教育図書は作りとしてそういうふう丁寧に作られていると思います。

それから、実習については調理や衣服などについて指摘がありましたが、特に中学生が幼児と触れ合うことが大きな單元の中に含まれています。中でも東京書籍は、幼児と接するときどういう注意点が必要なのか、何のために活動するのかということも大変丁寧に記述されています。具体的に申し上げますと240ページには、ふれあい体験をする前のこと、ふれあい体験で行ったこと、終わった後にどうまとめるのかということが詳しく記載され、実習例の写真を掲載しながらこんなことが予想されるということが記されています。

他の2者はふれあい体験が単元の冒頭にあるのですが、開隆堂は44ペ

ページから事前の注意点や留意点が若干書いてありますけれども、一般的な
ことしか書かれていなくて、東京書籍のようにいろいろ気を使わなければ
ならないことまでは配慮されていません。何をそこでやるのかが同じよう
に写真を使って記載されてあるのですが、写真が掲載されているだけとい
う作りになっています。教育図書は、具体的には58ページあたりなの
ですが、事前にどんなところに注意しなければならないのかという記述があ
りません。

それから、具体的にどんなことがふれあい体験の中で予想されるのかと
いうことは、教育図書と開隆堂は資料がずっとページが飛んだところに載
っているのですが、あまり系統的に記述されていないので、訪問したとき
にどんなことを学んでいくのかがなかなか見通しにくい作りになってい
ると思います。そんなことを一つ取り上げても、丁寧な作りになっている
のは東京書籍ではないかと思います。

教育委員

先ほど言われたことですが、ガイダンスのところがとても充実し
ていると思います。この本さえあれば自分が生活していく上での人生のハ
ンドブックのような感じになるのではないかというぐらい内容が充実して
いるので、東京書籍がいいと思いました。

教育委員

私も同じくガイダンスのところで見てみたのですが、各者特徴はあるも
の、例えば教育図書は4ページで「課題解決学習の流れ」に触れていた
り、開隆堂は8ページの「主体的・対話的で深い学びをしよう」の
ところで触れていたり、東京書籍は8ページの「問題を解決する道筋と見方・考
え方」のところで触れていたり、学習の流れは各者触れているのですが、
東京書籍はさらにここから学習内容に触れ、「自分の生活をチェックし
よう」という実践も交えて導入している点が、他者と比べてとても丁寧
に導入していると思います。

先ほど調理実習の件もお聞きしましたし、巻末の防災・減災手帳も本
当にずっと使えるものです。委員がおっしゃったように、生涯ずっと家に
置いておいても役に立つところがたくさんあって、やはりトータルで見ると
東京書籍が一番優れていると思います。

教育長

先ほどご質問にもありましたが、技術にしろ、家庭にしろ、やはり実
習が楽しいと自分でもよく思っているのです。家庭科についても実習の
ところ、特に調理実習などを見ていても、やはり東京書籍の実習の提示の仕
方が上手だと思います。教育図書は縦にしていて、しかも半ページですが、
東京書籍は両方を使って横になっているので、非常に分かりやすいのです。
開隆堂も横なのですが、1ページを使って横にしているの、非常に写真
が小さくなってしまってちょっと見づらいと思いました。

他のところも全体的に見ていると、どちらかという東京書籍は実習系
が強いのかなという気がします。それから、物事を思考していく部分では
教育図書の方がちょっと強い部分があるというふうにそれぞれ特色が出
ていきますけれども、トータルで見ると今おっしゃられたような感じに
なるのかなと見ていました。

それでは、3者で挙手をお願いしたいと思います。

—挙手—

教育長

全会一致で、東京書籍に決定します。

○種目「英語」

[英語：説明の概要（選定委員長）]

6者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。中でも特徴的だったのは、東京書籍はA-1の項目3とA-2の項目4、開隆堂はA-1の項目5とA-2の項目2、三省堂はA-1の項目2とA-2の項目1、教育出版はA-1の項目7とA-2の項目2、光村図書はA-1の項目7とA-2の項目2、啓林館はA-1の項目4とA-2の項目4だった。

質疑ではまず、QRコードの評価について質問があった。回答としては、どの発行者も例えば本文の音声や新出語句については付いているということだった。中でも東京書籍、開隆堂、三省堂は、QRコードから動画や画像などの資料がある点で他者よりも若干優れている部分が見られたということだった。

次に、小学校でもどんどん対話する部分が入ってきて、考えを交流したりする場面が増えてきているが、各者の教科書を比べたときに金沢の子どもたちや先生方が使いやすかったり、新たな活動の提案という特色がある教科書はあるかという質問があった。その回答については、金沢型スタイルにもあるけれども、各教科書の中では課題、プロジェクトといった部分で「課題解決するために」という設定がある。それを比べると、コミュニケーションにおける目的、場面、状況が強く意識されたプロジェクトになっているのは東京書籍と三省堂、光村図書ということだった。開隆堂もそれに続くが、アウトプットの部分でやや弱いということだった。

次に、A-1の項目7で書体や写真、絵などいろいろな点で評価されているけれども、その視点について質問があった。その回答としては、書体については1年生の段階で手書きに近いようなユニバーサルデザインの書体を各発行者とも取り入れており、教育出版であれば鮮明な写真や各単元のイラストや写真の配置が非常に特徴的で、そのようなことを取り上げたということだった。

これに関連して、ユニバーサルデザインのフォントで統一されているのは素晴らしく、評価したらいいのではないかという質問があった。それに対しては、どこも取り入れられており、特に素晴らしいということではない。また、手書きに近い書体が多いのは、小学校で英語の教科があり、それに近い、子どもたちが慣れ親しんでいる書体だからであり、1年生の最初の段階で目で文字に触れる部分は各者とも配慮されているという回答だった。

その後の議論では、開隆堂は目次の「この教科書で学ぶみなさんへ」のところで、黄緑色で書いてある「Steps」で技能などを確認した後、「Our Project」でグループで意見を交換する。「Our Project」では「グループで」という表現が必ず出てきているので、自分で、そしてみんなで考える学習スタイルとなっており、大変いいアイデアではないかという意見があった。この部分は、調査委員会でも出てきた評価を見直した。

その他の感想として、例えば従前の教科書であれば、音声等については別にCDなどを購入して勉強していたと思うが、多くの生徒がサブ音声や動画で学べるチャンスが教科書そのものに内包されたことはとてもいいことであり、普段の学習の中で聴いて、自宅でも学校でもちょっと復習したいときに活用しながら進めていく形に学習がどんどん変わっていくのだなという感想があった。

[英語：質疑応答]
教育長

英語は前回と発行者が変わっており、東京書籍になっているという経緯があるので、そのことだけは先にお伝えしたいと思います。ただし、今言ったことはあまり気にしないで結構です。

A-1の評価の中で、私はどちらかというと1～3の項目がとても大事だと思っているのですが、文言を見ても東京書籍と三省堂の2者が比較的评价が高いという感じを受けます。特に東京書籍と三省堂を比べたときに、三省堂の評価が若干落ちている部分があるということがこの文言から読めます。特にこの項目3は、子どもたちが興味・関心を持って自発的に勉強していく部分を考えてとても大事です。この2者で違いがもし何かあれば、教えてください。

英語調査委員長	<p>生徒の自発的な学習が促されるようにという点で、東京書籍は「学び方コーナー」が1年生で4つ、2年生で3つ、3年生で3つあります。三省堂も「For Self Study」というものがありますが、1年生で2つ、2年生で2つ、3年生で1つあります。数の部分でも、中身についても、これから自ら学んでいこうという学び方を子どもたちに示す点では、東京書籍の方が内容的に若干評価が高いという判断をしました。</p>
教育長	<p>例えば、課題的なものを何か映像で、このページがこうだよというのがあるとうれしいと思うのですが。</p>
英語調査委員長	<p>東京書籍の3年生の教科書の6ページでは、語彙や表現の増やし方ということで3つのポイントを紹介しています。一つ目は、語の意味の中心、いわゆる語源ですが、それを中心にして前後に枝葉の付いた語を覚えていくことが示されています。こういう形で法則が使われていくと、知らない単語に出合ったときでも意味が推測しやすくなるというものです。二つ目は、日本語も同様ですけれども、類義語や対義語を併せて覚えることで、単語の数を増やせるというものです。三つ目は、複数の語を組み合わせた、いわゆる連語や熟語といわれるものですが、単語だけを覚えるのではなく、それにプラスしたものを併せて覚えることで、表現の幅が広げられるということを具体的に紹介しています。</p>
教育委員	<p>A-1の項目6とも関連するのですが、小学校の英語教育とうまく関連して流れがうまくできているという点で、導入しやすい発行者はどこですか。</p>
英語調査委員長	<p>どの発行者も当然、小学校での学びの接続を意識しています。小学校では「書く」ではなく「聞く」「話す」ところを中心に行っているの、それをうまく接続する形で教科書が作られていると思います。ただ、若干そういう部分で手厚いということになると、やはり東京書籍だと思います。</p> <p>東京書籍は、例えば1年生の20ページの上のところに、「Enjoy Communication」ということで、右側に小マークが付いていると思います。これは小学校でこういう表現に慣れ親しんできたという印です。まずは小学校でこういう表現をやってきたということで、ペアやグループでその表現を使ってお互いを紹介したりして、小学校の学びを思い起こさせ、思い出すことで実際に次の「Story」という本文内容につなげていきます。東京書籍のUnit1～5は、そういう形で小学校での学びを踏まえて本文の内容に入っていくという接続が強く意識されていると思います。</p>
教育委員	<p>「聞く」「読む」「話す」「書く」を総合的に行っていくことが言われていますけれども、そういった工夫はそれぞれの発行者でどんなところにありますか。</p>
英語調査委員長	<p>新学習指導要領では、今までの英語教育の課題を踏まえて技能統合型を重視しています。つまり、英語の技能は「聞く」「話す」「読む」「書く」という4技能を統合しており、聞いたことを誰かに話したり、読んだことを基にして自分の考えを伝えたり書いたりする部分が大切であるということで、各発行者ともその部分に力を入れています。そこに当たる部分が各者のプロジェクトであるとか、項目で言うとA-1の項目2になると思います。東京書籍であれば「Stage Activity」、開隆堂であれば「Our Project」など、名前は違うのですが、先ほど選定委員長からもありましたけれども、課題解決型、タスクの部分になってくると思います。</p> <p>もう一つ新学習指導要領で大切にしていることとして、どの発行者にも</p>

あるのですが、コミュニケーションの目的や場面や状況をしっかりと意識させることが本当に大事であるといわれています。その点で比較すると、目的・場面・状況を意識させていると言えるのは、やはり東京書籍、三省堂が調査委員会の中では評価が高かったです。

具体的に言うと、三省堂の2年生の教科書の88～90ページは「修学旅行のプランを提案しよう」というタスクになっています。今までも、修学旅行のプランを提案しよう、作ってみようという形で、授業でそういうものを作らせる部分はあったのですが、そうではなくて、88ページのところでは海外の姉妹校である3つの学校の生徒が、まず日本でしたいことを聞いたアンケート結果を読んで、行き先を提案します。そのときに、参考になる部分を探すことになっています。ここで、どういう状況、目的で修学旅行のプランを作らなければいけないかというのが子どもたちにきちんと意識されます。3つの学校はこんなアンケート結果だから、それを踏まえてどんな旅行プランを提案しなければならないのか、目的が明確になっていく部分が大事であり、三省堂であればそこが強く意識されている点は重要な部分ではないかと思います。

さらに89ページでは、モデル提案を聞いて、最終的な活動はこんなものだというイメージをします。イメージができたところで今度はペアやグループでアイデアを出し合って共有します。これは共同学習、学び合いの部分になると思います。次は、モデルの構成を参考にして原稿を作成し、最後は発表するという形で授業が進んでいきます。

教育委員

東京書籍だけ判が大きいですね。そのことについては何かありましたか。

英語調査委員長

その点の評価については調査研究の中で話はありませんでした。

教育長

金沢市では平成16年度から英語教育がスタートしています。随分長い間、英語教育が続いているのですが、実際にそういった子どもたちを中学校で授業をされていますよね。授業を通してやっているのだけれども、金沢の子どもたちにとって、英語を学ぶ中でこんな課題があるなど感じることがあればお伺いしたいと思います。課題があるとすれば、その課題を踏まえたときに、この教科書だったらその課題を乗り越えることができるのではないかという考えがあれば伺いたいと思います。現場サイドの考え方ということです。

英語調査委員長

なかなか難しいところもあるのですが、私は実際、学校現場を長く離れていた部分もあって、昨年度現場に戻って久しぶりに授業をさせていただきました。その中で、金沢の子どもたちだけではなくて、英語教育の大きな課題だと思うのですが、やはり英語は言葉であるし、これからの社会の中では英語をツールとして自分の考えなどを伝えていくことが非常に大事な部分だと思います。自分も授業をしていたとき、やはり自分の考えや気持ちをしっかりアウトプットするという部分はますます必要だなと思いました。これは新学習指導要領においても、「知識・技能を活用する」の中の一環大事な部分だろうと思いますし、その部分をもっと中学校の授業の中で大事にして、子どもたちにそういう力をしっかりと付けていかなければならないと思っています。

そういう視点で見たときに、先ほどと同じような話になるのですが、やはり自分の考えを伝えていくためには、先ほどのプロジェクトでも紹介しましたけれども、ただ単に何か考えを書かせるのではなくて、こういう場面・状況だから、それに合わせて自分の考えを持つことが大切です。どんなふうに伝えたらいいのかという部分については、コミュニケーションですから、必ず目的・場面・状況があるわけです。その点を十分意識してい

るのは東京書籍や三省堂であるということで、調査研究を進める中で調査委員が高く評価したのだと思います。

教育委員

全ての者を見比べてみても、どの教科書を使っても学びは深められるという印象を持ちますけれども、一方で先ほど委員から質問があったように、大判であることを生かして、例えば内容量が他者と比べて豊富であるということは特段あるのでしょうか。

英語調査委員長

やはり子どもたちに与える内容的な部分では、細かい内容が充実しているということは若干あるとは思いますが。

教育委員

小学校での蓄積が金沢市としてのアドバンテージになっていると思うのですが、その蓄積を踏まえて中学校でさらに発展させていくという意味では、分量の豊富さはとても大切になると考えます。そういう視点も、説明の中にあつたように東京書籍が優れているという理由になっているのでしょうか。アドバンテージを生かすという意味での良さが、説明の中に随所に触れられていたと思うのですが、そういう面からも他者と比べて相対的に優れていたということですか。

英語調査委員長

金沢のアドバンテージを生かしてという部分で実際の教科書を調査研究したかという点、そこまではなくて、やはり実際の教科書のそれぞれの観点でどうかということで、調査研究を行いました。

教育委員

参考に聞きたいのですが、デジタルコンテンツの内容が各者とも非常に充実していると思います。中でも資料映像は東京書籍、開隆堂、三省堂が優れているのではないかと評価がありました。実際のところ、確か小学校の教科書でもデジタルコンテンツはあつたのではないかとと思うのですが、そのあたりの有効性と利用頻度について意見があれば教えてください。

英語調査委員長

小学校での使用頻度は把握できていないのですが、中学校の教科書も当然、デジタルコンテンツが充実しています。先ほどもお話があつたように、各発行者とも英文本文の音声は新出語句なども含めて、今までであればCDを購入していたのですが、QRコードを読み取れば、その日の授業でやった本文内容を家に帰って読んでみようと思えば、さっと音声を再生できて、こういう読み方だったなということ振り返ることができます。

例えば三省堂であれば「自分の将来の夢を紹介しよう」という授業の中で、モデルの動画を見ることが出来ます。今までであれば、自分もやったのですが、過去の先輩のスピーチの様子を録画して、それを似た授業の中で見せていました。それはそれで逆にとっても大事な部分かなと思うのですが、今であれば、次の時間に自分が発表することになったらどんな形で発表したらいいかということが、その動画を見れば分かります。実際のモデルをしっかりと動画で見て、自分の発表に生かすことができる部分は今までにできなかったことだと思います。

教育長

確かデジタルコンテンツが中学校で入ってきたのは今回初めてですよね。恐らく4年たって次の改訂のときにはまた違った感じに入ってくると思いますので、どの発行者もそうですけれども、期待したいと思います。

どの教科・種目のどの教科書にも、最近、最後に付録が付くようになりました。英語も教科書に付いていると思うのですが、授業を行う上でこの付録はいいのではないかとこのものがあつたら、教えていただけますか。

英語調査委員長

どの教科書も付録は充実してきていると思いますので、どれがいいかというのはなかなか申し上げられません。

教育長

先ほど東京書籍の教科書を見ていたら、小学校の英単語が出てきて、次に中学校が来るのですが、その前のところに「がまくん」の話が出ていたのです。国語の教科書で読んでいて小さいときにしっかり覚えているから、英文と日本語文を比較しながら学べると思いながら見ていました。他の教科書を見てみると、感じがちょっと違うのですね。だから、そういう付録などを見ていると楽しいなと思って眺めていました。

(選定委員長、選定副委員長、調査委員長 退室)

[英語：審議]

教育委員

大判の良さを生かした東京書籍が、内容的には過不足ないというコメントがありましたが、眺めてみると充実しているという印象を持ちます。やってみようというところにつながるような充実度が高いと思いますし、巻末の付録は、先ほどご質問もありましたけど、ボキャブラリーを増やすという点では、場面に応じてどんな単語が使えるのかということがかなり工夫して構成されているので、利用度が高いと思います。それから、巻末にその教科書で使った語彙のリストが掲載されています。その使い勝手も各者それぞれ工夫があり、その点では先生方ほどの教科書でも使いこなすのだろうと思うのですが、内容の豊富さや使われている素材、文法の押さえなどが相対的には分かりやすい作りになっている印象を持ちました。

教育長

東京書籍を中心という形でよろしいですね。

教育委員

私も委員と同じで、東京書籍はA4判という特徴をすごく生かしていると思います。大きい分、1年生では小学校での学びとの関連、「Enjoy Communication」のところで、小学校で習った単語を下の方に掲載していて確認できる場所がいいと思います。2、3年生の「Read and Think」もすごく工夫していると思っていて、各文章の後にRound 1～3と3段階にステップアップできるような、概要から詳細への3段階を記載しており、ここで課題解決型の学習ができると思います。東京書籍は最初に「学習の見通し」があって、この本で何を学ぶのかがしっかり記載してあり、トータル的に見ても内容がすごく充実していると思います。

逆に、否定するわけではないのですが、漫画形式の会話を導入しているところが何者かあります。例えば開隆堂や教育出版には漫画形式が出てきます。小学校の間は「聞く」「話す」が中心でいいと思うのですが、中学校になるとやはり「読む」「書く」が主になって、四つの技能が入ってくると思うのです。そのときに漫画形式というのはちょっとどうかと思いました。漫画形式は卒業して、文章形式でいいと思いました。

それから、教育出版の61ページ「Fox and Tiger」では、動物がしゃべるのですね。これもちょっと幼稚かなと思いました。教材としては、中学生になったら実際の場面で使うような会話を題材として扱った方がいいと思いました。

教育委員

結論から申し上げますと、東京書籍か三省堂という感じで考えています。調査委員会では1～3の項目を見る中で、2の項目については三省堂が目的・場面・状況に応じたさまざまな題材が非常に書かれていますし、他の者もコミュニケーションを取るという意味では非常に有効であるのですが、三省堂がいいと思いました。ただ、3の項目の生徒の興味関心については、東京書籍は「学び方コーナー」などがあり、このあたりもいいと思いつつ、ちょっとどうしようかと悩んでいるところです。

それから、東京書籍は「英語で世界とつながろう もっと英語を使おう」の部分や、なぜ英語を身に付けるといいのかという話が書かれていますし、三省堂も「言葉を使うことは思いを伝えること」など、何のために英語を学ぶのが非常にうまく表現されています。この2者でちょっと悩んでいるところです。

教育委員

私も委員と同じで、東京書籍と三省堂を見比べているところです。先ほどの委員長のお話でも調査項目2が大切だということで、東京書籍は「Stage Activity」、三省堂は「Project」が1学年に三つずつ、節目節目に出ているような形で同じように充実しているの、どちらがいいのか悩んでいるところです。

一方、項目3で評価が分かれていますのですが、その理由としては、例えば三省堂の2年生の70ページにある「For Self Study」で、先ほど「use（使う）」の語源の派生について説明がありました。これと、先ほどご紹介で見せてもらった東京書籍の同じようなテーマの箇所を見るにつけ、やはり見やすいのは東京書籍だと思いました。また、子どもたちが自主的に学びやすいという点から考えると、東京書籍の方が見やすく、情報もより充実しているという印象を持ちました。

教育委員

私も両委員と同じで、東京書籍か三省堂かで迷っているのが現状です。学んだことを応用して、考えて、聞き取ったことを表現・発表するという点では、東京書籍と三省堂が優れているのではないかと感じました。

教育委員

選定委員長か調査委員長にお尋ねしたいと思うのですが、確かに皆さん言われるように、東京書籍の方が判も大きいし、活字も見やすいし、勉強していく上においてはいいのかもしれない。だけど、英語を勉強しようと思ったら、三省堂の方が書いてある内容が面白いのではないかと思います。そのレベルまで実際に教育の中で達しているのかどうかという問題ではないかと自分では考えているのですが。

教育長

では、3人に入っていただきますか。

(選定委員長、選定副委員長、調査委員長 入室)

教育委員

三省堂の2年生のLesson 5、71ページからの「Things to Do in Japan」では、日本の文化を世界の文化と比較しており、今回の教科書の方向性もそういったことを中心にしてくださいというふうに書いてあるのですが、そういうことが東京書籍の方ではあまり印象深く残らなかったけれども、三省堂の方は残るような気がしました。それから、Lesson 7にも「Rakugo Gose Oversea」がありましたし、その後にももう一つ、英語の落語のようなものが付録に付いていたり、見た部分は三省堂の方が面白いような気がしたのです。しかし、実際に授業として語学を進める上では、やはり東京書籍の方が段取りがきちんとしているのかなという感じを皆さんも持っておられるので、現場の声をもう一度確認したいのですが。

英語調査委員長

題材の内容に関する部分で言うと、例えば自分たちが調査研究をした中で項目4の項目に当たるのかもしれない。「伝統と文化を尊重する態度」や「道徳性」も含めて、現代の諸課題の部分にも当たるのかなと思うのですが、確かに三省堂の方が道徳性を養うための教材などは内容的にいろいろ充実していると思いました。実際にこの数が正確かどうか分かりませんが、例えば東京書籍と三省堂を比べたときに、道徳性を養うものは東京書籍が各学年1つずつ、三省堂は1年生が1つ、2年生が2つ、3年生が5

つあります。その点では、三省堂の方が子どもたちの興味・関心を引くというか、内容が充実しているという評価を私どもはしました。

ただ、東京書籍の教科書は非常にバランスがいいというか、どの教科書も検定に合格していますので、新学習指導要領に沿った内容には当然なっているのですが、東京書籍はそういう部分でどこもバランスよくしっかりとちりばめられている教科書だと思っています。

教育委員

東京書籍は、英語だけでなくほとんどの科目で教科書の内容の展開の仕方として、最初のガイダンスから入ってとても見やすく指導しています。それにばかり引っ張られていいのかということもあったので、英語の授業ではどんな感じなのかということをちゃんと見て決めたいと思います。

選定副委員長

非常に大事な指摘を頂いたと思っております。実際、調査委員会でも幾つかの教科で、金沢市の中学校において若手の先生が随分増えているので、そうしたときにどの教科書であれば若手の先生でも授業をしっかりと組み立てやすいのか、あるいは例えば課題の作り方に対するヒントなどが比較的に見えやすいのか、かなり自分で工夫して組み立てないといけないところがあるのかといった議論が出ていたように思います。そういった問題も踏まえてぜひご覧いただけるといいと感じています。

教育委員

先ほどから私も東京書籍か三省堂で迷っています。三省堂の内容は非常にすごいという部分が多いのですが、現実と乖離があるのではないかとというぐらいレベルが高いと思っています。確か2年生で、修学旅行のプレゼンを資料に基づいて自分で考えるという内容がありましたが、どういった所がいいとか相手の思いをくみながら企画するのを全て英語で行うという高校生並みの内容であったり、3年生に至っては国際交流イベントに出展するというものもありました。非常に具体的で面白いし、社会とつながっているとは思いますが、実際に金沢市はアドバンテージを取っているという中で、その部分での格差が生まれないかということもお聞きしたいと思います。例えば東京書籍であれば、ざっくりと言うとディベートの準備をしようというのであれば、割とやりやすいと思うのですが。

英語調査委員長

三省堂は先ほど紹介した「Project」ですし、東京書籍では「Stage Activity」になると思います。確かに三省堂の修学旅行のプランも、姉妹校のアンケートを読み取るというのは内容的に非常にレベルが高い部分があると思います。今言われたように三省堂はテーマも多様であるし、面白いのです。例えばいろいろなアイスクリームを紹介したり、そういうテーマ性は非常に面白い部分はあるのですが、委員がご指摘のようにレベル的には非常に難しい部分はあると思います。

そういう形で比較したときに、同じ題材ではないので単純な比較はできないと思うのですが、東京書籍2年生の96ページは、内容的には同じです。まずはクラスで人気のあるものを調べてその結果を発表するという細かいスモールステップを踏んだ形で、クラスメイトのインタビューなどをまとめて最後に発表をします。そういうステップというか、分かりやすさと言うと東京書籍の方が子どもたちにとっても、教師側にとってもやりやすさ、指導のしやすさはあるのかもしれないと感じています。

教育長

それでは、またご退出をお願いします。

(選定委員長、選定副委員長、調査委員長 退室)

教育長

委員からも新たなご質問が出ましたが、今のところ東京書籍、三省堂と

いう声が多いという感じがします。ここで、他の開隆堂、教育出版、光村図書、啓林館の教科書について何かありましたらご発言いただければと思います。特になければ、東京書籍と三省堂の2者について話し合いをしていきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、今から東京書籍と三省堂の2者について話を進めていこうと思います。先ほどは若手の先生や子どもたちの実態を踏まえると東京書籍の方が割と扱いやすいのではないかという話があったと理解したのですが、皆さんの方から他にまだご意見はありますか。

教育委員

英語を学習するときに、学んだことが使えるようになることが目標だと思うのですが、そういう観点で教科書の作りを見た場合、東京書籍はキーセンテンスが何なのかが必ず明示されていて、それを積み重ねていく作りになっています。他方で、三省堂は中身が濃いという意見もありましたけれども、一つ一つ使えるセンテンスを身に付けていく観点で言えばポイントとしてくくられているのですが、それぞれのポイントであって、積み重ねるといふ発想では必ずしも吟味されていないのかなという気がします。学んだことを身に付けて、その中で大事なエッセンスは何なのかということをしつかりと積み上げながら、英語が使えるようになるということを意識した作りになっているのは東京書籍ではないかという気がします。

教育長

私も少し意見を述べると、生涯学習の仕事に長い間携わっていて久しぶりに学校へ戻ったときに、英語の授業が始まっていて、耳慣れない言葉がふっと入ってきたのがずっと印象に残っていました。それは何かというと、「Classroom English」という言葉と「CAN-DOリスト」という言葉です。そんなところから自分の拙い英語の勉強が再度始まっていきました。

今回この二つの発行者を見比べると、東京書籍はどの学年も最後に学習を振り返る形で「CAN-DOリスト」が載っています。この両方のページの右上には「どんなことができるようになったのかな」というものが来ています。例えば最後を開くと分かりやすいと思いますが、1学年末で聞くこと、読むこと、話すこと、発表して書くことができる、2年生でもこんなことができる、さらに3年生になると目標という形でさらに評価もできるようになっています。最後に3年の学年末でできるようになったらいいねという形なのだと思います。そして、高校の学習、これからも英語を学び続けてできることを増やしていこうというようなまとめにして、どの学年もこういう感じでまとまっています。だから、英語の学習を通して何ができるようになったらいいのかということが非常に明確になっていると思います。それから、スタートを見ると、それぞれのページに特色がありますけれども、例えば3年生の教科書はSDGsからスタートしていますが、右上の方に「どんな見方・考え方が身に付くのかな」とあり、次のページは「コミュニケーションしよう」ということで、どのように学ぶのかという内容が来ていて、子ども目線で作られていることがこの発行者の特色なのかなと思っています。

一方、三省堂の方は、3年生の教科書の最後を見ると、恐らく「CAN-DOリスト」と同じ内容だと思っているのですが、「What can I do?」とあり、Listen、Read、Talk、Writeとあります。同じような「CAN-DOリスト」なのですが、やはりちょっと見づらい部分がありますし、なかなか評価しづらいと思います。

それから一番気にかかったのが、スタートの方もそうなのですが、その教科書の2ページを見ると、教科書の仕組みという形で「学」「思」「知」とあります。「学」であれば学びに向かう力・人間性、「思」であれば思考力・判断力・表現力、「知」であれば知識・技能という形になっています。東京書籍も三省堂も学習指導要領を非常に意識しているのですが、子

どもの側に立つという視点では、この書き方は大人の視点ではないかと私は思って見ていたのです。

なので、先ほどからのレベルの高さという部分もあるのでしょうか、一部を子どものレベルに落として、どんな学びをしていったらいいのかと言った方が子どもにとっては分かりやすいと思っているので、私はどちらかというところ東京書籍に傾いています。

教育委員

先ほど委員がご指摘くださったことは、私も本当にはっとさせられました。個人的にキング牧師のスピーチなどは、中学生のうちにぜひ触れてほしい題材の一つだと思っていて、これは三省堂が取り上げています。頭が柔らかいときに、それこそ覚えてしまうぐらいに触れるべき優れたものをきちんと挙げているという点では素晴らしいと思っています。

一方で、公教育における教科書を選ぶときには、やはり全ての子どもがきちんと学びに積極的に向かえるような構成も考えなければならぬだろうと思っています。これから先はそれぞれの先生方が考えることだと思うのですが、教科書としては東京書籍のものを選びつつ、本当に大事だと思う題材は副教材もしくはコピーなどの形で子どもたちに触れさせてもらえたらという条件であれば、東京書籍がよろしいのではないかと考えています。

教育長

それでは、東京書籍と三省堂の2者で挙手をお願いしたいと思います。

—挙手—

教育長

全会一致で東京書籍に決定します。

○種目「道徳」

[道徳：説明の概要（選定委員長）]

7者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。中でも特徴的だったのは、東京書籍はA-1の項目2とA-2の項目3、教育出版はA-1の項目2とA-2の項目3、光村図書はA-1の項目5とA-2の項目2、日本文教出版はA-1の項目1とA-2の項目2、学研教育みらいはA-1の項目2とA-2の項目4、廣済堂あかつきはA-1の項目7とA-2の項目5、日本教科書はA-1の項目6とA-2の項目1だった。

質疑ではまず、子どもたちにワークシートの形式で考えさせたり書かせたりする上でどの者のノートが使いやすいかという質問があった。その回答としては、特に中学生にとっては書く行為によって思考が深まり、それを重ねることによって変容に気付くので、学習活動を支える学習ノートが別冊としてあったのは、廣済堂あかつきと日本文教出版ということだった。その中で、廣済堂あかつきは書くだけでなく、いろいろな広がりについての読み物、資料の充実が図られていた。書くことに関しては、廣済堂あかつきは自由記述ページが大変多かったこと、それに対して日本文教出版は教材一つにつき1ページというのが大きな特徴で、1時間完結型で、子どもたちにとってはそれを学んだという足跡が残るのは日本文教出版の別冊のノートだけということだった。

今回、日本文教出版は2年前とノートがちょっと違って、発問がなくなっていた。発問が先に載っているとその授業の流れが見えてしまうので、これを取り除いたことは子どもたちの意欲・関心にとっては大変良いことだと思われた。「自分にプラスワン」というところで自分ごととして振り返り、学びを教材の中の理解だけではなく、自分のこととして振り返るという視点を持って書くことが常に意識された形式になっていた。金沢市は若い先生が多いので、そういう若い先生方もこの日本文教出版のノートを用いていけば、逸脱したような授業にならないことを保証できるのではないかと回答だった。

次に、日本文教出版がA-1の項目3と項目4の項目で他者に比べて高く評価されている点、工夫している点について質問があった。その回答としては、特に今日的課題といわれるいじめや情報モラルといった問題は各者とも大変力を入れているが、日本文教出版は同じ生命尊重やいじめ、情報モラルでも教材の幅が広く、いろいろなものを複数取り扱っている点で充実が図られているということだった。

次に、日本教科書がA-2の項目1では、石川県出身の偉人やスポーツ選手のことが書いてあり、評価が高かったけれども、A-1の項目4の「金沢市や生徒の実情に即して」という部分でその違いに関して質問があった。回答としては、A-2の項目は「石川県、金沢市に関する事項」で、日本教科書は各学年でゆかりのある人物を扱ったことを高く評価しており、3学年の中で1回は出てくるので、この項目を評価したということだった。また、日本教科書は能楽に関する話があり、金沢市では3年生のときに能楽教室で鑑賞する機会があるので、そこにつなげることができる点も考慮したということだった。A-1の項目4とA-2の項目1の違いは、直接的に金沢市ゆかりの人を重視したのではなく、金沢市の子どもたちの実情、例えば自己肯定感が低いことや自分自身に自信が持てないこと、いじめ問題、モラル教育、特に情報モラル教育、不登校など道徳としてバックアップできるような豊かな教材を評価するため、A-1の項目4はその視点を含めて評価したという回答だった。

その後、選定委員会の議論も含めて、日本教科書が石川県、金沢市の記述が多いからというより、地域のゲストを呼んだり、同じテーマでも子どもたちが身近に自分ごととして考えられるような身近な教材ということで、選定委員会からの表現について少し修正した。また、石川県や金沢市の記載があることでダブルカウントになっているのではないかという選定委員からの意見があり、その点についても修正した。

それから、日本文教出版の評価が高い理由の一つとして、ノートに書き込んでいくことで授業しやすいという点があるが、ノートがある方が子どもたちが自分の変容を振り返ることができ、自分の成長を見ることができるといった感想や、評価の点からある程度水準をそろえてこういうノートがあると、授業をある程度導くことができるので必要であるといった感想、あるいは自分なりにこういうふう考えたということを必ず書かせるような仕掛けになる点で、やはりノートが大事であるという指摘や感想があった。

[道徳：質疑応答]

教育委員

教科としての道徳になった点、それからさまざまな教科を通して道徳性を養う点という両側面があって、道徳が結節点になっていると思います。他の教科との関係が触れられているのは日本文教出版かなと思ったのですが、他の教科との関係というのは特に道徳の授業を行う際にそれほど重要ではないのでしょうか。

選定委員長

調査委員長から回答できますか。今の質問はA-1の項目5あたりに関わってくる部分もあると思います。

道徳調査委員長

道徳が教科になり、道徳は道徳で狙いとする内容項目をしっかりと押さえることが最も大切な部分ですが、他教科との関連については意欲・関心等を高めるといふ点や、確かに道徳は学校教育全体で行うものですので、そのあたりの関連についてもどの発行者も扱っています。巻末が多かったのですが、中にはこの教材についてはこの教科のこのページと関連性があるということを示した一覧表が載っている教科書もありました。

教科との関連で私が一番覚えているのは、光村図書です。光村図書は読み物教材が大変長くて充実しているのですが、新しい道徳の教科書にはQRコードが付いていて、光村図書の場合はそれで飛んでいくと他の読み物が紹介されていたり、各発行者の特徴に応じていろいろな広がりがある中

で、光村図書は読み物が充実しているということを非常に感じました。

他教科とのつながりに関しては、例えば廣済堂あかつきの1年生の最後の項、180ページに内容一覧があるのですが、例えば「目標は小刻みに」という教材は国語や保健体育とも関連があるというふうに、それぞれの教材に応じて関連が明確に示されています。

教育委員

そうして関連があると書いてあることは、道徳の授業を展開するときにかなり意識するのでしょうか。

道徳調査委員長

むしろ一番大事なのは、子どもたちが学年に応じて何の教科でこういうことを習っているという関連付けですので、道徳では別葉を作成することとしています。教科だけでなく、学校行事などの関連が分かる一覧表です。

教育委員

全ての教科が何らかの関連性を持って授業設計されていると思うのですが、道徳の授業ではその教材を通してさまざまなことを学ぶと同時に、みんなと学ぶというか、議論することがかなり重視されていると思います。議論することに関してそれぞれの教科書がどんなスタンスなのか、教えていただければと思います。長所・短所というのでしょうか。議論がスムーズに進むための後押しをしている作りになっているとか、議論することに関する教科書の特徴があれば伺いたいです。

道徳調査委員長

今回の改訂で道徳の授業が考えて議論する授業スタイルに大きく変わっていくので、どの発行者にもそれぞれ工夫が見られた点の一つに、自分の考えを基に話し合う活動があります。特に評価が高かったのは、東京書籍と日本文教出版の2者でした。

例えば東京書籍は、3年生の教科書の2ページの裏が折り込みになっていて、「話し合いの手引き」ということで、こんなふうに授業を進めていくといいというような具体的な手順が示されています。また、同じ3年生の100ページではそれぞれの資料に基づいて具体的に、「ACTION!」というタイトルが付いています。こんなふうに役割演技をしながら、みんなで話し合いながら、道徳的価値について考えを深めていこうというものが、具体的な問いとともに書かれているのが大きな特徴です。大変丁寧な作りです。

同じような工夫が顕著だったのが、日本文教出版でした。2年生の教科書の3ページでは東京書籍と同じように「道徳科での学び方」ということで、考え、議論し、深めていくための手立てが示されています。こちらも具体的にそれぞれの資料に応じて、例えば2年生の96、97ページの『自分』ってなんだろう」というページでは、実際に学習の進め方として、グループになって「『言葉のプレゼント』として書いてみよう」とか「自分が大切にしたいことを書き出してみよう」「付箋を使って話し合いを深めてみよう」というふうに、本当に細かな手順が示されています。こういう手立てがあることによって、話し合いを取り入れた授業展開が大変しやすくなっています。

教育委員

例示していただいたのは2、3年生ですけれども、これは1年生のときから必要だと思うのですが、そのあたりはいかがですか。

道徳調査委員長

この2者はどの学年にもあります。

教育委員

やはり道徳ノートが付いている日本文教出版が、道徳という授業が本格的になるにつれて、先生方が指導するに当たって大変役に立つという気がします。どうですか。

道徳調査委員長	具体的に道徳のノートがあることによって、どの先生方も同じように授業展開でき、子どもたちにとっても学びが残るという点で非常に効果的だと思います。また、教科化されて、子どもたちには評価という点で、子どもたちの心の成長がどうかといったことを子どもたち自身が振り返ることができます。そのために評価をしていくわけですが、その変容もノートで1冊つづつとあると、それを開いて見比べることが容易になるので、プリントでばらばらに配るよりもかなり確実に評価もしやすくなっていると思われます。
選定委員長	選定委員会でも、ノートがあった方が一様の問題解決の授業ができるし、あまり道徳が得意でない先生方、場合によっては若い先生方も教えやすいのではないかという感想が、先ほどの報告のように多かったです。
教育委員	先ほどのご説明は、道徳ノートの発問部分がなくなることでより良くなったという感じで受け止めたのですが、具体的にどういうことですか。
選定委員長	明確なものがあると、今日の授業の結論のようなものが大体見えてしまう部分があるのではないかと思うのですが、具体的に調査委員長にお願いできますか。
道徳調査委員長	子どもたちにノートを書かせる際に、先に問いが書いてあると、子どもたちは次にこれが聞かれるのだなということが先に分かっけてしまいます。そうではなくて、考えながら一緒に進めていくためには、問いがない方が子どもたちにとっても書きやすいし、学ぶ意欲も継続しやすいと思います。
教育委員	廣済堂あかつきにも道徳ノートが付いていました。ただ、日本文教出版と違って、目次とは必ずしも対応していないものでした。このノートは授業でどのように使う予定なのでしょうか。
道徳調査委員長	廣済堂あかつきは、書くスペースだけでなく、新たな価値項目に関する資料が掲載されていて、学びを発展的に広げていく点ではいいものだと思いますが、書くところが本当に簡単なものであり、また1時間完結型ではなく、自由に書けるので、あまりにも自由度が広過ぎると思われます。メモ用紙のような感覚のノートに近いと思います。
教育委員	そうすると、授業では使わないのでしょうか。
道徳調査委員長	もし廣済堂あかつきを採用して、ノートがあれば使う先生も出ますが、ひょっとしたら幅を広げるといことまでは時間的に難しいので、そこに触れずに、ノートを開けずに終わる先生も出てくるのではないかと思います。
教育長	つまり、廣済堂あかつきも年間35の内容で構成されていますが、廣済堂あかつきを採用したときには、このノートの内容をそれほど扱う時間がなかなか厳しいということですね。分かりました。
教育委員	道徳の評価の基準が分からないのですが、教えていただけますか。
道徳調査委員長	道徳の評価は、数値による評価ではありません。認め、励ます個人内評価になっています。ですから、評価を行う際には内容項目一つ一つの評価ではなく、年間や学期といった一つのまとまりの中で、子どもたちがどれぐらい成長したか、心の成長を振り返って良いところを認め励ます評価を行っています。学習全体の子どもの成長の要素を見取ることが非常に

大切になってくるわけです。そういった意味でも、日本文教出版は学びが残るということで成長の足跡が分かるので、とても効果的に活用できるのではないかと思います。

教育委員

各者、巻末に学びの記録や振り返りというのが結構あるのですが、これは実際に授業で活用されるものなののでしょうか。東京書籍はホワイトボードのシートが付いていると思うのですが、グループ学習をする際に実際に使おうと思うと小さいと思ったのです。それから、生徒みんなにペンを渡さなければいけないし、みんなの意見がここに書けるかなと思いました。グループ学習するには、付箋紙を使うなど方法はいろいろあると思うのですが、どういう形で行われるのでしょうか。それから、教材の内容的に一番充実している発行者はどこでしょうか。

道徳調査委員長

振り返りに関しては、例えば夏休みに入る前、1学期の自分自身の成長を振り返ってみようという時間は、教科化されて取っています。ですから、そういったページがある教科書を採択したら、そのページを使うこともあると思います。

ホワイトボードについては、道徳に限らずいろいろな教科で、グループ学習のときに話し合いをしながらその場で意見を修正したりするときに非常によく使われているので、各クラスで6人1グループということなら、今はコロナの関係でなかなかできませんけれども、ホワイトボードをそろえている学校は多いのではないかと思います。私の学校でも、こういう付録のものではなく、もう少し大きな、みんなが見えるようなサイズのものを購入して、黒板に貼って授業で使っています。

どの教材がいいのかというのは難しいところだと思いますが、道徳という教科では、まず何を考えさせるのかという発問が何よりも大事だと思うのです。何を読むのかというよりも、その教材を通して何を考えさせるのが大事で、最後には自分との関わりの中で自分自身を見つめる時間を持たないと、学びの深まりは期待できません。例えば、同じ教材で違いはどこなのかということを少し比較してきたのですが、「二通の手紙」という教材があります。2通の手紙から公德心や遵法精神を学ぶのですが、これは7者のうち5者が扱っていました。

例えば東京書籍は3年生の175ページに「二通の手紙」が出ているのですが、発問の数がとても少なく、深まりが期待できません。この教材を読んだ後に、具体的には179ページに「考えよう」「自分を見つめよう」という問いが出ています。「自分を見つめよう」という問いでは、社会の中で規則や決まりを守ることが大切なのはなぜだろうという問いを投げ掛けています。

同じ「二通の手紙」で、今度は日本文教出版を比べてみました。3年生の108ページには、「二通の手紙」を読んで、「問題をつかもう」「自分で考えてみよう」「みんなで議論してみよう」というふうに手順を踏みながら、最後に「自分にプラスワン」ということで、自分の中で法や決まりについてどのように考えればよいのかをまとめてみましょうということ、自分に返る問いに発展しています。このあたりを見ても日本文教出版の方は、丁寧に考えを深めるために、また友達と一緒にグループで話し合いながら深めるためにという手立てが具体的にるので、若い先生方もやりやすいというのが大きな特徴の一つと思われる。

教育委員

35時間という年間の時間数を考えると、各教科書で35の単元・素材があるものと、35まではなくて付録の形で補っているもの、あるいは付録を足しても35に満たないものなどがあると思います。東京書籍は確か足しても35にならなかったのですが、その場合の道徳の時間は、先生方各自のオプションで作ることを教科書として想定しているのでしょうか。

道徳調査委員長

年間指導計画をあらかじめしっかりと立てて、どの内容項目もしっかりと全て教えることができるように計画的に進めています。思い付きで道徳の授業を行うようなことは絶対ないように、計画立ったものを35時間行います。子どもたちや学校の実態に応じて、例えば思いやりについてももう少し授業を深めていきたいというときには他の教材を使ったりすることもあるかと思います。

また、石川県が出している「ふるさとがはぐくむ 道徳いしかわ」という地域教材を例にしたものがあるのですが、そういった資料も使って、また先ほども申し上げたように振り返りの時間もありますので、そういった時間も含めて35時間できるように計画を立てて、計画どおりに授業を行っています。

教育委員

35時間行われるのは当然だと思うのですが、教科書がそれを想定した作りになっていたりいなかったりする点が気になりました。素材はさまざまあるので、授業の際には特段問題ないのだろうと思いますが、ちょっと教科書の作りが気になりました。

教育委員

子どもたちにとって今一番近い問題というと、いじめ問題が取り上げられていると思うのですが、その内容についてこの7者の中で優れている教科書はどれでしょうか。

道徳調査委員長

道徳が教科化された一つの大きな要因がいじめ問題ということもあり、各者とも工夫が大変見られました。特にユニット化、まとめて教えることで特徴が見られたのが、東京書籍、教育出版、日本文教出版の3者でした。

それぞれ特徴があるのですが、東京書籍は身近なものを題材にしたものが非常に多いと思いました。例えば3年生の教科書の20ページに「無実の罪」という教材があるのですが、3年生になっても子どもたちには非常に身近に感じるのでしょうか。各学年ともこういった漫画で提示して考えさせたり、あるいは同じように中学校生活を舞台にしていじめについて考えさせたり、身近なものを取り上げているところが東京書籍の大きな特徴だと思いました。

教育出版もやはりユニット化が図られているのですが、こちら各学年に漫画があり、やはり身近なもので扱われているものがたくさんありました。例えば1年生の教科書の46ページに「『いじり』？『いじめ』？」というページがありましたが、身近な学校生活の中で子どもたちが、これは「いじめ」なのかな、「いじり（からかい）」なのかなという身近なところからいじめについて問題意識を持って、授業で考えていくものがたくさん扱われています。

日本文教出版もユニット化が図られていて、いじめに関する資料が各学年四つ以上ありました。いじめに関するいろいろな話が載っているのですが、日本文教出版の大きな特徴の一つが、例えば1年生の教科書の43ページに「プラットホーム」ということで、いじめの中でも新しい視点、怒りとどう上手に付き合っていくかといった視点なども入っています。3年生であればアサーションです。相手を傷付けずに自分の言いたいことを相手に伝える言い方（アサーティブコミュニケーション）について書かれたページであるとか、いじめをしてはいけないという資料だけではなく、これからどう対応して生きていけばいいのかというような面白い資料もありました。

日本文教出版のもう一つ大きな特徴が、各学年ともスマホやSNSを題材にしたいじめについて扱っている点です。東京書籍であれば、スマホについて扱っているのは各学年ではなくて3年生だけだったり、教育出版も扱ってはいますが各学年ではなく、日本文教出版だけが各学年とも扱って

います。スマホでのトラブルは、学校現場の中で大きな問題の一つになっているので、各学年で定期的に扱えるのはいいことだと思います。

(選定委員長、選定副委員長、調査委員長 退室)

[道徳：審議]

教育委員

道徳ノートの評価がかなり高いような気がしましたが、先生が自分で指導していくときに、道徳ノートに代わるものを別に考えて作っていてもおかしくはないのではないかと思います。それよりも、東京書籍の最初の学びの入り方のところは各教科いつものパターンですけど、上手にまとまっているのではないかと思います。

教育委員

総合的に判断して、結論から言うと日本文教出版がいいのではないかと思います。やはり道徳ノートの使いやすさもありますし、教職員が少し若くなってきていることと、新しい教科としてのスタートでもあります。確かこれは現行2年間ということで、こういう切り方は良くないかもしれませんが、もう少し様子を見るという考え方もあっていいのではないかと思います。ということも踏まえ、私は日本文教出版がいいのではないかと思います。

教育長

ノートの使われ方の部分で議論が出ていると思います。先ほどの委員長のご説明では、これを使ってやっていけば確実に評価はされるだろうという話も出ていました。

教育委員

道徳という教科は専門に教える先生がいるわけではないので、どうやって進めていくのか思案する先生も少なくないと思うのです。しかも評価を伴うことを考えると、自作して道徳ノートに代わるようなものを作ることでも可能でしょうけれども、教科書と一体化して作られているものが活用できると思います。

それから、道徳の特色として、議論して考えを深めることが求められますが、その際の学習の進め方に関しては日本文教出版がいろいろな箇所でも、どうやって問題をつかんで何を考えていくのか、それをどうやって取りまとめて整理していくのかという作りで工夫されていますので、日本文教出版が使いやすいと思います。

教育委員

私も東京書籍か日本文教出版のどちらかですごく迷っています。大きな差といったらやはり道徳ノートかなと思いますし、そこに着眼するのか、内容に着眼するのかという点で迷っているのが現状です。

教育長

先ほど委員がいじめのことについて質問されたときに、道徳が教科化されたことの根本的な理由がいじめにあるという話があり、それと「今日的な課題を踏まえ」という説明がありましたが、その部分も大事なのかなと思いました。

教育委員

いじめの問題に関しては、日本文教出版の目次を拝見すると、「いじめと向き合う」というくくりで、1番、2番、学年によっては3番という形で、この順番どおりにやっていくかどうかは分かりませんが、ある程度間隔を置いて1年間常に、子どもたちがこの問題と向き合えるように出来上がっているところが優れていると思いました。それから、SNSや携帯電話などの素材が盛り込まれている点も日本文教出版は優れていますし、やはり子どもたちに身近な問題であるいじめ、すごく表に出づらいいじめという点でもSNSを使いたいじめの問題は深刻ですので、素材として具体的に挙がっている点は優れていると思います。

教育委員

私も正直、日本文教出版か東京書籍で迷っています。やはりノートがある点では日本文教出版の方が授業を展開しやすいと思いますし、両方ともいじめの問題はきちんと挙げられています。

内容を見ると、東京書籍の方が漫画形式が多く、本当に中学生に身近に起こり得るような内容の漫画が非常に現実的に描かれていて、生徒がすごく実感できると思います。正直、中学生は何がいじめで何がいじめでないのかが分からないことが多く、自然にやっつけてしまっていることがいじめだったりするので、それが本当に身近な内容で挙げられている点はすごくいいと思います。

それに対して日本文教出版の方は、トマトとメロンなどちょっと抽象的な内容が多くて、生徒がこれを見て伝わるかなという部分もあれば、具体的に「怒りの感情と上手に付き合う」ことなど、ちょっと面白い内容も入っていたりするので、正直なところ迷っています。

教育長

今の話を伺うと、皆さん東京書籍と日本文教出版で採択に向かっていけばいいのではないかというご意見ですが、他の教科書もこんないいところがあるというご意見があったら頂きたいと思います。もうしばらく議論していきたいと思います。

教育委員

同じことの繰り返しなのですが、教科用図書研究委員会の報告書を見ると、道徳ノートの良さが圧倒的な高いポイントになっているのです。それがいいのであれば日本文教出版がいいと思うのですが、道徳ノートの良さのポイントが非常に高く、それを引いたら今度は内容的にはどうなのかということになってくるので、私も判断は最初からつきませんでした。

教育長

2年前の議論の中では、若い先生がすごく増えている中で、一定の時間、道徳の授業をきちんとしていかなければならないときに、やはりノートがあった方がきちんとした授業を組み立てることができるだろうし、評価のことを考えても、やはり最終的には文字で評価を残していかなければならないので、いわゆるワークシートというものはあるものの、評価したときに果たしてそれをきちんと残すことができるかどうかということがありました。もう一つは、議論しながら一つの考え方を作り上げていくのですが、ワークシートは先生が作るの、先生の意図がそこに反映され過ぎないかという議論もあったと思います。

やはり道徳は、比較的さまざまな観点からものを話すことを考えていくのですが、そのときに、先ほど日本文教出版のノートの発問がなくなったという話が出ていたと思います。発問が現場の中で邪魔になり、議論するときに発展しないので改善されていったという話があったと思うのですが、その部分も一つの考え方としてあってもいいのかなと考えていました。

委員からは先ほど、採択してまだ2年だし、若い先生も増えてきているのでという発言もありました。

教育委員

調査研究報告書のA-1を見ると、項目6と項目7は東京書籍の方が評価が高く、項目3と項目4は日本文教出版の方が評価が高くて、あとはほぼ同じ感じ。そうすると、項目6と項目7、項目3と項目4の差を話し合えばいいと思うのですが。

教育長

項目6、7で行くのか、それとも項目3、4で行くのか。これまでの議論では項目1、2、3で見たらいいのではないかという話も出ていましたので、そういう視点もあるかなと思います。この報告書をご覧くださいと、A-1もA-2もそんなに差はないのが現実かなと思います。現場の声もそんなに差がないので、委員の皆さんが迷われているのは非常によく分かります。

教育委員

「二通の手紙」の題材で比較してみました。日本文教出版は、3年生の108ページで、先ほど委員長からもご指摘いただいたように、具体的にどんなふうにディスカッションをしていったらいいのかということについて、この素材に特化した形で指導が展開されています。一方、東京書籍は3年生の175ページから「二通の手紙」が始まって、最後の179ページの「考えよう」「自分を見つめよう」というところで二つの問い掛けがあります。

ただ、東京書籍に関しては教科書の冒頭2ページで、「話し合いの手引き」というものがきちんと用意されています。グループを作り、どんなふうに話を聞いて、どういうふうにまとめるかということが書いてあるので、この手引きに従いながら、実際はこの二つの課題に関して話し合いを作っていくことを学校の先生もきっと指導していくと思うのですが、その二つを置いてみたときに、中学生の子どもたちがより効果的に話し合いができるかなと思うのです。この「話し合いの手引き」自体はやはり抽象的で、これを基にそれぞれの素材について先生たちが期待するような話し合いがきちんと持てるだろうかという点については、ちょっとハードルが高いという印象を持ちました。であれば、一つ一つの素材に特化した形でこういう手引きのようなものが置いてある方が、使いやすいというのも変ですけども、より充実したディスカッションが組めるのではないかと感じました。

教育長

従って、日本文教出版の方がいいということですね。

教育委員

はい。日本文教出版の道徳ノートは、確かに評価する側にすれば便利なものなのかもしれませんが、子どもたちが後で見返したときにノートだけを見ていても正直何だかよく分からないと思うのです。むしろ教科書の素材を読んで、その後ろに書き込んでいるものの方が、後で子どもたちが自分で振り返って見たときに、こんなテーマでこんなことを考えていたのだなという振り返りができていいと思っているので、ノートの評価を特段高くする必要はないのではないかとというのが私の考えです。

教育長

ノートは置いておいても、いわゆる学び方のところで考えていくと日本文教出版でいいのではないかとということでもよろしいでしょうか。

それでは、かなり時間がたってまいりました。もしご意見がありましたら、それを受けて少し先へ進んでいきたいと思いますが、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

教育委員

考えて議論することが道徳の中心でもあり、難しさでもあると思うのですが、どうやって考えたり議論したりするのかというモデルがあれば、先生方は授業をしやすいと思います。東京書籍の場合は冒頭に手順を踏んでということが示されていて一貫しています。

他方、日本文教出版の場合は、目次で見るとなかなか見づらいところもあるのですが、巻頭で全体的な道徳での学び方についてイラストや挿絵を交えて示しています。と同時に、目次でチェックすると、両手を挙げたマークやランプのマークでその素材に関する議論の仕方が提示されていて、一様ではなく、さまざまなスタイルで議論することになっています。例えば1年生の40ページでは、この単元、この教材の場合の学習の進め方が、体験を交えながら示されています。それから26ページには、この単元についてはこのようなことが一つのお手本、モデルだということが示されていて、いろいろな議論の仕方があるということをヒントにしながら授業が組み立てられると思われまます。ですので、道徳の授業を進める上で、ワンパターンではない形で工夫しながら議論を展開できると思います。102

ページでは学習の進め方の一つのモデルが示されていたりして、多様な議論の進め方が提示されているので、とても役に立つという気がします。

教育長

ですので、日本文教出版の方がいいという考えですね。
なかなか決めづらい部分があります。一度皆様のご意見を聞いてもよろしいでしょうか。それでは東京書籍と日本文教出版の2者で挙手をお願いしたいと思います。

—挙手—

教育長

全会一致で、日本文教出版に決定します。
それでは今日の6種目が終わりましたので、確認したいと思います。音楽一般は教育芸術社、音楽器楽は教育芸術社、技術・家庭は東京書籍、英語も東京書籍、そして道徳は日本文教出版でよろしいでしょうか。
次回はお盆が明けてからの8月17日（月）17時30分から行いたいと思います。理科と数学の2種目になります。教科書をご覧になりながら、ご自分の意見をまとめていただくとうれしいと思います。17時30分からになりますので、なるべく議論を活発にしながら、早めに終わるようにしたいと思います。

以上をもちまして本日の審議を終了します。ありがとうございました。

以 上

令和2年 第8回教育委員会定例会議 会議録（第3回）

1 日 時 令和2年月8月17日（月）

開会 17時25分

閉会 19時25分

2 会 場 金沢市役所第二庁舎 2階 2201会議室

3 出席委員（7名）

教育委員長 野 口 弘

教育委員 田 邊 俊 治

〃 岡 能 久

〃 大 島 淳 光

〃 丸 山 章 子

〃 木 村 陽 子

〃 長 澤 裕 子

事務局	教育次長（兼）学校教育部長	加 藤 弘 行
	担当部長（兼）学校指導課長	寺 井 義 春
	学校指導課担当課長（兼）課長補佐	青 山 雅 幸
	学校指導課主席指導主事	貞 廣 賢 了

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会		
委員長		松 原 道 男
副委員長		加 藤 隆 弘

教科用図書調査委員

4 案 件

非 議案第27号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について （学校指導課）

5 議事の経過等 以下のとおり

議案27号について非公開で審議に入り、中学校教科用図書のうち、理科、数学について採択を行った。

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 議案第27号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について（学校指導課）

○ 種目「理科」

[理科：説明の概要（選定委員長）]

5者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。東京書籍はA

-1の項目4とA-2の項目10、大日本図書はA-1の項目6とA-2の項目6、学校図書はA-1の項目5とA-2の項目5、教育出版はA-1の項目7とA-2の項目12、啓林館はA-1の項目3とA-2の項目5だった。

理科は、選定委員会で最も長い時間がかけられた。質疑ではまず、教科書のサイズについての質問があった。その回答は、東京書籍は縦長で視点が左右にぶれず、特に観察実験で縦に1、2、3と順番に読み取れるのが利点である、啓林館などは横に大きいサイズで、写真を大きく示すことができる利点があるという回答だった。

次に、A-1の項目9、「自分で、みんなで考える」という内容について、東京書籍と啓林館の評価が高いが、どちらが使いやすいのかという質問があった。その回答は、金沢型学習スタイルの「自分で考える」に関しては東京書籍と啓林館が他者より抜き出ているが、どちらがよいかというところまでの話はなかったという回答だった。

次に、教科書の後ろにある付録の評価について質問があった。その回答としては、啓林館は単元の一つ大きなレポートがあり、前回のノートより使いやすく、その点で評価が高かったこと。他者の付録は工作物が主で、作る喜びはあるが、特に評価が変わるほどではなかったという回答だった。

次に、A-2の項目14について、単元によって単元全体として評価しているものもあれば、ピンポイントの内容で評価しているものがあることに関して質問があった。その回答としては、基本的に子どもたちがつまづきやすいところ、例えば気象とその変化に関する事項では、生徒が最も理解しにくい内容に飽和水蒸気圧のグラフの読み取りが挙げられるが、その丁寧さや構成の視点で調査したということだった。

次に、A-2の項目9の初期微動継続時間について、啓林館を評価しているが、学習指導要領では扱わない部分を評価していないかという質問があった。その回答は、本質的な理解という点で丁寧であることで評価したとのことだった。それに対して例えば東京書籍でもきちんと評価・説明できているのではないかという意見があった。この内容については議論の結果、啓林館の評価を修正した

次に、A-2の項目8について、東京書籍は分かりやすい挿絵や写真を多数用いており、啓林館は大きな写真を用いていることの評価について質問があった。その回答としては、東京書籍はサイズより量を、啓林館は写真の大きさを評価したとの回答だった。

次に、A-2の項目6、化学変化とイオンに関する事項について、啓林館と東京書籍の評価で差があるが同じくらいではないかという質問に対しては、啓林館の方が紙面をうまく使って説明していて分かりやすいという点で評価したとの回答だった。

次に、教科書に書き込ませる教科書とそうでない教科書、またレポートの書かせ方の工夫などについての質問があった。その回答としては、実験によってノートを取ることに時間を要するため、教科書に書き込ませる教員もいるし、しっかり書かせたいところはきちんとレポートを書かせるとのことだった。教科書にもいろいろなスタイルがあり、書き方の見本が提示されているものについては生徒も受け入れやすいという議論があったとのことだった。レポートの書かせ方は、A-1の項目2「思考力・判断力・表現力など」の評価の中に入れたということだった。

次に、SDGsやSociety 5.0に関する事で、今回の改訂で今までの教科書と変わった点やその特徴をうまく捉えている教科書があるかという質問があった。その回答としては、理科そのものがSociety 5.0やSDGsの内容を含んでいるので、どの教科書も満たしている。ただ、GIGAスクール構想で1人1台タブレットを持たせることに関しては、QRコードを教科書各者が載せており、QRコードでは啓林館や東京書籍の評価が高く、主にA-1の項目8で評価しているとの回答だった。

次に、プログラミング教育に関する評価について質問があった。その回答として、プログラミング的な思考についてはいずれの発行者も問題解決型のステップを踏んでいること、プログラミ

ングだけを見て評価せず、探究のプロセスとして評価し、A-1の項目2がそれに対応するという回答だった。

次に、ウイルスなどは扱われているのかという質問があった。その回答としては、教えることになってはいないが、単細胞の細菌類などは資料に織り込まれており、それよりも小さいものにウイルスがいるということは大概の先生方は触れているという回答だった。

次に、原子力の科学技術の部分に対して興味が薄れていくという話も聞くが、その中で教育出版の3年生のエネルギーの説明が内容も豊富であり、メリット・デメリットのバランスも取れているのではないかと思ひ、そういったものに対して扱いの差はあるかという質問があった。その回答としては、原子力発電については学習指導要領では必ずプラスとマイナスの部分をつまえることになっていて、どの教科書も載っているとのことだった。

次に、A-1の項目4について、東京書籍の評価が高いという質問があった。その回答としては、例えば東京書籍の音のところで、太鼓や鼓など日本の伝統を入れている点で評価が高いという回答だった。

次に、A-2の項目3、4、5の評価が高い発行者の根拠について質問があった。その回答として、項目3の電流に関しては、啓林館は単元冒頭に雷の写真があり、東京タワーとその下で電気がついているという三つの関連で電気と雷について示したことが高い評価になったこと。項目4は、原子・分子の世界に関しては東京書籍が、粒子学を捉えさせると同時に化学式で考えさせる点、考え方の吹き出しが載っていて丁寧に説明されている点が高く評価されたこと。項目5の運動とエネルギーでは、啓林館がストロボ写真を多用して分かりやすい点を高く評価したということだった。

次に、A-1の項目2、3、9に関連して、学校図書では毎時間ごとに課題の見方・考え方・まとめがはっきりしており、東京書籍はほとんどの章が左ページでスタートし、課題の後で実験があり、課題に対する結論を表現しようといった構成になっていることなど、探究のプロセスの評価についての質問があった。その回答として、東京書籍はプロセスががちとしており、最後のまとめについては、自分で書かせることを意識させている点の特徴であるということだった。ただ、それを読み砕いて自学していくことについては、分かりやすいかどうかはあながち言えないという回答だった。

次に、デジタルコンテンツについての質問があった。その回答としては、QRコードのリンク先を見ると、動画があったり、自分で言葉を入れたり番号を選んだりする要点確認、計算問題などさまざま、発行者によってはリンク先が自前の物ではないため、リンクが切れる可能性があるものもあるということだった。

その後の議論で、A-2の項目2について、東京書籍の電池の実験の流れが良いという意見があり、ここの評価を高くした。

また、A-1の項目2、3に関して多くの議論があった。結果的に評価は変わらなかったが、啓林館は導入の部分での興味・関心があるけれども、東京書籍の方がしっかり問題解決型になっているのではないかという強い意見があった。

その後の感想で、こういう本を読んだらよいという導きがあるところが東京書籍の特徴の一つではないかという指摘があった。また、評価には変更はないが、一部表現が分かりやすいように、また適切になるように文言を修正したところがある。

[理科：質疑応答]

教育委員

発行者によって単元の順番が微妙に異なります。特に今の説明の中でも評価が高いとされた東京書籍と啓林館は、他の発行者と比べても異なります。例えば東京書籍は、2年生と3年生の出だしで化学を扱っていますが、啓林館等を見ると生命という単元からスタートしています。単元の順番が発行者によって微妙に異なるのは、授業を展開する上で差し障りは

ないのか、構成についてお伺いしたいと思います。

理科調査委員長

教科書の順序性は、指定されていません。何年生で学ぶかということだけが指定されているので、各発行者の考えで、例えば春の花を扱う単元を最初に持ってきた方がいいと考える発行者は最初に持ってきていますし、北海道であれば花の時期がちょっと遅いので、先に物質分野の方からやろうという場合もあります。順序性は関係ありません。

教育委員

学校や先生によって順番が微妙に違うこともあり得るということですね。

理科調査委員長

はい。今はほとんどそういうことはありません。昔は理科室の関係などもあって、1分野・2分野並行型の授業もよくやっていましたが、今は学年だけ指定されています。

教育委員

理科の場合は実験をする先生も多く、実験を担当する先生が実験シートのようなものを自分で作って、授業の展開に合わせて子どもたちが使えるようにすることもよく見かけます。説明にもあったように、教科書に書き込むような作りをしているところもあったり、探究シートのようなものが別冊のようにして組み立てられている教科書もあります。授業の展開の中で教科書にあった方がいいものは当然教科書にあると思いますが、補足的に追記されているような教科書も散見されます。先生方は実験用に自作のものを作って活用していますし、生徒は生徒で自分のノートがあるでしょう。その点で、教科書に必ずあった方がいいものや補足的なものでもなくとも、探究シートのものが教科書にあると、先生方にとっては好都合といえるのかどうか、そのあたりの状況を伺います。

理科調査委員長

レポートという観点で教科書に書き込むタイプや、教師がレポート用紙を用意して書かせるなど、いろいろなサイクルがあるということでしたが、基本的にその先生の軽重というか、同じスピードで進んでいくと1年間で終わらないという中で、ここできっちりレポートを書かせたいという書きがいのある単元ではかちっと書かせます。そこまでしなくてもいいときには、レポートを書くことに時間をかけるよりは教科書に書き込んだ方が早く進めるだろう、むしろ考察するところに時間をかけられるだろうという考えで先生方は配分しています。そういう形でいくと、どの発行者もそれぞれレポートの例を示したり、実画タッチで描いたスケッチを載せたりする工夫をしています。

啓林館の特徴としては、巻末に厚紙スタイルの探究シートがあり、広げて裏表に書けるようになっています。書きがいのある単元に一つ、大単元に一つ、やりがいがあるようなところで厚みのレポート用紙を使うと、子どもたちはいつもと違ってきっちり書きますし、消したときに破れないので書き直しもできます。このようなちょっとした工夫をすると、子どもたちの書きようも変わってきます。そういうものを取り入れているのが啓林館の特徴です。

教育委員

そういうものがあった方が使い勝手がいいし、活用しやすいですね。

理科調査委員長

はい。啓林館は、書きがいがあるところをチョイスしています。

教育委員

理科は実験や顕微鏡を使った観察が多くなると思うのですが、どの発行者が安全面をきちんと示していますか。

選定委員長

細かい話なのですが、選定委員会では、この図は実験に適しているのかどうかという指摘をする委員もいました。教科書には観察・実験がたくさんあり、全般的にどうだったかというのは調査委員長が教科書を比較して理解していると思いますので、調査委員長からコメントがあればお願いします。実際、選定委員会では図に問題のある教科書も指摘されていましたが、他の教科書にも似ているようなところもあるという話もありました。

理科調査委員長

やはり安全面は非常に大事なので、どの発行者も朱書きにしたり、注意マークなどを載せたりして、安全面に対する注意点は必ず述べています。ただ、発行者の版の大きさがかなり異なるので、文字の配置の仕方は発行者によって違います。

例えば啓林館は大きな版を使っているのですが、2年生の146、147ページでは、ふくらし粉や重曹を加熱してホットケーキができることから、炭酸水素ナトリウムを加熱して二酸化炭素が発生することを調べる実験について、2ページにまたがってきっちり書かれています。その中で、一つ一つの操作が「びっくりマーク」とともに朱書きされています。こういう構成ができるのは紙面と関係しています。

東京書籍は、細長で横幅が狭いのが特徴で、机の上のスペースを重視しています。2年生の17ページでも、縦に長いので縦に図が並んでいます。注意点が書いてあるのですが、啓林館とちょっと違うのは、スペース的に苦しいので注意点が随所に書いてあるのではなくて、全部一読してくださいという示し方になっています。それは各発行者のスペースの問題や、その実験をスペースを取って行おうとすれば配置も変わるので、それぞれの中で面積を配分しています。安全面については、どの教科書も必ず書かれています。

教育委員

A-1の項目9で、金沢型学習スタイルに関しては東京書籍と啓林館ではあまり差がないという意見があったと聞きましたが、A-1の項目2に関してはいかがでしょうか。東京書籍と啓林館でどちらの評価が高いとか、これについて何か議論があったかどうか、なかったとしたらこの点についてどのようにお考えでしょうか。

選定委員長

選定委員会では内容・項目についての質問がありましたが、調査委員会ではどうでしたか。

理科調査委員長

調査委員会でも東京書籍と啓林館については、思考力・判断力・表現力の点で特にどちらの評価が高いかというのではなくて、二つが抜きんできているということでした。

特徴として東京書籍は、評価を前提にすると、常に課題に対する自分の考えを必ず書かせたいというところがあります。しかも3、4ページ後に見本例が書いてあります。いわゆる最後のまとめに相当するところですが、ぱっと見て先見できないようにしてあるのが東京書籍の特徴です。啓林館は大概、次のページに書いてあります。その点では、とにかく書かせたいという思いは東京書籍の方が強いと思います。ただ、いずれの発行者も今回の学習指導要領改訂の中で、自分の思いを書かせる、振り返らせるところが次の新しい学習につながるの、どれも書かせる工夫をしています。

選定委員長

選定委員会では、項目2だけでなく項目1、2、3を包括的に見たところ、問題解決の点で東京書籍の方がより評価が高いのではないかということで、1人の委員がとても強く押していました。ただ、そうでもないのではないかという意見もあり、結論的には評価がそんなに変わったわけではありません。私の先ほどの説明は不十分でした。

教育委員

今の説明を例で示していただいた方が分かりやすいと思います。

理科調査委員長

東京書籍の2年生の19ページです。赤の部分に「びっくりマーク」が付いています。課題に対する結論を表現しようということで、ノートに書いて他の人と比べる形です。その例文は34ページですから、十数ページ後に書いてあるのです。34ページの1節の部分に、典型的・模範的な4行ぐらいの文章があります。4行ぐらいの文章を書かせたいというのが東京書籍の思いなのだと思います。

啓林館も、書かせたくないわけではありません。例えば2年生の147ページ、先ほどと同じ炭酸水素ナトリウムの実験です。下の方に結果を書かせるような視点が書かれています。それから、考察としてその下に1番「発生した気体は何か。その理由を説明しなさい」と書いてあります。ただ、東京書籍と書きぶりが違って、従来のなものだと思います。その答えがどこに書いてあるのかはそこには指定されていなくて、次のページの文章に織り込まれているのが通常の形になります。

教育委員

先ほどからの質問と重なるのですが、ご説明いただいた炭酸水素ナトリウムについて東京書籍と啓林館の両方を見たときに、啓林館の方が私は見やすいような気がしました。結果や考察を読んでも割と分かりやすいです。でも、ご説明いただいたように、次のページに書いてあったり、34ページに書いてあったりするのですが、どちらの方が授業を進めやすいのでしょうか。それから、ページが片側だけしか見られない東京書籍の図を見たときに、啓林館の図の方が見やすいと思います。テーブル上の都合などいろいろご説明いただきましたが、先生が実験を指導する中でどちらが使いやすいのでしょうか。

理科調査委員長

まず、見やすさについては、大概の学校は実験の図を教材提示装置でモニターに拡大して写して説明しています。その点では、紙面的に大きくても、結局そこに写ってしまえば大きさは同じになります。ただ、自学自習のときに見やすいかということ、例えば今のコロナの問題で自宅で自学しなさいと言われたときには、紙媒体の大きさが効いてきます。授業以外の自学という視点であれば、紙媒体は大きい方がいいでしょう。授業中は先生の工夫でどうにでもなるということです。

それから、炭酸水素ナトリウムの問い掛けに関してどちらが授業を進めやすいかという点については、二つの意見がありました。この間の回でもありましたが、教科書が流れ（ストーリー）をつくっていくのですが、必ずしもそのストーリーに乗らない教え方も多くあります。その中で、先生が自分で工夫していろいろエッセンスを加えて授業をしているのが現状です。だから、このままの流れに縛られて、本当は工夫したいのだけど工夫できないという先生もいるわけです。その点では、東京書籍はかなり論理的に、きっちり積み上がっていく方法です。啓林館はそこまでいかないので、自由度が高いことが特徴になります。

例えば、観察・実験の考察の観点が細かく書いてあれば、いろいろな生徒がいる中で、これが非常に分かりやすいという生徒もいると思います。逆に、東京書籍のように「自分の思いを書きなさい」と言われたときに、いきなり手が止まってしまう生徒もいるかもしれません。その中で多分、教師は自分の投げ掛けや援助で、書く力を段階的にステップアップして積み上げさせていく授業の工夫をしていくと思います。

だから、生徒が力を持つようになれば、どんどん書くことも負担にならなくなります。われわれの中では、そういう生徒を育てていきたいというのが一つの方向ではあります。そうすると結論的には、学校の状況、生徒

の状況、クラスの状況によって進めやすい、進めにくいがあると思いますし、先生がベテランかどうかによっても進めやすい、進めにくいがあるのが、発行者の特徴であると思います。

教育長

調査委員会には14項目ということで、ほとんど単元に近い状態の中でいろいろと丁寧に調べていただき、ありがとうございました。その中で、もし分かったらいいのですが、致命的にこの用語が落ちているとか、これは本来ここで教えなければならないのに抜けているものがあれば教えてください。なければ結構です。

理科調査委員長

啓林館の1年生の21ページに、離弁花・合弁花という太字の言葉があります。離弁花は花びらが1枚ずつばらばらになっているもの、合弁花はツツジのように花びらがくっ付いて1枚になっているものをいいます。東京書籍以外は全て、合弁花・離弁花という言葉を押さえています。しかし、東京書籍には載っていません。

これはどこに効いてくるかという点、タンポポはどこにでもあるので春でなくても観察できるのですが、タンポポは合弁花であり、花びらの集合体の一つの花になっています。それをスケッチするのですが、スケッチした図が大概どこかにあります。タンポポの花びらは1枚ではなくて縦筋が入っており、花びらの数でいうと5枚が1枚にくっ付いています。これが東京書籍の場合、合弁花・離弁花という言葉を入れていないので、説明がつかなくなることがあります。

ここは大概、4～5月の中学1年生が最初に学ぶ理科なので丁寧に教えるのですが、タンポポやツツジは扱えない、区別できない、花びらが何枚か言えないとなるとちょっと痛いと思います。ですから、指導要領的には満たしていますが、現実的にはタンポポの花びらを1枚で扱ってしまう可能性があるのも、そこは気になることです。一つの双子葉類というくくりをさらに合弁花・離弁花に分けるのですが、そこを東京書籍はしていないことになります。実際教えるときに困る気がします。

(選定委員長、選定副委員長、調査委員長 退室)

[理科：審議]

教育委員

調査報告書とも照らし合わせながら今の議論を確認した結果、私は東京書籍か啓林館の二つに絞っています。やはり教職員のスキルや進め方によってそれぞれメリット・デメリットが異なるので、一概にこちらの方がいいと言うのはなかなか難しいと思っています。それから、書かせる工夫をそれぞれしている中で、探究シートが分かりやすいと思いますが、自由度はどうなのかを考えると良しあしもあるということで、今のところ東京書籍か啓林館で考えています。

教育委員

私も委員と同じ意見です。細かな単元一つ一つを先生方が丁寧にチェックされた中で、高い評価となっているのが東京書籍と啓林館なので、やはりこの2者に絞るのが適切と考えています。どちらかというのは私も悩ましいところなのですが、一つの単元に当たって、表現してみて、それに対する一つの答えが示されていることは、子どもたちにとっても励みになるように感じました。確かに学校の授業として先生がいろいろな問い掛けをして、それに対して答えを出す形で授業が進んでいくのも理想的なのですが、子どもたちの能力によっては何となく先生方がやった授業で終わってしまい、そこで何を学んだかをきちんと理解しないまま授業を終えてしまう生徒も中にはいると思うと、課題に対する結論が教科書に入っていることで、自学などで自分が一つ一つ理解して積み上げているという感触を形

として残していける点はとても魅力的に感じました。

教育長

お二人からは東京書籍と啓林館の方が秀でているという意見でしたが、他にいかがでしょうか。

教育委員

私も皆さまと同じ意見で、東京書籍と啓林館が他の発行者から見ると優れているので、この2者から選ぶのが妥当という考えです。学校訪問では、理科の実験室での子どもたちがすごくはつらつとしていて、初めて自分たちで行った化学反応を見てとても生き生きとしている様子を授業で拝見したのですが、実際に実験をする上では安全面も大事だと思うので、安全面が優れているのは啓林館が一番だと思います。実験のそれぞれに細かく書いてある点も大事なことだと思います。何かあったら大変なので、そういう面で啓林館の方が優れていると私は思っています。探究シートで実験の流れや最後のまとめまで分かりやすく工夫されているのではないかと思います。

教育委員

私も東京書籍と啓林館の2者で迷っています。問題解決型としては、東京書籍の方が問題発見、課題、実験をして結論、活用という展開がしやすくなっています。ただ、結論の例が書いてあるのですが、最終的にはあまり自由度がなくて、この答えでない駄目だと捉えがちではないかと思えます。形式的にはとてもいいのですが、子どもの思考が狭まってしまう可能性があると思います。啓林館も同じ形式なのですが、最後に思考の幅が広がるというか、探究シートもすごくいいと思います。この中でもいろいろな考えを書けるようになっていて、思考の幅を広げるという点では啓林館の方がいいと思います。

各単元のまとめのところで、東京書籍は言葉を並べてあるのに対し、啓林館は説明を入れた上で学習のまとめをしていて、とても見やすく理解しやすいと思います。さらに、これは教科書の大きさも関係していると思うのですが、力試しの問題も見やすくなっていると思います。東京書籍はまとめの部分で言葉が並んで、問題もあるのですが、教科書のサイズの確かめと応用の問題が少しやりづらいと感じています。良しあしはあると思うのですが、啓林館の方がトータルで見るといいと思います。

教育長

それぞれの良さはあるけれども、啓林館の方に良さがあるのではないかという意見が出ていたという感じを受けます。

教育委員

内容的には学習指導要領に則ったいい作りをそれぞれしていると思います。皆さんの意見と共通するのですが、縦長と横長とでは、縦長は他の教科にもあまりなかったのも、もしかすると子どもたちが使い方に違和感を持つのではないかという点が気になります。

内容的には、東京書籍は身近なことから問題を発見して導入している点はとても工夫していると思います。しかも、問題に対してどんな課題があるのかという展開は随分工夫しています。教科書の構成も、色使いを工夫して流れるようになっていて、身近にある問題をどうしたら解決できるのかということとても工夫された作りになっているので、教科書の展開としてはとてもいい内容だと思います。

他方、啓林館は、内容の押さえは極めてオーソドックスだと思うのですが、それを押さえた上でどう応用していくのかというあたりを随分工夫しています。東京書籍は最初の時点で身近な問題に課題を持って考えていこうというスタイルで、啓林館はいろいろな基本的なところを押さえて、それをどんなところにつなげていけるのかというところにつなげていく工夫した作りになっています。

どちらがいいかというのは悩ましいところですが、子どもたちの習熟度によって、片方が使い勝手が良くて片方が使い勝手が悪いということにもなりかねないので、中学生ですから基本的なところを押さえながら、身に付けたことをどう発展・応用できるのかというところに力点を置いた啓林館の作りがどちらかというといいいという気がします。ただ、東京書籍の、身近な問題から疑問を持ってみようというのは着眼としてはとてもいいので、それを良しとするような子どもたちにはもしかすると使い勝手がいいかもしれないと思います。

それから、横に長いのは、1～2ページで内容を把握しやすいというメリットもあると思います。しかも、写真や注意書きが視野に収まりやすいと思います。写真も甲乙つけ難いところがありますが、先ほどご指摘があった点も考えると、啓林館は実験の際に把握しやすく、注意を喚起しやすいので、オーソドックスなサイズのメリットを最大限生かしている気がします。そのことを考えると、総体的には啓林館の方がいいと思います。しかも、先ほどの内容的に気になる点があるという指摘を重ねて考えると、啓林館の方がいいと思います。

教育委員

探究シートをうまく使えば、生徒たちを指導するのに役に立つのではないかと思います。ガスバーナーの使い方についても、探究シートの最後にきちんと記載されています。私はガスバーナーの使い方を小学生のときに習った気がするのですが、うまく火をつけられなかった記憶があります。火を扱うのは危ないですから、そんなことがないように、啓林館の方が丁寧に書いてあるのではないかと感じています。

教育長

私もこの2者で悩んでいました。それぞれ良さがあるのですが、啓林館は随分変わったと思います。まず、ビジュアルがとてもきれいで、子どもたちをぐっと引きつける工夫を大変しています。それから、今回あまり話題になっていませんが、QRコードの配置の仕方が非常に適切です。東京書籍は前の方に引っ張っています。見てみると、シミュレーションが結構多いのです。要するに動画が少ないので、シミュレーションだけを見たときに、果たして子どもたちがイメージできるのか、非常に気になりました。啓林館は動画が非常に多いので、「なるほど、そうなのか」というふうにしっかりと把握できる点がいいと思います。それから、問題解決的なところは、そんなに差はないという感じを受けました。

ただ一つだけ、東京書籍がよいと思ったのは、安全に対する配慮です。例えば2年生の17ページ、ホットケーキのところで、注意書きに「加熱する試験管から出てきた液体が試験管の底に熱しているところに流れると、試験管が割れることがあるので、試験管の口を底よりもわずかに下げる」という表現がきちんとしてあります。横の試験管の下げ方はきちんと合っていますし、「必ずガラス管を水の中から出してから火を消す」と非常に丁寧な安全対策が記されているのです。

ところが、啓林館は手で書いてあるので、傾きが非常に分かりづらいのです。啓林館の2年生の185ページでは、炭酸水素ナトリウムともう一つ、硫酸銅の実験で同じようなことをしているのですが、絵を見ると、試験管の傾きが非常に急角度になっていると感じるのです。上の方に目次で書いてあるのですが、傾きについて触れていないのです。こういうところが非常に気になりました。

それから、上に目玉クリップという絵があります。確かにこれでいいとは思いますが、理科の授業なのでここは目玉クリップではない、理科としてきちんとした用具を使ってほしいと思っています。例えば東京書籍の2年生の57ページに、ピンチコックがあります。やはり理科の授業なので、身近にあるものよりも理科の道具を使って実験を進めてほしいので

す。特に高校に入ってから理科をやらない子もだんだん増えてくるので、ひょっとするとこういうものに触れるのは最後になるかもしれません。ですから、こういう点を大事にしている東京書籍はよいと思います。

もう一つよいと思ったのは、東京書籍の242ページに真空放電の実験があります。放電管を使って放射線を出す実験です。そのページの一番下に、「真空放電の実験ではできるだけ装置から離れるようにするとともに、放電時間を短くする」という大事な記述があります。要するに、子どもが被爆しないようにという配慮なのです。ところが、啓林館はこういう記述がありません。こういった点も東京書籍が長けていると思っています。実験・観察でいえば、東京書籍に軍配が上がります。ただ、それぞれ一長一短があるので、それぞれの要素を見ながら決めていただきたいというのが私の思いです。

それから、今の学校の先生は若い先生が多いはずなので、先生方のことを考えるとどちらがよいのでしょうか。小学校は全教科を教えるので、小学校の先生は教科書を見ながら授業をするパターンが結構多いのですが、中学校は教科担任制なので、ある程度自分なりに勉強して、教科書を自由に使いこなせるのではないかととも思います。

教育委員 東京書籍のサイズが非常に特徴的だと思いますが、現行の教科書もこのサイズになっていますか。

事務局 現行は普通のサイズになっています。長くはありません。

教育委員 今回からこのサイズになったということですか。

教育長 このサイズになったのは今回が初めてだと思います。

教育委員 東京書籍の教科書は、開けるとすぐに戻ってしまうのです。教材を置くために幅を狭くしたと言っていました、戻ってしまうのです。自分のものであれば押さえてしまえばいいのですが、初めのうちはすごく戻ると思います。ただ幅を狭くするのは、使いやすいのだろうかと思うのですが。

教育長 教科書の安定性ですね。

教育委員 はい、そこがちょっと。

教育長 趣意書に、縦長にした理由が書いてありませんか。発行者は必ず意味があってそうしていると思います。

事務局 東京書籍のサイズについては趣意書の中に、「新たな判型A4スリム判で探究の課程、資質・能力と観察・実験ページを見やすくした」とあります。もう少し詳しいところを読むと、「資質・能力育成のための活動を探究的な流れの中に盛り込むため、新たな判型A4スリム判を採用しました。探究の流れに関わる生徒の活動や資質・能力育成活動を余裕をもって紙面に収められます。スリムな判型で、観察・実験の流れを見やすく、手順もたどりやすくしました。観察・実験の手順が見やすいため、観察・実験の安全性を高めることができます。タブレット端末でのデジタル教科書紙面の表示にも最適です」という記載になっています。

教育長 書いてあることをそう捉えるかどうかは読み手の思いですから、そう書いてあるけどそうでないという読み方も、それはそれでいいと思います。かなり時間がたってきたので、2者に絞り込んでよろしいですか。他の

3者について特段意見はありますか。それでは2者に絞りたいと思います。

今の感じでは、趣意書にもありましたが、どちらかというところ啓林館の方がいいのではないかという意見が多かったと思います。挙手を一度させていただいてもよろしいですか。

—挙手—

教育長

全員が啓林館に手を挙げました。私は東京書籍がよいと思っていますが、皆さんの意見を尊重したいと思うので、啓林館に決定してよろしいですか。久しぶりの交代になりますが、啓林館の教科書で、新しい視点で現場で頑張ってもらえればと思います。では、啓林館に決定します。

○種目「数学」

[数学：説明の概要（選定委員長）]

7者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。東京書籍はA-1の項目3とA-2の項目4、大日本図書はA-1の項目5とA-2の項目4、学校図書はA-1の項目9とA-2の項目2、教育出版はA-1の項目6とA-2の項目2、啓林館はA-1の項目2とA-2の項目2、数研出版はA-1の項目6とA-2の項目1、日本文教出版はA-1の項目6とA-2の項目4だった。

質疑ではまず、A-1の項目1、2、9で比較的评价の高い東京書籍、学校図書、啓林館の3者の比較について質問があった。その回答としては、まず東京書籍は、過去の教科書では例題、確かめ問題、問いがあったが、新しい教科書では確かめ問題がなくなった。丁寧にやっていくというイメージから、少し発展的で対話的な授業にシフトしている。また、導入のところに工夫が見られる。例えば、1年の素数のところは独創的で、「九九の表の決まりを見つけよう」というところから入っており、導入に力を入れ、興味・関心にも力が入っている。学校図書も、各章の導入で非常に生徒の目を引くような大胆な入り方をしている。その章でできるようになってほしいことやこういうことを考えようということが見える形になっている。啓林館は、「考えよう、広げよう」というところが前の教科書からあって、多様な授業を展開しやすく、それによって丁寧さが加わった内容になっている。ただ、啓林館の場合は、裏表紙から始まる新たな試みがどうなのかという判断が少し難しかった。東京書籍や学校図書も同じように発展的な内容を関連付けて途中途中に入っている。啓林館は、新たに自分から学んでいこうという部分が付け加えられた点が新たな違いであるということだった。

次に、啓林館だけがQRコードについて書かれているが、それが優れているから書かれたのかという質問があった。その回答としては、東京書籍やその他にもQRコードがあるが、巻頭のページに載っている。一方、啓林館等はデジタルコンテンツが教科書の中に入っていて、生徒が分からないときにタブレットなどを駆使して見られるので、啓林館については記入したということだった。

これに関連して、QRコードのコンテンツは授業にどう取り入れていけるのかという質問があった。その回答として、デジタルコンテンツまでは十分に調査できていなかったが、経験上、デジタルコンテンツは、例えば図形を移動したときの軌跡を見せたり、グラフィックスの面で非常に効果的なので、授業で教師が使うとしたら、そういう使い方があるという回答だった。

次に、プログラミングのコンテンツが巻末にある教科書もあり、教科書によって差があるように思うという調査結果についての質問があった。その回答としては、例えば星型多角形のところで、プログラミングでこうやって動かしたら、この図形が書けるというものは扱っているところもあったが、扱っている程度だけで教科書の良しあしまでは判断していなかったという回答だった。

その後、調査委員会の議論において、思考の助けになる工夫や基礎・基本的なものに対する定着の点で、丁寧な東京書籍が優れているという意見があった。また、保護者の立場から、教科書の内容と先生が使って教える点からは、調査された評価は自分が思っているような評価になっているという感想があった。つまり、調査委員会の評価と同じような評価結果だったという感想があった。また、同じく保護者の立場から、例えば素数の紹介をするときに暗号がトップに挙がっていたり、AIのために数学が必要など、将来使う用途がすごく増えており、将来性を見通しながら説明して、興味を持たせながら教科書を使っていたらという要望が意見としてあった。

[数学：質疑応答]

教育委員

小学校の算数から中学校の数学へと大きく変わっていくと思うのですが、その部分においてはやはり導入が非常に重要だと思います。その観点でいうと、どこが秀でているというご意見はありましたか。

選定委員長

調査委員会からの報告では、やはり東京書籍、学校図書、啓林館の導入の部分が良いということでしたが、具体的に付け加えていただければと思いますので、調査委員長、お願いします。

数学調査委員長

私も同様に、多様な考え方を伴った授業、または自発的な生徒の発想を伴う授業には、導入が非常に大切だと思っています。そういう面で見たとときに、やはり東京書籍がいろいろな分野を刷新していて、非常にチャレンジしています。生徒の興味・関心を引く新たな題材を取り入れたり、または前の題材をブラッシュアップして、プラスアルファの要素を加えて、生徒の発想がより生まれやすい工夫をしていると感じました。

教育委員

具体例があれば示していただけませんか。

数学調査委員長

東京書籍の1年生の9ページでは、先ほどの報告にもあったとおり、素数が初めて掲載されることになりました。今まで3年生に入っていた分野なのですが、それが1年生に入ったということで、他の教科書ではいろいろ苦心されて後付けのような形で入っているのですが、東京書籍は最初に九九から入っていきます。素数とはその数以外の約数がない数をいうのですが、九九の表の決まりを使って、倍数の中から素数の仕組みなどを自分自身で見つけられるような工夫がされています。これが東京書籍の一番大きな違いです。

2年生の178ページは統計の分野で、四分位範囲と箱ひげ図があります。これも実は新指導要領で新たに入った部分です。これも各教科書、どのように入れるか非常に苦心している様子が見られたのですが、東京書籍ではコンビニエンスストアの売り上げをどうやって分析するかということで、生徒の興味・関心を引き、見開きで非常に凝った構成をしています。新たに入ったところでは非常に顕著なのですが、それ以外のところでも今までと異なる導入を加えている点は、かなり力を入れていると感じました。

教育委員

情報を整理して数学的に考えるような課題がとても重要になっていると思うのですが、そういったものについての取り組みを具体例を示して教えていただければと思います。箱ひげ図などもそうかもしれないのですが、さまざまな情報をどのように整理するかといったものについてお示しいただければと思います。

数学調査委員長

統計は新学習指導要領で強化されている分野で、その顕著な例が、2年生で新たに入った四分位範囲のところですが、東京書籍2年生の178ページは先ほどのコンビニエンスストアの例ですし、啓林館2年生の172ペ

ージは、ちょっとした対話から入るのですが、いきなり箱ひげ図が出てきます。これは何を表しているのかという感じの入り方なのです。東京書籍の場合は、コンビニエンスストアで売られている商品について生徒が何か話し合っている場面から、こんなヒストグラムが出てきたけど、どうやって比べればいいのかという話をし、その次のページになってはじめて「こんな図があるのか」という入り方です。他の発行者の教科書になるといきなり「これを箱ひげ図といいます」という入り方もあるのですが、生徒がなぜこんなことを勉強しなければいけないのかと必要性をより感じる入り方としては、情報の整理という面でも、私は東京書籍の方がいいと思いました。

教育長 今回の学習指導要領の改訂で、数学として一番変わった点はどこですか。

数学調査委員長 新しく加わった点は、今の箇所です。

教育長 他に変更点はありますか。

数学調査委員長 見方・考え方を働かせ、対話的な授業をするという観点から、新たな教科書として東京書籍はどのようにシフトしたという点も踏まえて、逆に啓林館は今まで考え方を重視した教科書だったのですが、そこからより丁寧さが加わっているというイメージを持っています。大きく変わったという点では、各教科書でやはり対話を重視しているところがあって、金沢型学習スタイルのような入り方のページがいろいろな教科書に入っています。学校図書も分かりやすく入っているのですが、その辺で授業の流れが非常に対話型、アクティブラーニング型になっていることが、今回の学習指導要領に沿った大きな変更点だと思っています。

教育委員 数学は話し合うことがなかなか難しいという印象があるのですが、教科書を見ると、こういう点で話し合おうということが結構たくさん織り込まれていて、そういうことが促進されるのかなという印象を改めて持ちました。一方で、数学的な概念を蓄積していくというのか、一つ一つの言葉などもきちんと押さえられて、例えば先ほどおっしゃった素数など、いろいろな言葉を身に付けていかなければなりません。数学は特に、言葉を知らなければどうやって操作したらいいのか分からないことが多いと思うのですが、数学的な概念の積み重ねという点では、各者遜色ないと判断してもいいのでしょうか。いろいろ見比べると相違があるような気もするのですが、そのあたりは何かありますか。

数学調査委員長 遜色ないと思います。やはり講義型で「こういうことを覚えなさい」という授業では今の子どもたちはなかなか分かってくれないので、「なぜそれを覚えなさいといけないのか」という概念が新しく加わったような入り方が、より浸透しやすいと思います。全ての教科書が、必要なことを全て網羅していると思います。

教育委員 もしかしら、分かりやすさや分かりにくさがあるのかなという気がしたのですが。

それから、話し合いをしながら学びを深めていくスタンスが各者共通していると思うのですが、特に巻末の資料は各者で随分工夫されていると思います。学校図書は、協働学習の定義が巻末にあって、さらに掘り下げて数学の各学年の学びを深めていくようなものがどっさりとおったりします。巻末の資料があることの良しあしというのか、そこまで時間的に取り上げることができるのでしょうか。協働学習はみんなで学習するわけでは

から、自学自習ではないですよ。

例えば啓林館の場合、ちょっと角度が違ってくるのですが、このような形でまとめていたり、巻末の資料は各者工夫があるような気がします。これは特段、数学の授業を行う際にあった方がいいとか、こういう形のものがいいとか、本論からは外れるかもしれませんが、そのあたりはいかがでしょうか。

数学調査委員長

実は悩ましいところで、学校図書、啓林館は後ろからの巻末が非常に充実しています。私の経験上、以前は課題学習的というくくりで考えていたのですが、本来進まなければならない授業のプラスアルファとして、時間をつくりながらやっていたというイメージがあります。また、これをやる時にはどうしても、枠がきちんと与えられているとか、自分で時間をつくり出して入っていくことが大切だと思います。逆に言うと、そういう時間を確保すれば、非常に魅力的なコンテンツだと思っています。

先ほどの報告書にもあったとおり、これをどう捉えるかなのです。同じような発展的な内容は、東京書籍などでは散りばめられていますが、逆に巻末は前に比べて薄いという入り方なのです。逆に、啓林館は非常に分厚くて魅力的です。内容自体は東京書籍の方が魅力的だと私は思います。発展的な内容を確保しながらできることが担保されれば、非常に魅力的です。ただ、総合的に考えると、本当に全ての学校、全ての教員がそこまで使いこなせるかという点では難しいと思います。

教育委員

どの発行者も、ノートの手書きのようなものが結構書かれていたり、そうでもなかったりというところもあるのですが、そのあたりについて何か甲乙を付けられるようなことはありますか。

数学調査委員長

ノートだけでなく、レポートの手書き方を重視している教科書はあります。ただ、私自身は教科書を決定する材料には至らないというふうに考えています。

教育長

数研出版が分冊になっています。これは何か話し合いがありましたか。

数学調査委員長

前回、啓林館が分冊だったのです。これもいろいろ議論があったと思うのですが、結論を言うと、分冊の中には思考を必要としているような内容もあったのですが、やはり使いにくいということで調査委員会での評価は低かったです。

(選定委員長、選定副委員長、調査委員長 退室)

[数学：審議]

教育委員

数学は、一つの定理をいろいろと勉強して身に付けていくということだと思いますが、どの教科書を拝見しても、みんなで話し合いながら数学を楽しめるものにしようと努力されているような気がします。みんなで数学というものを勉強しながら、より進む生徒は問題の数をこなして行って、より身に付けていくということなのだろうと思いますが、その中で東京書籍が一番、そうでない人たちも関心を持つように配慮されていると思います。ダイアグラムについて東京書籍と啓林館と学校図書を見たのですが、私は学校図書の方がダイアグラムについて勉強するにはいいのかもしれませんが、そこまで勉強をする必要がなければ東京書籍の方が楽しそうだという感じを受けました。数学というのは、そういうところも大切だと思っています。

教育委員

私は関数のところを比較してみました。東京書籍は1年生の116ページ、啓林館は1年生の114ページになります。東京書籍が優れていると思ったのは、関数の問題の導入をプールの水量から考えさせて、そこから関数について必要な情報、変数や変域といった問題をきちんと学ばせた後、118ページでまた発展的な問題を複数解かせています。その後でまた、シュレッターの紙の問題に話を持っていきます。身の回りの問題に活用してみることで、勉強から実社会に持って行っていきます。そして最終的には、関数をどの場面で使ったらいいのかを考えさせている点で、とてもよくできていると感じました。

比較するものはいろいろありますが、啓林館の1年生の114ページでは、どんなところで関数の問題が出てくるのかという導入はあるのですが、そこから必要な情報を提供させて、そこで終わってしまっているという点では、やはり東京書籍が抜きこんでいると感じました。他者のものも見たのですが、やはり東京書籍が、関数というものをどう昇華させていけばいいのかということまで持っていつている点で、深い勉強になっていると感じています。

教育長

学ぶ内容ごとに比較されて、学びから生活に関連しているところがいいという意見でした。

教育委員

私も東京書籍の導入のところが、身近な話題から数学に発展させている点でとても入りやすいと思います。それから、1年生の最初に「算数から数学へ」ということに触れています。小学校までは算数で、中学から数学という名前になって、それは何が違うのか、どういう世界になるのかという点に触れている部分は、各者の中でも東京書籍がきちんと押さえてあり、子どもたちが数学の世界に入りやすくていいと思いました。

教育長

今のところ、お三方からは東京書籍が秀でていているという具体的なご意見を頂戴しました。

教育委員

今まで指摘されたことと共感するところが多いのですが、啓林館の良いところは、数学的に使う言葉がしっかりと色使いされ、これが大事な定理だということが分かりやすく示されており、数学を解く上でそれが必須なのだということが確認しやすい点です。そういう作りをしているのは他になかったと思います。先ほどの関数の部分について東京書籍と啓林館を比較してみても、数学に使われる大事な定理がしっかりと捉えられるように表記されている点はとてもいいと思います。

ただ、身近な話題から数学につなげていたり、それをどう使っていくのかという部分も重要です。数学は計算するばかりではないので、どこからどういう定理になるのか、何に使えるのかという活用の部分に目を向けていくことが必要です。啓林館も積み重ねの上でそれを発展する形になっているのですが、最初の入り口で抵抗感を感じている場合には結構入りやすく、東京書籍と比べると数学への入りやすさ、導入の工夫は劣ると感じられます。

東京書籍で、キャラクターがヒントめいたことをたくさん示しているのが良いのか悪いのかちょっと気になるのですが、数学への導きという点では、ナビゲーター役を果たすためにこういう助言の工夫をしているのだと思います。東京書籍の方が、数学を身近なものとして意識したり使ったりするという点で工夫が凝らされているので良いと思います。

教育長

私も司会をしながら思うのですが、先ほどからもよく出ていたように、具体的に子どもたちが食らいつくような工夫が東京書籍は非常にたくさ

ん散りばめていると思います。2年生のところに新しく入れた四分位範囲と箱ひげ図のところは確かコンビニの話でしたが、186ページには「学びを広げよう」という形で、先ほどの委員のお話にも通じるのですが、コンビニのデータ活用ということで実社会の中に持って行って、数学は単に学びだけでなく、生活にも使えるということをきちんと伝えている工夫が非常によくできていると感じています。

「算数から数学へ」というところも、確か教育出版は初めには書いてあるのですが、中身が何もありません。東京書籍は「0章」というものを作って、あえてそこで「算数から数学へ」から学びに入っているのも、大変丁寧な入りだという印象を受けました。

私も長年現場にいたのですが、最後に学年のまとめの箇所がたくさんあって、時々たどり着けなくなって「あとは春休みにやっておいてね」ということもありました。本当は教科書をしっかりやらなければならないのですが、なかなか厳しいときもあるので、その点では最後のところに散りばめている教科書の配列のようなところは、それはそれでいいのかなという感じは抱きました。

それでは、7者で挙手をお願いしたいと思います。

—挙手—

教育長

全会一致で東京書籍に決定します。

それでは、今日の結果について確認したいと思います。理科は啓林館、数学は東京書籍を採択することに決めたいと思いますが、いかがでしょうか。それでは、そのように決定します。

次回は8月28日（金）午後4時30分から開催したいと思います。種目は歴史的分野、公民的分野の順で審議したいと思います。長時間どうもありがとうございました。今日はこれで終わりにしたいと思います。

以 上

令和2年 第8回教育委員会定例会議 会議録（第4回）

1 日 時 令和2年8月28日（金）

開会 16時45分

閉会 19時45分

2 場 所 金沢市役所第二本庁舎 2階 2201会議室

3 出席委員（7名）

教 育 長	野 口 弘
教 育 委 員	田 邊 俊 治
〃	岡 能 久
〃	大 島 淳 光
〃	丸 山 章 子
〃	木 村 陽 子
〃	長 澤 裕 子

事務局 教育次長(兼)学校教育部長
担当部長(兼)学校指導課長
学校指導課担当課長(兼)課長補佐
学校指導課主席指導主事

加 藤 博 文
寺 井 義 春
青 山 雅 幸
貞 廣 賢 了

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

委員長

副委員長

松 原 道 男
加 藤 隆 弘

教科用図書調査委員

4 案 件

非 議案第27号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について (学校指導課)

5 議事の経過等 以下のとおり

議案27号について非公開で審議に入り、中学校教科用図書のうち、社会（歴史的分野）、社会（公民的分野）について採択を行った。

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 議案第27号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について（学校指導課）

○ 種目「歴史」

[歴史：説明の概要（選定委員長）]

7者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。東京書籍はA-1の項目9とA-2の項目7、教育出版はA-1の項目1とA-2の項目3、帝国書院はA-1の項目6とA-2の項目6、山川出版社はA-1の項目6とA-2の項目2、日本文教出版はA-1の項

目8と、A-2の項目8、9、10は領土に関する事で分けられなかったので、項目8、9、10をセットで特に優れているとした。育鵬社はA-1の項目4とA-2の項目3、学び舎はA-1の項目3とA-2の項目5だった。

質疑ではまず、A-1の項目2、3、9に関して、歴史のものの見方・考え方を生かして話し合わせたり、考えを深めさせたりしている発行者の特徴について質問があった。その回答としては、例えば東京書籍では具体例を挙げながら、どのように次につなげていくのか、子どもたちの会話や対話を引き出しながらまとめ、時代の特色をつかむ工夫がされているということだった。

次に、写真や絵図などの資料を活用し、それを読み取らせる観点から優れた発行者について質問があった。その回答としては、QRコードを使った映像や調べ学習にリンクを貼って博物館などの動画を見るなど、各者それぞれ準備をしており、中でも教育出版は、文化庁やユネスコなど文化遺産のサイトに簡単につながることができ、教室で使いやすくなっているということだった。

次に、A-1の項目1、2、3は、帝国書院、東京書籍の順で評価が高いが、何をどのように学ぶかという視点で見た場合にどのような話し合いがなされたのか、現行の育鵬社との比較から説明を求める質問があった。その回答としては、主体的・対話的で深い学びをどのようにサポートしていくか、会話・対話ができる工夫をしているかという視点で見たということだった。特に帝国書院では、時期や年代、推移、比較、相互の関連の視点を生かし、細かいステップで学んだことを確認しながら、自分の意見を持って意見を交わし、最終的に時代の特色を捉えられるように、具体的に細かなステップになっているので、生徒たちは取り組みやすい。育鵬社は、その時代の特色を体感し、学習のまとめの作業を手掛かりにして、この時代はどのような時代だったかということを考え、その理由と合わせてノートに書くことでそれぞれの考えをみんなで話し合うというもので、ステップが細かくないため、何からやったらいいのか分かりにくく、少し取り組みにくいという回答だった。

次に、A-1の項目1で、例えば東京書籍については「チェック」「トライ」という欄で2段階に分けているところが高いポイントになっているが、教育出版も「確認」と「表現」、帝国書院も「確認しよう」「説明しよう」という2段階をなしている。その他の発行者は、各章のまとめについて評価しているものもあるので、その評価の視点の違いについての質問があった。その回答としては、まとめの方でも基礎・基本は確認できるので評価したという回答だった。これについて、後ほど選定委員会の議論で、その観点から見ると育鵬社の評価を見直してもいいのではないかという意見があり、結果的には評価を見直した。

次に、「基礎的・基本的な知識や技能」の「技能」の評価について質問があった。その回答としては、どの発行者も基礎・基本の確認、知識に関することの押さえの場面が多く、特に技能について比べた評価ではないという回答だった。

次に、A-2の項目3「古代までの日本に関する事項」の評価で、神話の時代の話は歴史的分野を扱う上でどのぐらいの時間扱いで学んでいるのかという質問があった。その回答としては、時間をかけたり、何も触れなかったりという扱いはせず、例えば2ページの見開きがあれば、そこを他の授業と同じように押さえていくということだった。

関連して神武天皇の扱いについての質問があった。その回答としては、教科書で扱っていれば最初の天皇ということで押さえるし、扱っていなければ教師が日本の歴史を説明するときに資料等を用いて、触れることもあるということだった。

また、この項目についての質問で、評価が高いのは育鵬社、日本文教出版、教育出版だが、学び舎や東京書籍などとの差について質問があった。その回答としては、記述の量を比べたことと、質的には現代の自分たちが生活している身のまわりに神社が残っており、神社のお祭りの由来を調べさせるなど、生活場面に目を向けさせるような工夫が見られた点を評価したとのことだった。

次に、A-1の項目4で「伝統」「文化」「道徳性」という表現があり、教科書によってはアイヌの人々や琉球など民族的なものもあれば、神話につながるようなものがあるが、どのような評価をしたのかという質問があった。その回答としては、神話については『日本書紀』『古事記』をど

のように取り扱っているかという点を評価し、そのあたりの扱いがなされていないところでは琉球やアイヌの民族を大きく取り扱っている点について評価し、画像や写真、絵、あるいは裏付けになる資料を取り扱っていれば分かりやすいということで評価したということだった。

次に、元号の存在の説明についての質問があった。その回答としては、どの教科書も歴史の学習を始める前に、世紀による区分や近世・近代などの区分、明治・大正・昭和・平成・令和などの区分、西暦による区分など、時代区分の仕方を押さえて学習に入っているという回答だった。

次に、A-1の項目7、「本文の内容、挿絵、写真及び図などの扱いが、生徒の発達の段階に適しており」という項目で、学び舎が高い評価になっているが、育鵬社も同じように思えるという質問があった。その回答としては、学び舎は写真や絵が他者よりも非常に大きく扱いやすいからという回答だった。

その後の議論で、A-1の項目3は教育出版、帝国書院、学び舎の評価が高いが、東京書籍と育鵬社も同じような工夫がされており、東京書籍には「導入の活動」というコーナー、育鵬社は「鳥の目」の「歴史絵巻」や「虫の目」の「○○の世界へようこそ！」のコーナーがあるという意見があった。調査委員長に再度入っていただいて議論を行い、そのままの評価でよいという意見もあったが、最終的には東京書籍と育鵬社の評価を見直した。ただ、A-1の項目3については、各発行者の中でも帝国書院が相対的に優れているという評価だった。

また要望として、歴史を学ぶ理由については他の教科との関連もあって学べると思うが、昔の神話をツールにした文化的なものなどが縁遠くなっているのではないかと思われ、なかなか学べなくなっているのも、しっかりと力を入れて扱っていただくと良いという意見があった。

感想としては、新学習指導要領を踏まえて、どのように学ぶかといったところにかかなり対応した新しい教科書が出てきており、調査委員会の評価は妥当であると感じたという意見があった。その他、評価は変わらないが、表現の修正を幾つか行った部分がある。

[歴史：質疑応答]

教育委員

歴史の教科は、2年生で1年間かけて学習するのですか。

歴史調査委員長

1年生、2年生と、3年生の6月ごろまでかけて学習しています。

教育委員

2年半ぐらいずっと使っていくということですね。他の公民や地理と並行するのですか。

歴史調査委員長

地理は1，2年生で、歴史は1年生から3年生の6月頃まで、公民は、原則、歴史が終わった後の3年生の7月頃から学習することになります。

教育委員

となると、1，2，3年生とずっと歴史の流れを追いながら学習していくことになります。発行者もとても多い科目の一つだと思うのですが、歴史は時間をかけて学習していくので、2年半費やして学ぶ理由は、そういう歴史の大きな流れをつかむところにあるのだらうと思います。ずっと追いながら学んでいっても、なかなか現代にたどり着かないということはないのですね。

歴史的な流れやプロセスを丁寧に追うことで理解することが大きな趣旨だと思いますし、併せて新しい学習指導要領では、自分でつかみ取ってさらに掘り下げること大きなうたい文句になっているので、歴史的事実をしっかりと身に付けて理解すると同時に、自分で調べたり、話し合ったりして学び合ったりする要素も重視されていると感じます。自分で調べたり、学び合ったりする観点で、何か特徴的なことがあればお伺いします。

歴史調査委員長

調査委員会で、評価の高かった東京書籍と帝国書院と育鵬社でお示ししますと、東京書籍の94、95ページは、中世を学習した後のまとめのページになっています。左側のページで学んだことの基礎的・基本的なことを押さえ、右側の「探究のステップ」の一番下に「探究課題」というものがあります。これが一番大きな課題です。そこに迫るために小さなステップを二つ踏んで、「中世ではどのような勢力の成長や対立が起こったのでしょうか」という「探究課題」につなげていきます。東京書籍で特徴的なのは、その次のページです。さらに「まとめの活動」で様々なまとめ方、ここではXチャート、Yチャートを使って、古代と比較しながら中世の特色を探っています。続いて146ページ、近世のまとめでは、章のまとめをした後、マトリックスやピラミッドストラクチャーといったまとめ方もあるということを紹介しながら、様々な形で子どもたちの意見を引き出すとする工夫がされています。

続いて帝国書院の93ページも中世のまとめの部分で、左側で年表や地図を使いながら学習の確かめを行い、右側ではこの時代の特色をつかむために、これもステップ1、ステップ2、ステップ3という小さなステップを踏んでいて、班や友達と意見を交わし合いながらステップ3に向かっていきます。

育鵬社は、101ページの左の方に、年表や地図も使って時代をまとめることになっていますが、最後のまとめが6番のところで、「この学習のまとめの作業を手掛かりにして、この時代はどのような時代だったかといえるかを考え、その理由を合わせてノートに書いてみましょう。また、それぞれの考えをみんなで話し合ってみましょう」という課題が出てきます。しかし、小さなステップは踏んでいなくて、子どもたちにとってはややとっつきにくい印象がありますが、章のまとめのところで少し対話をさせながら、様々な考え方を示しながらまとめていくという特徴があります。

教育委員

教科書の記述はそれぞれ特色があると思うのですが、授業を進めていく際には、教科書が基本になるので、それぞれの教科書の記述はとても大きな意味を持つと理解して差し支えないでしょうか。あるいは、教科書には様々な特色があるので、そういうものを先生方がアレンジされるのでしょうか。やはり教科書がベースになるので、教科書の違いが授業の進め方の大きな違いにつながっていくのでしょうか。そのあたりは先生方それぞれだと思いますが、大きな特色としてどういう傾向があるのか、伺えればと思います。

歴史調査委員長

教科書によって表現の違いはあると思いますが、やはり学習指導要領を基本にしているので、歴史的事象について、様々な考え方がする場合などには多面的・多角的な意見を引き出しながら進めていくことを基本に授業を行っていきます。

教育委員

現行の歴史の教科書は育鵬社と伺っていますが、育鵬社について、東京書籍、帝国書院と比べてみてどう思われますか。私は、新学習指導要領に沿って、それぞれ新しい教科書ができていると思いますが、どうでしょうか。

歴史調査委員長	<p>学習指導要領が変り、東京書籍、帝国書院は主体的・対話的で深い学びを意識して、先ほどお示したように、章のまとめのところを細かくしたり、対話の場面を工夫したりしてはいますが、育鵬社もその点については工夫がされていると思います。</p>
教育委員	<p>新聞報道等で、2022年度から始まる高校の新学習指導要領では、近現代を中心に日本史と世界史を統合した必須科目「歴史総合」が新設されると聞きました。高校生になると近現代史がどんどん深掘りされていく流れがある中で、中学校の教科書ではこの分野についてどれくらいのウエートを置こうと先生方は思っているのでしょうか。</p>
歴史調査委員長	<p>現在の学習指導要領から近現代史は重要視されています。先ほど、委員から「最後の方まで終わらないことはありませんよね」という話がありましたが、最後まで終わらないことはありません。現在を生活している子どもたちには、日本の近現代史の特色を、世界の動きとの関わりの中で理解できようようにすることにウエートを置いて、時間をかけて教えています。</p>
教育委員	<p>そういう視点から各者をどのように評価しているのでしょうか。</p>
歴史調査委員長	<p>どの発行者も近現代史をおろそかにすることなく、重点を置いて作成されていると感じています。</p>
教育委員	<p>先ほど歴史は、1年生からスタートして2年生、3年生で学び、その後、公民に入っていくというお話をさせていただいたと思うのですが、歴史と公民の関連性は教科書において必要なものなのでしょうか、全く別個のものとして捉えたらいいのでしょうか。</p>
歴史調査委員長	<p>社会科における地理・歴史・公民の関連性は非常に大切に、重要視しています。例えば東京書籍の150ページ、真ん中の左の方に、ジョン・ロックという人が掲載され、その横にピンク色と青色の三つの小さな丸があります。これは公民や地理と関連した事象・事項であることを示しています。それから、151ページの右側のアメリカ独立宣言のところにもマークが付いていますが、ここは地理・歴史・公民の三つにまたがって関わっているところであるということを表示しています。地理で学んだアメリカのことを振り返らせたり、民主主義政治や大統領制のことなどを関連付けたりしながら進めていくこととなります。</p>
教育委員	<p>そういう観点では、どの教科書が優れていると評価していますか。</p>
歴史調査委員長	<p>A-1の項目6に当たるところかと思います。東京書籍は、今示したとおりです。帝国書院は、38ページが一番下です。小学校での既習事項や小学校で習った人物名や事項には「(小)」という表記があると思います。帝国書院も各単元の下の方に地理や公民との関連という項目を持たせて、分かりやすく表現しています。</p>

教育委員	<p>歴史の中でQRコードを授業などで活用することはあるのでしょうか。それから、領土・領域に関する記述については、各発行者の評価がそんなに大きく変わらない印象を受けるのですが、実際のところはどのようなのでしょうか。</p>
歴史調査委員長	<p>QRコードは、現行の教科書には載っていないので、生徒に動画を見せて考えさせたいときには、パソコンを持っていったり、YouTubeを流してみたりして、教員が準備するのにひと手間かかるのですが、QRコードがあれば、端末機器でその場で映すことも可能です。</p> <p>東京書籍の5ページを開けるとQRコードがあって、QRコードを写し取ると画面が出てきます。子どもたちが家で学ぶときには、小学校の復習ができるような簡単なクイズがたくさん出てきます。動画も出すことができます。</p> <p>帝国書院は、例えば148ページを開けるといろいろなコンテンツがあって、教員が授業で映す機会が多いNHKの「10min.ボックス」という10分程度の番組があるのですが、学習のまとめのときなどにこのままQRコードで出せるので、非常に使いやすいです。子どもたちも家で見ようと思ったら見られるようになっています。</p> <p>領土・領域については各発行者ともページを割いて、日本の領土であることの法的根拠を写真や地図、資料などで示しているのですが、それほど差はありません。学び舎はあまりページを割いて表記してなくて、欄外や脚注の形で触れた程度なので、このような評価になっています。</p>
教育委員	<p>QRコードの評価としては、どれが一番使いやすいですか。</p>
歴史調査委員長	<p>各者それぞれ工夫していて、一長一短あります。育鵬社は今回、QRコードがありませんでした。また、山川出版社は動画やQRコードはあるものの、記載されている数は少ないなど、各発行者様々でした。</p>
教育委員	<p>伝統や文化に関する取り組みについて、どの発行者の内容が充実が図られているかという観点で見ると、A-1の「伝統と文化を尊重する態度」は、帝国書院、日本文教出版、育鵬社が工夫されていて、他者と比べて高い評価であるのご報告いただきましたが、伝統文化についてどのような評価基準なのか、教えていただけますか。</p>
歴史調査委員長	<p>各時代いろいろな文化が取り上げられているのですが、作品の写真などが非常に大きく取り上げているのは、例えば帝国書院132ページの江戸時代の元禄文化のところは、非常に色映えがして、金色がとてもきれいに出ています。大きな画像でその作品の素晴らしさが表現されています。138ページの化政文化のところも非常に判を大きく取ってダイナミックな表現をしています。化政文化のところは、さらにページを使って、文化のつながりが理解できるよう展開が工夫されています。帝国書院は、全てではないのですが、文化を取り上げている箇所は4ページ扱いしているところが幾つかあります。画像も大きくてきれいです。</p>
教育長	<p>確認なのですが、QRコードがない教科書は育鵬社ということでしたが、</p>

	学び舎はありましたか。
歴史調査委員長	ないです。
教育長	<p>学び舎と育鵬社がないのですね。QRコードは今回初めて中学校に登場したので、ない発行者もこれから研究して次回の改訂時には設定されると思っています。ないのは2者であるということを確認しました。</p> <p>今回、学習指導要領が随分変わって、特に変化が大きかったと思うのは、まとめの部分です。どの教科書も学習指導要領を意識して、まとめを非常に充実させていると思っています。限られた授業時間数でこれだけのことができるのかと率直に思ったのですが、いかがですか。</p>
歴史調査委員長	<p>まとめについては、発達段階を踏まえて、教員が工夫して取り組ませる場合が多いように感じます。例えば、1年生では、教員が穴埋め形式になった文章を提示し、そこにキーワードを入れてまとめを完成させたり、2年生では、教員が書き出し文を提示し、その続きを自分の言葉で考えて書かせたりします。そして、3年生では、すべてのステップを自分で踏んで、まとめを自分の言葉で書かせるようにしていきます。</p> <p>このように、まとめに関しては学年が上がるにしたがって、だんだんとまとめる技術が身に付いていき、まとめの時間も短くなっていくと思われま</p>
教育長	<p>全部は使わないかもしれないけれども、いくつかは使えるのなら、それを使うことによって力を高めていき、最後の集大成として3年生での時間内できちんとできるようになるという考えでよろしいですか。</p>
歴史調査委員長	はい。
教育長	<p>もう一つ確認なのですが、先ほど委員がおっしゃられた近世と近代のところの評価については、調査委員会でA-2に関していろいろ調べていただいているものを活用すればいいのですね。</p>
歴史調査委員長	そのような捉えで、お願いします。
教育委員	<p>まとめに関して各者様々な工夫をしていることを確認しましたが、逆に最初の導入部分はどうでしょうか。各単元では課題が設定されているのですが、例えば中世でスケッチやイラストを使ってかなり注目されるような工夫を導入にしている発行者もあります。導入部分での工夫や特色などで強調されるようなことがもしあれば教えてください。</p>
歴史調査委員長	<p>東京書籍の98、99ページ、近世の最初のところを見ると、いろいろな武士、町人、百姓、商人の絵を並べて、近世の人たちの様子を捉えようということで、99ページの上の方にある「みんなでチャレンジ」では、どんな人たちが描かれているのか、班で対話しながら、この時代の興味を持たせる仕組みになっています。近世の一番のテーマが99ページの下「探究課題」ということで、「近世ではどのようにして社会が安定していっ</p>

たのでしょうか」というテーマが最後のまとめにまた出てきます。これについて勉強していきます。そのためのステップとして1、2、3があって、見通しが持てるということで、大体どんな勉強をするのかということを見通しやグループで話し合いながら進めていく形が取られています。

帝国書院の同じところを見ると、102、103ページの「タイムトラベル」というところで、安土桃山時代について大きな図版を取りながら、「僧侶などから武器を取り上げています。これはどこで見られますか、どこにありますか」「縄とものさしで田の広さを調べています。どこでやっていますか」というふうに、絵を使いながら最初に興味を持たせる形で、各章の最初に大きく見開き2ページで、興味・関心を引くようなページを取っています。

教育長

選定委員会では評価についていろいろな議論がありました。例えば育鵬社の162、163ページの文明開化のところがとても良いのではないかと評価も出ていました。それぞれの発行者の工夫があるのだろうと思うのですが、これまでのご質問の中では、基本的に説明は東京書籍と帝国書院と育鵬社がほぼ中心になっているのですが、今出ていない教科書の中にもこんなところが良いのではないかとこの点がもしあったら、教えてください。

歴史調査委員長

最初に委員長からも説明があったと思うのですが、教育出版の42、43ページの右下、最後のまとめのところですが、「表現」ということで、学習をした後、最後のまとめを自分の言葉で説明できるように、1時間の課題のまとめが書かれています。45ページは「確認」「表現」ということで、大事な項目を事項で確認し、それをさらに自分の文章で説明するという2段階のものを各時間きちんと入れています。

山川出版社の良いところは、102ページの近世の導入のところなのですが、年表を日本史と世界史の上下に分けて、図版も上が日本、下が世界となっています。高校では世界史の学習もあるので、それにつなげる興味付けというか、もっと知りたい子どもたちにはこれを使って世界史もどんどん自分で勉強していけるようにしている点が大きな特徴になっています。

日本文教出版は、章のまとめのところの157ページです。東京書籍、帝国書院と同じように、左で年表や地図を使ってまとめ、最後は課題に対してステップ1、2、3、「アクティビティ」と書いてありますが、近世の特色に迫るための工夫がされています。

学び舎は、他の教科書と違って非常に大判になっています。86ページの近世の最初のところですが、図版が非常に大きいことと、北極を中心とした地図をどの章の最初にも置いて、図版と結び付けながら興味・関心を持たせているところが特徴になっています。

(選定委員長、選定副委員長、調査委員長 退室)

[歴史：審議]

教育長

東京書籍と帝国書院と育鵬社の3者が比較的好く名前が出ていたと感じたのですが、よろしいでしょうか。教育出版、日本文教出版、山川出版

社、学び舎が駄目だというわけではないのですが、7者を比較する意見でも、3者についてのご意見でも結構ですので頂戴したいと思います。

教育委員

一つの視点として、各者それぞれの項目の中で、それがいつの時代の出来事かということに常に参照できるのが東京書籍と帝国書院と日本文教出版の三つで、常に教科書のページの端に年表が置かれています。学ぶ子どもたちにとって、今はどこの時代の話なのかを常に見返しながら学べる点は迷子にならなくていいと思いました。

それから、西洋を取り扱うときも日本では何時代だったかが分かる点は、高校生になったときに世界史と日本史を総合的に学んでいく上で、日本では何時代のことだったかを振り返ることを反復して行っていることはとても意味があると感じました。

教育長

世界史と日本史をしっかりと比べながら歴史を見ていく上でそういった尺度があれば、意識しながら学べるということですね。そういう意味では大事なことではないかと思います。

教育委員

歴史には流れがあるので、いろいろな出来事を理解していくことがこまめに必要とされる教科だと思のですが、それぞれの時代がどういう時代だったのかを大づかみでイメージすることも一方で大事だと思うのですが。詳細に描くことはなかなか難しいとは思いますが。先ほど質問したように、どういう時代なのかというイメージをつかむ上で、最初にどういう示し方をするのかはとても大事なことだと思っていて、先ほど委員長からも説明がありましたが、写真はなかなか難しいですけれども、イラストを工夫してこういう時代だったということを示している教科書は、時代を大きくイメージする上で評価できる作りになっているように思います。

そう考えると、帝国書院や東京書籍、育鵬社あたりは、その時代がどういう時代なのかということをつかめる点でかなり工夫されているので、時代のイメージを生徒たちがつかんで、どんな時代にどんな出来事が起こったのかをさらに詰めていく上では使いやすい教科書だと思います。

教育長

各時代の導入部分でしっかりと見通せるような入り方をしているということですね。

教育委員

私も東京書籍と帝国書院と育鵬社の3者に絞ったらいいのではないかと思います。「みんなでチャレンジ」というコーナーや「技能をみがく」「章の学習を振り返ろう」「歴史のターニングポイント」があるのは、ネーミングは違って、考えて話し合う工夫ができていて、どれも優劣付け難いと思っています。学校からの報告書を見ると、東京書籍、帝国書院の評価が高く、続いて育鵬社となっていますが、私は育鵬社の教科書も同等ではないかと思っています。それぞれ新学習指導要領を踏まえて、とても工夫され、分かりやすく、伝統と文化に関する内容では育鵬社の「人物クローズアップ」「歴史ズームイン」などで学びを深める工夫がたくさんできている感じがします。

また、「なでしこ日本史」というのも歴史を動かした女性を取り上げており、私は興味深く拝見したのですが、中学生にとってはどうなのかとい

うのは、教える先生方のお考えもあると思います。歴史というのは、教える先生によっても随分違うと思うので、同じ教科書で学んだとしてもだいぶ違ってくる教科ではないかと思いました。

教育長

何か核心を突くような話ではないかと思いました。今までのご議論や質問内容を拝聴していますと、東京書籍と帝国書院と育鵬社の3者に絞りながら話を進めていく方向でよろしいでしょうか。では、ここからは東京書籍、帝国書院、育鵬社に絞って選定を進めたいと思います。

教育委員

QRコードがある教科書とない教科書で随分違ってくると思うのですが、これは評価基準になるのですかね。これからの教科書はやはりあった方がいいのか、なくても内容できちんとカバーしていればいいのか。

教育長

このあたりは評価が非常に分かれるのではないかと思います。事務局に聞きたいのですが、QRコードが設定されているかどうかで評価を変えていいのでしょうか。文部科学省等から何か通知等がありましたか。

事務局

特に通知等はありませんでした。QRコードについては、あればそれを活用するのは当然です。なければ、今現在もそうですが、動画を含む様々な資料等が各学校にありますので、それらを十分活用して学習が行われます。

教育委員

教科書の評価についてはどうですか。

事務局

QRコードは資料ページの一つのツールとお考えいただけたらいいと思います。

教育長

教科書の真ん中に本文があって、その周りにいろいろな資料があって、それと同等な感じと捉えればよろしいのですね。

事務局

そのとおりです。

教育委員

私もこの3者に絞り込むことについては同意見です。正直、どれも内容的に非常に優れているというか、申し分ない内容になっているので、あとどこを削っていくかという話になってしまうと思うと、東京書籍が非常に優れてはいて、量的にも「探究のステップ」などを踏んでいって、それに対してかなり深く学ぶ内容もあるのですが、時間的にここまでできるのかというのも心配なところです。東京書籍と育鵬社を比べると、育鵬社はそういう意味ではちょっと物足りない部分はあるものの、時間的な問題などが気になってはいるので、そこだけ考えると帝国書院と育鵬社がいいと思います。これは本当に完全な主観です。

教育委員

育鵬社は「虫の目で見ると」が各時代の入門のような箇所であって、それがとても楽しいので、その時代を勉強していくに当たって入り込みやすいと感じています。いろいろと細かく授業内容や指導のことについて、確かに東京書籍は満遍なく書いてあるように思いますが、育鵬社は最初の「日

本人の誕生」から、106ページの「近世の世界へようこそ」あたりを見てもとても楽しい感じで、歴史を身近に感じていくようなシステムになっているのではないかと感じています。

教育委員

私も3者それぞれ良いところがあると思っていて、どれがいいかというのは言い切れないのですが、東京書籍は新学習指導要領の求めるところをきちんと押さえているという印象です。ただ、かちっとしていて、実際のところ、柔らかさがない印象もあります。ただ、押さえるところはしっかり押さえていると思います。帝国書院に関しても、主体的・対話的であったり、金沢型学習スタイルの「自分で考えて、みんなで話し合う」という部分も展開しやすい作りになったりしていると思います。育鵬社は、歴史上の人物一人一人を取り上げている内容が多くて、人物の写真がとても多いのです。その人物一人一人のことについてとても深く書いてあるところがたくさんあって、そういう意味での深い学びはできる点で良さを感じています。ちょっと今はまだはっきりと、ここがいいとは言い切れないのですが。

教育委員

歴史を通して学びを深めることはとても大事なことなので、全体をどう俯瞰するのかということと同時に、一つ一つの単元がどういうふうに積み上がっていくのかということに目を向けていくと、小さな学びのステップを重ねていって理解を深める作りになっているかどうかということが、説明の中にもあったと思うのです。

各単元の積み重ねをしていく上で、スモールステップで学びを深めていって全体をしっかりつかむ作りになっているのかという点で見ると、東京書籍と帝国書院は、各単元できちんとチェックして、さらに説明できるように学びを深めていくという、いわゆる2段階でしっかりと学びを深めることを各単元で工夫した作りになっていると思います。帝国書院は「確認しよう」「説明しよう」という形の表現ですが、各単元でしっかりと学びを深めて蓄積するという点で、2段階の学びを深めるステップが踏まれていて、これも工夫があると思います。それに対比して考えると、育鵬社は全体をつかむための1段階のステップにとどまっているので、学びを深めようという観点からすると、東京書籍や帝国書院の方がかなり工夫が見られると思いますので、このあたりは重視したらいいと思います。

さらに補足すると、中身に関しても同じようでありながら、記述の仕方はそれぞれ執筆スタイルがあるので、微妙につかみ方が違います。先ほど委員がおっしゃったように、人物にスポットを当てているかどうかという違いもあるようです。結構丹念に読んでいくと、人物に注目して政治史的な流れを重視しているものもあれば、その人物がなぜそういうことを行ったのかという、いわゆる社会経済史の面から、なぜその時代にそういう振る舞いをした人がリーダーになっていったのかという作りになっているものもあります。

社会経済史にまで及んでどんな作りをしているのかという点に注目してみると、例えば「武士の登場」などは歴史的にとってもエポックなことだと思うのですが、武士がどうやって生まれてきたのかという記述を見ると、東京書籍は結構、知識を整理する形で記述されていて、定番的なというか、知識重視の作りになっていて、育鵬社は人物にスポットを当てた形

になっています。その点で帝国書院はとても読みがいがあったと思います。いわゆる荘園が増えて、それを取り締まる形で、社会経済的な背景の中で武士が登場したのがやはりエポックなところで、また、なぜ南北朝があのよう形になったのかとか、人がいてそうなったわけではなくて、そういう人が活躍をする舞台や背景があつていろいろな出来事が起こるので、そういう社会経済史的な背景に目を注いでいるのは帝国書院だったように私は読み取りました。

まとめの部分は、東京書籍が結構こまめに提示しながらまとめようとしているので、それはそれで特徴なのですが、個々の歴史的な記述の仕方や、それをどうやって理解していくのかというステップの取り方、時代を俯瞰するようなつかみの部分、各時代の基本的な理解をしっかりとまとめ、さらにそれを話し合つて深めるといふ全体的な作りを見ると、帝国書院が歴史的な理解を深めるといふ点では良いと思いました。

教育長

まず、東京書籍と帝国書院を見たときに一つ違うと思ったのは、東京書籍のまとめの部分の多面的・多角的な学び方のところがちょっと弱いと思いました。むしろ帝国書院の方が、多面的・多角的に学ぶという項目がきちんとしつらえてあります。ですので、これからの歴史を見ていくときに、単に賛成派だけでなく反対派や中立派の意見の人も大事にしている点で、いろいろな選択肢を通しながら歴史を見ているので、私は東京書籍よりも帝国書院の方が秀でていたと思います。

多面的・多角的という点であれば育鵬社にはないのかというと、育鵬社も「歴史のターニングポイント」など設定されています。現行は育鵬社を使っていますが、子どもたちの学力が上昇傾向にあることを考えると、この教科書を使ったから駄目だったのだという評価にならないと思っています。

金沢市は、これから多面的・多角的なものの見方を大事にしようという考え方を出しているのです、どちらかというといふ帝国書院と育鵬社でものを見ていったらいいのではないかと自分なりに思っています。確かに東京書籍はきっちりし過ぎていると感じます。手堅いだけでも、子どもにとって歴史を親しみやすく感じるかどうかと考えたときにどうかなと私も思いました。

教育委員

私が歴史を学んでいた時代は、出来事をひたすら一生懸命覚えていったのですが、歴史というものは過去の事象を多面的・多角的に捉えて、いろいろな要請や考え、背景、利害などがぶつかり合つて出来上がった事象を学び、これから自分たちが生きていく社会をどのようにより良くしていくかということにつなげていく学問なのであり、とても面白くて深い学問なのだということを今さらながらに学ばせてもらいました。これから学んでいく子どもたちがそういったものに触れていけることは本当に素晴らしいことだと思っています。

まさに多面的・多角的な考察がとても重要になってきているのだろうと思いますし、新学習指導要領でもそこが指摘されているということでぜひ伺いたかったのは、育鵬社の教科書の中で、多面的・多角的な考察に関する記述はどこで見られるのか、ぜひこの場で共有できたらと思います。

(選定委員長、選定副委員長、調査委員長 入室)

教育長 歴史の教科書は多面的・多角的な学びがとても大事なのではないかと
いう話をしていたのですが、特にその中で帝国書院は多角的・多面的な学び
をしっかりとしつらえてあるのですが、育鵬社ではそういったところが見
られますか。

選定委員長 選定委員会で結構議論になったのは、学習指導要領の方向性として、い
わゆる事実を覚えるだけではなくて、自分の考えを持って対話をして深め
ていくというところだったので、その点でA-1の項目1、2、3あたりの
の評価が高かったのは帝国書院や東京書籍でした。多面的・多角的とい
うと、対話の中で様々な見方や考え方があることに気付くということが挙げ
られると思います。調査委員長、補足説明はありますか。

歴史調査委員長 多面的・多角的な見方・考え方が表れるのはやはり章のまとめのところ
だと思います。

教育長 例えば、帝国書院の巻頭のところを見ると「多面的・多角的に考えよう」
というところで、青塗りできちんと示してあるのです。それに従ってペー
ジを繰っていけば、そこに出ています。育鵬社でそれに匹敵するのは例え
ば「歴史のターニングポイント」だろうと思っているのですが、いかがで
しょうか。

歴史調査委員長 98ページの「歴史のターニングポイント」は、日本の武士がなぜ元軍
を撃退できたのかということ、もしも日本がモンゴルに負けていたら現
在の日本はないという点で、これが歴史のターニングポイントになってい
るのだということを示しています。ここで、もしも負けていたらとか、様々
な資料を用いて、変わった角度から歴史を捉えるようなことをするペー
ジが、「歴史のターニングポイント」として何か所か準備してあります。99
ページでは、『私の歴史博物館』をデザインしてみよう」ということで、
これも章の終わりのところに、その章で学んだことから、自分だったらど
のような資料を置いてこの時代を体感させるかということを考えるペー
ジがあります。「私の歴史博物館」をデザインしてみよう」は、教科書の
最初から最後まで貫き通している手法であり、そうして時代を捉える点で
も多面的な捉えになっていると思います。

(選定委員長、選定副委員長、調査委員長 退室)

教育長 3者に絞り込んだのですが、その後の議論で育鵬社と帝国書院の2者に
絞り込んでよろしいでしょうか。

教育委員 異議なし

教育長 では、最終的に帝国書院と育鵬社に絞り込んで、審議を続けたいと思
います。

委員は、どちらかという帝国書院の方が秀でていてのではないかと
いうご意見だったと捉えているのですが、それでよろしいでしょうか。

教育委員

はい。

教育長

委員の皆さまからあとしばらくご意見を頂戴して、採択しようと思いま
すが、いかがでしょうか。

教育委員

正直まだ迷ってはいるのですが、帝国書院がすごくいいと思った点は、
導入のところでの「タイムトラベル」です。非常に興味・関心を引く内容
で、私は面白いと思いました。この絵は何を表現しているかとか、次の場
面を探してみようというところからすごく入りやすい導入になっている
と思います。さらに、先ほどから出ている多面的・多角的のところもそう
いうコーナーがあって展開しているところがとても良いと思います。

それに対して育鵬社の方は、人物にすごく焦点を当てており、「なでし
こ日本史」のところでも、女性ばかりなのですが、その人の生き方が非常
に映し出されています。その点では中学生の生き方のところにもつながっ
ていく内容というか、そこがすごく良いと思っています。やはり歴史上の
人物の生き方を見ながら、自分と照らし合わせて自分の生きる力につなげ
ていく学習がもしかしたらできるのかなという面で良いと思っています。
両方とも良いところがあって、ちょっと迷ってはいます。

教育委員

逆に私は導入の部分で、育鵬社の「歴史の旅を始めよう」というところ
が、何のために歴史を学ぶのかが非常に分かりやすく書かれています。人
物にクローズアップするのも、こういう考え方から来ているのかというこ
とが明確に書かれていて、自分だったらどうしたんだろうかということも考
えられるというか、その点では導入部分で、何のためにということが非常
に明確に書かれているので、導入部分では私は育鵬社の方がいいと思いま
した。それから、この中で日本の歴史を100年=1cmで表しているの
はなかなか面白い考え方だと思って、この導入部分は非常に魅力的だと思
いました。

教育長

それぞれに良さがあるのですよね。

教育委員

私は、育鵬社の方が歴史について子どもたちの興味・関心が高まるよう
な書き方をしているのではないかと思います。やはり歴史について興味を
持つことが多くないといけないでしょう。自分たちもそうだったのです
が、ずっと年表に基づいて用語を暗記していただくだけではなくて、各時代
の流れや歴史の始まりのことなども結構興味深く書いてあるので、導入部分
としては良いのではないかと感じています。

教育長

今のお話を伺っていると、いろいろな良さがあり、悩みながらも育鵬社
の方が良いのではないかとのご意見が出ましたが、帝国書院もいいです
という話もありました。

教育委員

歴史をどう見ていくのかというのは難しいところがありますが、先ほど

ご指摘があったように、育鵬社は最初に歴史の面白さのようなことを表現しています。

他方、帝国書院の場合は、歴史はどうやって調べ、どういう見方をしていけばいいのかということが巻頭の数ページを費やしてまとめられています。それを見ると、支倉常長の写真を取り上げたりして、歴史的素材を手掛かりに歴史を推測する形で、歴史を知らない人を意識したまとめ方を導入部分でしています。一人で考えることもさることながら、グループで考えていこうという取り組み方について一例を提示しているのは、歴史は単にいろいろな事実や出来事を記憶してだけでなく、残っているものを手掛かりにして、そこからさらに探っていくことが学びを深めていく上で大事だからだと思うのですが、そうした一つの着眼点を最初に数ページ費やして、歴史は面白いということを具体的な例を通して挙げているのも、なかなか今までにない教科書の作りではないかと思っています。新しい学習指導要領に合った、みんなで考えていこうとすることも工夫して書かれている点もとても興味深く感じましたし、それぞれの箇所目の注目の仕方も、いろいろクエスチョンを設けながら、歴史的な資料のどこに目を向けていくと理解がより深まるのかということがかなりこまめに提示されています。

育鵬社も工夫は随所にあるのですが、そういう面で比較して見ると、帝国書院は導かれるように考えを深められる点がとても興味深いと思いました。

教育長

いわゆる史実や中身も大切だけれども、学び方というところも大切にせねばならないということですね。今日の議論はそちらの方向での話を中心になっていると思います。そんな感じでよろしいですか。

教育委員

育鵬社の「歴史のターニングポイント」は、例えば150ページを見ると、鎖国が日本にとって良かったのかというテーマです。一番下のピンクのところにもさまざまな視点が挙げられていて、これを基に子どもたちがいろいろな意見を交わすことが予定されていますし、多面的・多角的な議論も期待できる素材なのだろうと思っています。一方、帝国書院は144ページに「多面的・多角的に考えてみよう」という項がありました。赤穂事件について考察するもので、それについてさまざまな意見がそれぞれの立場から、吹き出しのように出てきていて、一つの事件をさまざまな視点から見えています。それを踏まえて右のページでは、この事件に関する資料がいろいろと出てきて、最終的に自分たちで話し合ってみようというものになっているので、とても完成度が高いという印象があります。

私の意見としては、帝国書院の素材を使って子どもたちが勉強を進めていくと、高校への勉強につながっていくのではないかと思います。

教育長

委員のご意見は、同じ多面的・多角的な流れでも、完成度でいうとやはり帝国書院の方が上だろうということですね。

両者の教科書の良さをたくさん出していただきましたし、どちらになってもおかしくないと思っています。各委員の皆さんが、これでご自分の意見は変わらないということであれば採択に入りたいと思います。採択に入ってもよろしいでしょうか。

帝国書院と育鵬社で挙手をお願いしたいと思います。

—挙手—

教育長

育鵬社が4、帝国書院が3です。育鵬社に決定してよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

教育長

それでは、社会（歴史的分野）は4対3で育鵬社に決定したいと思います。

○種目「公民」

[公民：説明の概要（選定委員長）]

6者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。東京書籍はA-1の項目1とA-2の項目4、教育出版はA-1の項目5とA-2の項目1、帝国書院はA-1の項目3とA-2の項目2、日本文教出版はA-1の項目7とA-2の項目5、自由社はA-1の項目5とA-2の項目7、育鵬社はA-1の項目4とA-2の項目6だった。

質疑ではまず、公民の学習時間についての質問があった。その回答としては、公民的分野の学習は原則、歴史的分野の学習を終えた後、3年生の6月下旬、または7月上旬から始め、時間数は100単位時間で、2月下旬から3月上旬あたりで学習を終えるということだった。それに関連して、いろいろな内容があって分量的に適切なのかという質問があった。その回答としては、現在の教科書では内容を全て終えて入試に入っているということだった。

次に、A-1の項目2、3の、課題を追究したり解決したりする活動における各発行者の特徴について質問があった。東京書籍は、グループで協力しながら取り組む対話的な活動コーナー「みんなでチャレンジ」が、分野のバランス良く21カ所ある。教育出版は、個人やグループの活動で技能や表現力を養うコーナー「公民の技」が10カ所、分野ごとにバランス良く入っている。帝国書院は、主体的な学習を行う特設ページ「アクティブ公民」が10カ所、ロールプレーやディベートなどの特設ページ「技能をみがく」が10カ所の計20カ所ある。日本文教出版は、見方・考え方などを用いて学習内容の理解を深め、主体的・対話的な問いや活動を行うコーナー「アクティビティ」がさまざまな分野で38カ所あり、最も多い。自由社は、章ごとに1、2カ所、全体で7カ所程度、話し合っ自分の考えを深めるための特設ページ「アクティブに深めよう」がある。育鵬社は、本文の学習に関連して個人や班で取り組む作業や活動を行うコーナー「やってみよう」があり、見開きで取り扱っている箇所が4カ所、本文脇などの囲み欄の小さなところに13カ所の計17カ所ある。

次に、A-1とA-2を合わせて東京書籍、帝国書院、教育出版、育鵬社の評価が優れているようだが、何をどのように学ぶかについて議論されたかどうか、またその視点からどの教科書が生徒にとって学習しやすいかという質問があった。その点については、特にA-1の項目1、2、3がポイントとなり、どの教科書も甲乙付け難い良さを持っていること、その中でも新学習指導要領の「どのように学ぶか」を実践している教科書ということだった。

次に、A-1の項目9に関連して、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるような教科書が適切と思われるが、課題設定の点で工夫している発行者はどれかという質問があった。東京書籍は「みんなでチャレンジ」、教育出版は「公民の技」、帝国書院は「アクティブ公民」、日本文教出版は「アクティビティ」が特に授業でも使いやすいということを報告書にも記載したという回答だった。

次に、A-1の項目2において、東京書籍の「思考課題」と帝国書院の「探究型の課題」の違いについて質問があった。帝国書院の「探究型の課題」は、深く事象を追究していくという意味で

書いたという回答だった。

その後の議論は主に感想が述べられ、報告書の評価については概ね妥当であるという感想だった。特に帝国書院や東京書籍は学習指導要領改訂に当たっての観点に立ったときに高く評価できる、帝国書院はA-1の項目2の思考力・判断力・表現力を育成するための工夫がなされていることが良い評価を示しているという感想があった。

同じく、東京書籍と帝国書院の評価がよく、両方とも最初に学習課題の形で、生徒に考えてほしいというところから入っていること、「確認しよう」「説明しよう」という項目があつてさらに深められる形になっているという感想があった。

公民的分野の学習は、全体の中身を覚えて答えるというよりは、これからの社会を生き抜く上で自ら調べて考え、社会を生き抜くための基本的な学習や体験・経験をさせることが求められており、考えさせる問い掛けやさらに深く考えさせるための仕掛けなどから、今回の調査委員会が出した評価は極めて妥当であるという感想があった。

細かいことになるが、東京書籍と帝国書院は分かりやすく、特に帝国書院では金沢市役所が取り上げられており、金沢市の中学生にとって身近で意義のあることだという感想もあった。

要望としては、例えば憲法改正の議論に関しては、投票に行く年齢も下がり、議論されるべき内容がある中で、公民分野を学ぶ意義が重要になっており、投票に行くモチベーションにつながるような教え方をしてもらいたいという意見があった。

[公民：質疑応答]

教育委員

北方領土、竹島、尖閣諸島などの領土・領域についてのA-2の評価を見ると、日本文教出版、自由社、育鵬社の評価が非常によく、東京書籍、教育出版、帝国書院はそこまですらないということでしたが、その基準を教えてくださいませんか。

公民調査委員長

評価のよかった3者については、扱っているページ数、資料が豊富である点から他者と比較して、よい評価としました。

教育委員

公民の場合は、今の社会をどう理解するかという点でとても大事な役割を果たしていると思います。選挙権も18歳からになっていますので、中学生にとっても身近な社会の動きを知ることはなおさら大事です。そうした観点から、現在の公民は政治・経済・社会の動きをつかむ構成になっていますが、現在の社会を理解するため、興味を引きつけるための導入に工夫はあるでしょうし、もちろん内容についても現在の社会の様子をスライドや写真を満載して作られているように思います。

どのようにまとめていくのかということに関しても各者で工夫があると思うのですが、導入・展開・終末の三つの柱で授業を想定して、新しい学習指導要領と照らして大事な作りをしているという点で、注目すべき教科書があればご指摘ください。

それから、現在の社会の動きをつかむためにいろいろな写真が掲載されていて、先ほどお話があったように金沢市役所のことが取り上げられていて、生徒にとっては実際に足を運んで調べるのいうってつけだと思います。主計町が取り上げられていたり、「こども食堂」が取り上げられたりして、金沢のこともかなり意識して取り上げられているのはとてもいいことだと思います。

他方で気になることがあって、育鵬社の社会権に関わる内容だと思いましたが、62ページに「こども食堂」の写真が掲載されています。円光

寺の「こども食堂」が取り上げられていて、リアルな現実なのでその写真を通して学ぶ窓口にはなると思うのですが、具体的な子どもたちの様子が写真で紹介されているので、何か事前に了解があって写真が掲載されているのだろうかという感想が教科書展示会でありました。現在の社会の様子を知る上で写真の掲載はとても大事なことだと思うのですが、写真の取り扱い方にはかなり注意を要します。特に「こども食堂」の写真などはそうではないかと感じたのですが、そのあたりについても議論があったのでしょうか。

事務局

写真の掲載については、文部科学省から石川県教育委員会に対し、次のような通知文が届いており、「今回、株式会社育鵬社より送付された中学校社会科公民的分野の見本本について、本文中に掲載された写真の一部に許諾の得られていない事案が確認されたことにより、発行者より、訂正依頼等の検討がなされているところです」とあります。このことを踏まえて県教育委員会からは、育鵬社の中学校社会科公民的分野の教科書見本本については、発行者からの申し出により閲覧は行わないこととする旨の指示を受けています。従って、県教科書センターでは閲覧は行っていません。

公民調査委員長

調査委員会では、写真自体に関して、特に議論はありませんでした。

教育委員

最初の質問で教科書の導入や内容、まとめ方に関して、各者様々な工夫していると思うのですが、とりわけ注目すべきことがあればご指摘いただきたいと思います。

公民調査委員長

どの教科書を使っても、先生方は恐らく1単位時間を教科書の見開き1ページで授業を作っていると思います。その中で、教科書の単元の初めに学習課題などが載っていますので、それを基に展開し、さらに学習課題の答えになるまとめを目指して授業を進める形になっています。

その点で、教科書として評価が高かったのは東京書籍、帝国書院で、どちらも各章の最初に導入の活動のようなものを置いています。2者とも大きな見開きの資料を載せていて、ここから一つの章を展開していく形になっています。

例えば東京書籍の6ページを見ると、章の初めに絵画資料が載っていて、ここから展開していく形になります。そして7ページの上の方に、章の中の節の課題を設定していて、節が終わるごとに、この課題についてはこういう答えがある、こういうまとめができるのではないかと載せています。さらに東京書籍は、1節ごとに探究のステップの問いに対して答えを求める活動ができるようになっていますし、さらに隣のページでは、1章で学んだことを振り返ることができるようなつくりになっています。帝国書院も似たような形を取っていると考えます。

教育委員

A-1の項目9に当たると思うのですが、冒頭の説明で「みんなでチャレンジ」や「公民の技」や「アクティブ公民」のページがそれぞれ何カ所ぐらい記載されているかという話があったと思います。これに対して分量的に適切であるとか、これは多過ぎるのではないかとといった議論はありましたか。

公民調査委員長	数に関してまでは特に議論はなかったのですが、大きく取り扱っていて数が少ないものもあれば、細かく取り扱っていて数が多いこともあるので、全体のバランスを見ながら調査委員会で判断していきました。
教育委員	基本的に、出ている箇所については全て授業内で実施されるのでしょうか。それとも、どれかを選んでいるのでしょうか。
公民調査委員長	教師が扱いやすいところ、生徒にとって効果的などころを把握しながら提示していると思います。
教育委員	A-2の項目3に関連して、主権者教育に関する評価では、東京書籍と帝国書院が他の発行者と比べて評価が高いようですが、この点について具体的に説明していただけませんか。
公民調査委員長	政治分野ということによろしいですか。
教育委員	はい。
公民調査委員長	分かりやすいところでは、東京書籍の106ページに「模擬裁判をやってみよう」というページがあり、実際に生徒が授業で裁判をシミュレーションしやすくなっていると考えられます。帝国書院の91ページ、「アクティブ公民」では、裁判の判決を考えようというページが作られています。このように、実際に裁判員として参加することで、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判があることについて、体験できるようになっています。こうしたシミュレーションや、自分の身になって考えられるページがある点で非常に優れていると考えています。
教育委員	先ほどの「こども食堂」の写真については、議論が一切出なかったということですか。
公民調査委員長	一つ一つの写真について全て議論することはなかったということです。
教育委員	この写真はそのまま載るのですか。
事務局	最終的な対応についてはまだ聞いていません。
	(選定委員長、選定副委員長、調査委員長 退室)

[公民：審議]

教育委員	各者とも、社会とのつながりや仕組みをかなり意識したものになっていると思っていますし、課題解決型という形でいろいろな工夫がなされ、ロールプレイングやディベートなどが身近な題材で組み込まれているものが非常に多く見られます。その中でもやはり調査研究書の評価どおり、私は帝国書院と東京書籍の2者に絞ってはどうかという意見です。
------	---

教育委員

私も東京書籍、帝国書院、それから育鵬社が心に残りました。

東京書籍は、各章を貫く探究課題がはっきり明記してあって、「みんなでチャレンジ」というコーナーでは身近な問題を考えてみんなで話し合う工夫がされている印象を持ちました。

帝国書院は、生徒たちにとって身近な題材で興味や関心を抱く工夫がされているという印象があります。それから、小学校の地理や歴史との関連がはっきり書いてあること、野村萬斎さんへのインタビューで、社会の中で生きていることを意識する公民の意味という内容がとても印象に残りました。各章の初めにある「見通そう」というコーナーも非常に分かりやすいですし、身近な問題として一人暮らしにかかる費用を考えるなど、一人暮らしになったらどうするかということをも自分で考える力を養う工夫ができていたと思います。

育鵬社は、なぜ公民を学ぶのかという概念図が非常にいいと思いました。自分以外の者のためにも努力し活動できる人が公民であるということや、文化に関して意義という言葉で、文化が生活に与える影響などを丁寧に説明してあること、先人がいて自分たちがいるということをはっきり明記してあること、そして、日本の領土・領域を巡る問題についてさらに深く考えようというページがあって、これはいい点として取り上げるべきだと思いました。

教育委員

各者、形式は先ほどの歴史ととても似ているのですが、公民の勉強をするに当たって、帝国書院は40年前と今の社会を比較するところから考えさせています。先ほど委員もおっしゃっていたように、公民は何を教えるかということ、今の社会をどう理解するかということであり、導入の仕方がとてもいいと思います。導入から実際の情報化社会やグローバル社会というふうな、今の社会のいろいろな問題に入っていく形はとても分かりやすいと思います。

東京書籍も、「T市のまちの様子から現代社会を眺めてみよう」というところから現代社会について学んでいく形式は導入として非常にいいと思います。それと比較して育鵬社は、もう少し導入に工夫が必要だと感じました。

教育委員

今まで議論に出ている三つの発行者に絞ることには異論はないのですが、1点だけ、自由社の立憲民主主義についての記述がとても充実しています。44ページから、世界の中で立憲民主主義がどのように生まれてきたのかということやその考え方を取り上げ、最後に「アクティブに深めよう」ということで立憲主義の大切さについて議論しています。さらに第2節では、日本の立憲的民主政治のところがとても厚く展開している点でとても優れていると思うのですが、バランスとしては別だと思うので、この点は素晴らしいと感じました。

教育長

それでは、そろそろ絞り込んで審議を深めていってよろしいでしょうか。今挙がっているのは東京書籍、帝国書院、育鵬社ですが、育鵬社については先ほどから何回か質問が出ており、写真の使い方について問題があるという点が挙げられました。その3者で議論したいと思いますが、育

鵬社については議論の中に入れますか。

教育委員

リアルな現実を知る上で写真は効果的だと思うのですが、当事者に配慮して扱う場合には注意が必要だと思います。その点について、配慮が欠けていることに対しては、どうなのかという感想をもちます。

教育長

写真等の使い方についてしっかり配慮した方がいいという点については、それでよろしいですか。その点を踏まえて東京書籍もしくは帝国書院で話を進めていきたいと思います。これまでの議論で地理も歴史もそうでしたけれども、両者ともそれぞれ何かしらいいところが多いと思いますが、いかがですか。

教育委員

2者に注目しますと、先ほども委員からご指摘があったように、今の世の中をつかむために、帝国書院の方が東京書籍に比べて取り上げ方を工夫していると思います。それから歴史でもそうだったのですが、各単元の整理の仕方というのか、ステップの積み上げに関しても2段階あり、工夫が見られる点も評価していいと思います。

とりわけ将来のことを考えると、法律や政治の仕組みをどう理解するのかというのは、実際に法律でなくてもクラスや学校の中での決め事をどうやって定めるかというのは民主主義や政治にもつながることなので、日常の小さな経験として、政治をどう理解してそれを学校内での実践にどう生かしていくのかというのはとても大事だと思っています。民主主義の理解の仕方、例えば多数決にはどういう意味があるのかとか、ディベートは決め事をしていく上でどのように大切なのかという点で東京書籍と帝国書院を比べると、帝国書院の方がかなり丁寧に記述されている印象を持ちました。

内容に関しても、最初に憲法が取り上げられているのが帝国書院で、国家権力はなぜ必要なのかということからスタートして、権力の意味やその危うさも含めて、民主主義や立憲主義などについてずっとつづられています。東京書籍はそのあたりが通説的です。帝国書院は何らかのストーリーを描きながら徐々に決めていくプロセスの大事さを記述しているように受け止めましたが、東京書籍は用語の理解のところにちょっと意識があるような記述の仕方という印象を持ちました。ですので、帝国書院の方が、読んでみると理解を積み上げていく上で読みやすい記述になっているのがとても印象深いです。

教育委員

委員に全く同感です。帝国書院は、29ページから展開している民主主義に関する記述がとても読みやすいですし、知識を詰め込むというよりも、本当にストーリー性があって難なく入っていくことができます。そして、33ページの「アクティブ公民」では、自分たちの生活に照らし合わせて具体的に考えられる点がとてもいいと思っています。どちらも第1章の最初のところで現代の課題が示されています。第1章が現代社会についてで、第2章から日本国憲法や民主主義に入っていくのですが、東京書籍は第1章の「現代社会と私たち」が36ページとかなり多く、ちょっと長い印象を持ちます。一方、帝国書院は現代の課題に関して比較的コンパクトにまとめられていて、29ページから民主主義と日本国憲法に入っていきます。

コンパクトに現代の課題に切り込んで、速やかに第2部の日本国憲法、民主主義に入っている帝国書院の方がいいと思いました。

教育長

ご意見を伺うと、帝国書院でいいのではないかということだと思いますが、それでよろしいでしょうか。

私も帝国書院の方がいいという認識を持っています。まとめのところを読んでいても、子どもたちが学びやすいだろうと思いますし、ディベートのところなどを見ても、今日的な課題を通して非常にしっかりと取り扱っていると思います。どちらかという帝国書院の方が一歩上を行っている感じがします。

それでは、東京書籍と帝国書院の2者で挙手をお願いしたいと思います。

—挙手—

教育長

全会一致で帝国書院に決定します。ありがとうございました。

今日予定していた2種目がこれで終わりましたので、今日の審議の確認をします。歴史的分野は育鵬社、公民的分野は帝国書院ということで決定しました。

これで令和3年度使用中学校教科用図書の審議を終了しますが、金沢市としての決定を最終確認させていただきます。国語は光村図書、書写についても光村図書、社会は地理的分野が帝国書院、歴史的分野が育鵬社、公民的分野が帝国書院、地図も帝国書院、数学は東京書籍、理科は啓林館、音楽一般は教育芸術社、音楽器楽合奏も教育芸術社、美術は光村図書、保健体育は東京書籍、技術も東京書籍、家庭も東京書籍、英語も東京書籍、「特別な教科 道徳」は日本文教出版に決定しました。

委員の皆さま、4日間にわたり大変熱心なご審議を頂き、本当にありがとうございました。以上で教科書採択に係る教育委員会議を終了します。

以 上